

◎物産

米、豆、麥、野菜、蚊帳、生糸、繭、温純

◎名所神社

○西門館跡

停車場前にあり、葛西晴信臣千葉越前道胤天正七年より同十三年まで住せし所、今は某の別荘となれり、眺望甚だ佳

○郷社遠流志別石神社

日本武尊を祭る、延喜式内栗原郡七座の内なり、停車場より廿五丁、道路平坦なれども、人力車半ばに通ずるのみ、毎年舊三月九日、九月九日の兩日祭典を擧ぐ

○村社五十瀬神社

天照皇太神、猿田彦命、日本武尊を祭る、停車場より十九丁、道路平坦人力車を通ず

花泉停車場

(みいづな)

上野より二百六十六哩十九鎖〇公衆電報取扱

岩手縣陸中國西磐井郡花泉村にあり、戸數五百餘、人口凡そ二千を有する村落にして、此驛と次驛一の關との間に、延長八百八十呎の有壁隧道あり、此隧道を出れば、仙臺以北全く分れて進みたる古の奥州街道を見るを得べし

◎古跡

○義經の墓

停車場を距ること西方一里十五町有壁驛の西に在り、義經自盡の後沼倉小次郎高次なるもの之を葬り其陵墓を建つ、此地は高次の古館地にして上に山あり、辨慶ヶ峯と稱す往昔辨慶經歷の地なりといふ

○津久毛橋

有壁驛より國道を南に行くこと一里半許、澤邊村に在り、源頼朝泰衡を攻むる時梶原景高詠歌の處なりと、今は僅かに一小圮橋を存するのみ

◎旅店

油屋、佐藤屋、金澤屋、阿部屋

◎物産

生絲、繭、麻、葉蓑、編笠

一 關 停 車 場

(いちのせき)

上野より二百七十三哩七十三釐五分間以上停車〇洗面場あり〇乗換所〇入場切手發賣〇辨當販賣

岩手縣陸中國西磐井郡一ノ關町字吸川小路に在り、一ノ關は往昔田村氏の城趾にして一に磐井といひ國道の要衝に當り、北上川の南岸に在り、人口七千有餘、岩手縣下に於て繁華盛岡に次ぐ、石巻へは北上川の川蒸氣船の便あり、氣仙沼、今泉等またこゝより下車するを可とす

〇官 術 學 校

郡役所、警察署、區裁判所、郵便電信局、稅務所、小林區署、及び尋常中學

〇 銀 行

八十八銀行、一關貯蓄銀行

〇 旅 店

石橋ホテル、山本旅館、龜屋

〇 料 理 店

富月館、清風亭、清風館等なり

〇 劇 場

磐井座

〇 物 産

生糸、真綿、麻、芋、酒、醬油

〇 公 園

〇御館山公園 町の中央にありて眺望頗る佳なり、頂上に坂上田村麿を祀り、又八幡神をも合祀せり、祭日は毎年四月十八日及九月八日(何れも舊曆)の兩日なり  
〇蘭梅山公園 は町の西北にして山の目村にあり、停車場を距る二十丁、遠く平泉の野を望み春秋遊覽の好適地たり、山上に配志波神社を祀り、又山腹に大槻磐溪の墳塋あり

〇 佛 閣 名 所

〇願成寺 一ノ關町は釣山にあり、北上川を隔て、藤原秀衡が京都の東山に擬

したる東稻山をば打望み、西北には夏面白き酢川嶽を仰ぎ風光極めてよし、什寶には慈覺大師藥師如來、不動明王の二像其他あり、會式は四月と九月との兩八日に執とら行す

○五串の瀧

又嚴美ともいふ、岩井川の上流にあり、一ノ關より二里半人車を通

ず(賃錢往復四十錢)、瀑布を一名玉瀧とも稱し、大小三瀧あり、奇岩怪石碧潭に散布し兩岸の風景真に佳し、昔者義經常に杖を曳き、伊達政宗來遊したる遺跡あり、中流に一飛橋を架し名けて天工橋と云ふ、近傍に嚴美橋の碑あり、碑文は松崎慊堂、題額は白河樂翁なり、幸田露伴こゝに遊び紀行あり、この一節を録す

人力車を僦ひて嚴美に向ひ發す大町地主町を駈け抜けて磐井の河の假橋渡れば花川戸とかや申して主に旅の衆に投げの情をかけまくもかしこき手管ありや無しや女郎達の居玉ふところなり、それより鍛冶町竹山橋次第々々に「ごろた石」多き路をたどりて田圃の間を行けば里の兒の用水に泳ぐ水車の轆る、いづれ田舎の常態ながら面白し杭打坂を下りて上り脊が鼻とかいふところにいたれば對岸の岩壁をて潭水靜かに湛へたる景色眼覺むるの心地すやがて五串に着けば聞きしに違はで

流れの態も尋常ならずとある家に一と憩して後溪のほとりを漫歩し徐に眼を轉じて水激し巖叫ぶ方を視下す小溪を成す皆岩なりといふてもよきほど岩石重疊して赤松其が上に生ひ碧水其罅を行く風情まことに塵外の想を發せしむ天工と名づくる橋ありて構造も俗惡ならず岩より岩に架け渡たせる様畫中のものなり、それを渡りて左りすれば小やかなる堂につきたるものありて觀覽の便宜となしあるにぞ下駄脱ぎ捨て、上り込み勾欄に頬杖突張りながら觀れば觀るほどよい景色にて少しく木曾の寢覺に似て趣きまた大きに異なれり彼は溪遠くして水に遠く臨川寺よりはたゞ對岸の岩の立てる河中の石の狀の奇なる淵の蒼々たる水の尾の瀨をなして走るを見るに過ぎぬど此は溪遠からて水に近く橋よりは瀧を見るべく堂よりは瀨を見るべく淵の蒼き岩の奇なる殊更岩の上に老松幾株翠を凝せる水の幾派にも分れて流るゝ固より此彼に優るとは云ひ難きも彼終に此が見たりとは却つて中々に稱し難しまことや寢覺は幾千の山坂を超えて後漸く到るを得べき境なれば都會育ちの老人女性には難義なる地なれど此地はかゝる好景の常として里遠きところにあるものなるに引かへ絹足袋穿いた弱柔男にもいと容易く駒下駄掛けにて行

かる、やうな市街(一ノ關)近く道好きどころには在るは眞に稱すべし爾のみなら  
て今は葉時なれど櫻の樹さへ少なからず見ゆれば花時の眺望如何に清絶美絶なら  
む想ひやるだに松の間を佐保姫の刺繍して出だす櫻花甲所に一簇の雪乙所に一團  
の白雲と現じなば流れも巖も一倍の光彩を發して水妙香を傳へ石落江を點する風  
流實に賞するに足ることなるべしと思はる松島は大にして麗嚴美は少にして奇な  
りなど日本三景の一とも云はるゝものを比較にとりて松崎復が溪橋の碑に記しせ  
しは些過ぎたる歎知らざれど此景で客舎さへ寢覺の「たせや」ほどのが有らば申し  
分なし

○骨寺 は五串瀧の北隣に在り、今之を本寺と云ふ、一説に本寺村蓮花谷に逆芝  
山と云ふありて、此處に慈惠大師の彌樓を瘞て建し塔あり、故に骨寺と號し、其寺  
趾及尼寺の跡あり、又平泉野と云ふ所ありて、野中に冷水あり、早懸といへども涸  
るゝことなし、即ち平泉の本源なりと、又山王窟あり堂は窟に據りて建てる有様、  
達谷窟毘沙門堂に類す、嘉祥年中中尊寺にも遷すと云へり

○達谷窟 嚴美より一里半許、平泉村の一隅にあり、昔し夷裔惡路王が據つて以

て暴威を揮ひし處なり、毘沙門堂は岩窟の中にあり、高さ三丈長さ九間、廣さ七間、  
桓武天皇の延暦廿年、征夷大將軍坂上田村麿東夷平治祈願成就の報賽として、山城  
國鞍馬寺を模し、九間四面の堂を創設し、百八軀の多聞天を安置し、鎮國の寺社と  
なす、即ち同天皇の御願所なり、附近に岩面大佛、姫待瀧等あり

○温泉

○水山温泉 五串の瀧を距る二里、猪の岡に在り、泉湯、眞湯の二日あり

○酢川温泉 停車場より八里の山奥にあり、道路峻峻にして入車を通せされども  
泉質、腹痛、僂摩質斯、黄疸等に効能あるを以て、夏季には來り浴するもの多し、  
この温泉は陸前、羽後、陸中の三ヶ國に跨がり陸前にては駒ヶ嶽といひ、陸中にて  
は酢川嶽といふ大山の麓に在り、此山高さ六千尺、山中八萬地嶽、胎内潜り、上の  
淨土などあり

平泉停車場

(みいづら)

上野より二百七十八哩二十六分○乘換所

岩手縣陸中國西磐井郡平泉村に在り、停車場の建てるあたり實に藤原清衡以下三代の遺迹なり、前は北上川に臨み、後は山に連り、衣川の清流其北を遶り、磐井の平原其南に開けり、往昔藤原清衡なる者あり後三年の役に源義家に従ひ、屢々戦功あり、賞として奥羽兩國の押領使に任せられ鎮守府將軍に補せらる、於此居館を豊田の里より此地に移せり、其子基衡父の霸業を繼て鎮守府將軍となる、基衡死して嫡子秀衡其跡を承け鎮守府將軍に任じ尋て陸奥守に拜せらる、源義經の京都を逃れ來り投ずるや容れて高館に入らしむ、秀衡死して泰衡之を承け、官祿父祖に超へて幸榮一身に集まる、文治四年義經追捕の命下るや、泰衡父の遺言に背き、義經を高館に襲ふて自刃せしむ、しかも其翌年に至りては、自から覆滅を速ぐに至りぬ、芭蕉翁この地に遊び、慨然として記して曰く

三代の榮耀一睡の中にして大門の跡は一里こなたに有秀衡が跡は田野に成て金鶏山のみ形を残す先高館に上れば北上川南部より流る、大河也衣川は和泉が城をめぐりて高館の下にて大河に落入る泰衡等が舊跡は衣ヶ關を隔て南部口をさし堅め夷をふせくと見えたり、俗も義臣すくつて此城にこもり功名一時の叢となる國破

れて山河あり城春にして草青みたりと笠打敷て時のうつるまで涙を落し侍りぬ

夏草や 兵 とももの夢の跡  
卯の花は兼房見ゆる白毛哉

竹 良

況んや、今も残れる金色堂、經藏など、藤原氏當年の建築の跡をとめて、停車場より十有八町、中尊寺に至る迄、いづれか秀衡義經等の歴史を語りぬけなく、袈裟が母の衣川もこのわたりにやありけん、安倍氏の誰彼もこのあたりに駒やとどめけんと思へば、誰かは深き感慨に打たれざるべき、今はたゞその什の一を録して、憑吊の客が探破のよすがとせん

○中尊寺 は停車場を去る十八町、人力車はなけれども、道平坦なれば婦人といへども行くに難からず、案内料は中尊寺、衣川柵趾、毛越寺を併せて、わづかに三十六錢なり、此寺は清衡の勅命を奉じ造營せし處なれども、當時の建築は建武年間大半焼失し、僅かに金色堂及經藏の二字漸く全を存するのみ、抑當寺は人皇五十四代仁明天皇の御宇嘉祥三年釋圓仁(則ち慈覺大師)開基に係り、初め經山の中央に一字の本堂を建て弘壽壽院と號す、其後清和天皇貞觀元年に中尊寺の號を賜ひ四境

を定めらる、後冷泉天皇の御宇天喜五年源頼義安倍貞任を征伐の時、日吉白山兩社を衣の關の月見坂に拜して戰勝を祈願し、凱旋の後膳澤郡なる斐尻、小前澤の二邑を寄附せり、堀河天皇の御宇長治二年勅命あり、藤原清衡をして當寺を經營せしめ天仁二年工を竣へ、堂塔四十余宇僧坊三百余宇成る、乃ち鎮護國家の靈場たるべしとて勅願所となし給ふ、山谷の間に甍瓦相並び殿閣樓臺の結構光彩赫耀として眞に海内屈指の佛界靈場たりしに、惜むべし建武四年野火延燒して堂宇悉く烏有に歸し、僅に經堂及金色堂の二字を残したり、金色堂は里人光堂と稱し、方三間の小宇なり、外部四面悉く龜布を張り黒漆して其上に金箔を貼し、内部は鐫柱彫梁悉く螺鈿珠玉を飾り、壇上には定朝の作阿彌陀、觀音、勢至、多門、持國、二天、六地藏等の十一體を安置せり壇下に清衡、秀衡、基衡の棺を藏め又泉三郎忠衡(秀衡の季子)の首棺を藏す、堂内の須彌壇たゞ一基にても、二萬圓を費し尙成らざるを憾むと、以てその最上の美術たるを得るに足らん、正應元年鎌倉將軍惟康親王其類廢せむことを虞れ套堂を建て四面を包み、屋上を覆ひ漸く今日に存するを得たり、堂傍石碑あり芭蕉翁の句を刻す「五月雨の降殘してや光堂」、金色堂に隣りて西北に經藏

あり天仁元年清衡建立す、當時は二階の堂なりしも、建武四年の災に上層は燒失せ其残りへ修理を加へたるものにて、三間四面の堂宇なり、柱の高さは礎石より一丈二尺、堂中に八架を設け、三代の寄附にかゝる一切經を納む、經函の廣さは七寸長さ一尺三分、高さ三寸五分、黒漆して蓋に青貝を以て經卷の題目を鏤め、部帙を見はせり、清衡の納めしは紺紙金銀泥にして、基衡は紺紙金泥、秀衡は黄紙宋版なり、堂の正面には毘首羯摩の作にかゝる文珠獅子、運慶の千手觀音、廿五部集白檀像等ありて、兩作孰れも精妙比類なし

内藤湖南このわたりを記して曰く

堂の側なる一碑は、かの五月雨の句を刻せるなり、平泉志の編者が、昔屋上といへども金箔を貼せしといふ古色の猶燦然たるを晴雨の中に見る景况、眞に想像すべし、此光堂の古へ其光遠く眼を射、川鮭も上らざりしと、俗間に言傳へたれば、宛も之を形容するが如しといへる、能く此句の妙を發揮するといふべし。金堂、多寶塔以下、過半は殘敗して墟と爲り、僅かに二十餘宇の堂塔、十八區の僧坊、老杉古檜、荆榛蕪穢の間に出沒せる中に、瓏瑤燦亂、靡麗を窮極したりし此

一字の儼然として存せるは、熾くが如き赫日の下に觀覽する吾だにも、一種蕭森深嚴なる感を生ずれば、まして五月雨の頃に觀たらん人の、無量の感懐に吊古の涙、留めあへがたからんも宜ならずや。吾は魯靈光殿の古事を想起して、誠に神明の依憑する所にやありけん、規制の星宿にや應じけんと、低回して輒ち去ること能はざりき。大槻磐溪が詩に、

三世豪華擬帝京。朱樓碧殿接雲長。唯今只有東山月。來照當年金色堂。

亦能く興衰の感を道ひ盡して、妙句と稱すべけれども、策白未だ脱せざるの嫌あり、若し吾が好む所に從はば、千古曇りなき東山の月の光よりも、寧ろ凄涼なる五月雨を賞せんかな。詩中に帝京に擬すといへるは、必ずしも泛説にあらずして伽羅御所、柳御所、東山などの名稱ありしより言ひしにもあるべく、近き邊りに大原ヤツセなどの村名さへありといふ。

其他、多寶塔舊趾、三重塔舊趾、閻伽堂、辨天堂、曰く何、曰く何、その委しきを求めば、終に際限なからんとす、寶什亦然り

○辨慶松、薄黒櫻 共に中尊寺の表坂下であり、孰も燒残りの憐れなる姿をと

むるのみ、辨慶の遺愛は其主公と共に抹殺され了んぬ、櫻川は昔の北上川にて、阿倍氏の時數十萬株の櫻花一時にこの川に落ちて浮ひしより此名ありしとも聞けど、今は表坂の下を過る三間許の小流に過す

○高館 は衣川館とも稱す、里俗之を判官館とも云へり、光堂の東方にありて八町餘を隔つ、地形は山上平坦の所、僅に十間より二十間程、東西南北八十間許り、高低三段にして、西北の高地に義經堂あり、これぞ源義經居館の地にして、文治五年閏四月晦日泰衡亡父の遺言を忘れ、兵を擧て館を襲ひ義經從士と共に防戦せしも其甲斐なく、遂に妻子を手刃して自殺せし舊蹟なり、此館趾當時は最と廣き地なりしも、後手北上川の流れ變じ、屢ば洪水瀰漫して館下の地を洗ひ、現今の如く斯く狹隘になりたり、往昔正門の地は變じて、崩岸絶壁數十丈、北上の曲流は其麓を噛み、後門の地は老杉隙なく樹こみ繁く白晝猶ほ暗し、裡に爪先登りの社堂に詣る細道僅かに通ぜり、辨慶の宅趾は高館の北に在りといへど確ならず、龜井松、鈴木松、兼房の碑等あり、その西南に金雞山あり、秀衡其象を富士山に擬し高さ數十丈に築き、黄金にて鶏の雌雄を作り、其山上に埋めて平泉の鎮護とせりなりと、又郷

説に秀衡漆一萬盃に黄金一萬を混へて土中に埋藏し、子孫に譲り傳ふと云へるは蓋し此所なるべし、其時の歌に

朝日さし夕日耀く木の下に漆萬盃こかねちく

○平泉館趾

停車場の前敷丁の處にあり、柳館と云ふ、嘉保元年清衡此館を營て居館となせり、基衡、秀衡も亦之に居り、秀衡の子泰衡も相繼て之に居れり、始め清衡江刺郡豊田館より是に居を移し、奥御館と稱せり、伽羅御所も之に屬し、今尙御所やしきと云ふ、其南に泉の酒趾あり、醴泉の湧出せる處と傳ふ、西木戸邸の舊趾は八花形とて、秀衡の長子西木戸太郎の居りし所、柳の御所は此北方にあり、前民部少輔藤原基成、義經共にこゝに居る、無量光院迹は迦羅御所の西隣にあり、宇治の平等院を寫せしものなりしと

○毛越寺

停車場より左折して十餘丁、金剛王院醫王山と號す、平泉館趾の西南に當り圓隆寺、嘉祥寺等を併せて總稱したる寺號にして新御堂、義經堂の如きも亦皆此寺に附屬せり、當山は入皇五十四代 仁明天皇の御宇嘉祥三年慈覺大師の開基に係り大師濟度の爲め東奥に巡歴し暫く錫を此地に留めて伽藍を草創し始て嘉祥寺

と號す、此時大師自作の醫王善逝の靈像を本尊として根本中堂となし秘法を修して久住を祈れりとぞ、此外堂塔伽藍を建立し自家無上の法を弟子圓觀等二七の僧衆に傳へ永く鎮護國家の祈禱所となせり、蓋し此處の地勢遙に王城の鬼門に當るが故なり、寺號は大師草創の初め、白鹿の毛山路を越えて導くに取る、堀河天皇の長治年中藤原清衡父子七堂伽藍を落成し、秀衡に至り、堂塔四十餘宇、禪坊五百餘棟全く具はる、爾來風雨幾百年、殘る所若干もあるなし、常行、法華二堂の外は、たゞ礎石の椽の裏に隱見するのみ、大泉の池も今は一心二字の池形を失ひ、舞鶴池は涸れて田と成ぬ、小阿彌陀堂趾の後、松杉影くらき處託しく立てる墓一基、「前鎮守將軍基衡室安倍宗任女墓」と刻せるは、後人の作なるべけれどあはれなり、寔に南大門趾の東端、國道の左に立てる芭蕉自筆の碑「夏草や」の吟こそ、この境の有様をいひつくして凄じ、素鳥といへる中導寺の僧侶、更に副碑を其傍に立てたり

○東稻山

平泉の故趾に向つて東に立てり、東山ともいふ、平泉志に曰く此山平泉(西磐井郡)に對し東より北に連亘して他山に接し秀峯清景畫くが如し、就中袴腰といふ山嶺、高く拙て、舞草山前面に蟠踞し、烏兎ヶ森の山勢突兀として東方に並



べり、樵路羊腸を攀ぢ溪壑幽邃にして山家林間に隠見せり、昔時阿部頼時此山に櫻  
花を植ゑたれど其木は既に枯れ絶えて今は唯昔の春を想像するのみ、然れども山色  
水光の美は平泉地方第一とす云々、藤氏三代の折には、北上川その麓をめぐりて鴨  
川の如く、山は緩く臥して東山に似たるより、東山とは呼びなしたりけん、湖南ま  
た流麗の文字を以て此山の事を記して曰く

三世九十餘年、都は日吉の神輿を昇き廻りて、朝廷に要請する山法師其の驕横な  
る、保元平治壽永文治と争亂打ち續きて、王朝の舊物藤氏の榮華も盡く、摧殘に  
赴むける折柄、奥羽二州の権力富貴を我物にして、太平の都城を一方に打ち立つ  
る事、五代に於ける吳越の錢氏に似て而かも彼れより長く且榮たれば、其盛時の  
さまはいかばかりなりけん、今は山水陵谷も處かはりて、北上川の流れ本の流れ  
に非らず、そが臣從市民がすまひけん址をも、定かには知り難けれど、規模の鎌  
倉に比して廣くとも狭くはあらざりけんとは、確に推し測らる、北上川を隔て面  
に背て睡まれる一山、温藉にして秀潤なるを何ぞと車夫に問へば、東稻山と答  
ふ。

聞もせず東稻山の櫻花

芳野の外にかゝるべしとは

と西行が詠みし昔はこと木は少く、峰巒に櫻のかぎり咲き亂れて、さながら芳野  
の面影あり、北上川に落散る花の吹雪は、六田の淀、柳櫻の渡にも似たりけん、  
今も北上に落る小川に櫻川の名を留めしは、實は北上の舊名なりとぞ、櫻は安倍  
頼時が植しにて、海陸三十里に亘りて、此山にても一萬植たりといへは、花の下  
に死なんとまて懷を述べ、幾たびか茅野の山路にたどり入り西行が、瞠若として  
邊地の壯觀に驚嘆せしもむべなるべく、奥の夷と侮り思へど、さすがに年を経し  
糸の亂れの詠に、大宮人を驚かしたる貞任宗任が父ほどはありて、その風流は後  
六百年、玉川上水の兩岸に櫻を植し有徳將軍にたぐへつべく、其壯舉は寧ろ其上  
に出たり、三衛の世の繁華も、淵源は此に存じたるべく、九十年間の經營のみに  
は由らじと覺えたり、山を又東山とも云ふは、三衛の當時洛東に擬したる名なる  
べしと考古家の説なり、今は萬株の花一樹もなくなりたれど、山の容のみは今も都  
びたる舊の形式を失はず、人をしてそゞろ故事を忍ばする種とぞなりにける

○衣川 停車場より約十三四町、辨慶が立往生せしといふあたりに鐵橋を架す、此川水源二派にして、其一は膽澤郡酢川嶽の麓より出て、其一は全郡下風山の下に出つ、増澤大平石納等の數邑を経て、其末北上川に合へり、其上流に衣の瀧あり高さ七丈二尺、廣十三間餘なり、此川站を産す、桓武天皇延暦八年三月征東將軍に賜ふ勅書に、官軍猶滯衣川云々官軍渡河置營云々と歴史に見えたり、本名最も古し、

よみ人しらず

袂より落るなみたはみちのくのころも川とぞいふへかりける

松近河といふことを

西行法師

ころも川汀によりてたつ浪は岸の松がねあらふなり是

○衣川棚舊趾 停車場より十四丁、西磐井郡平泉村大字中尊寺の衣川橋より五六町許衣川の上流に當り琵琶棚(安倍貞任兄成道の居館)と川を隔て、相對せり、安倍頼時、同貞任が居館にして櫻の古木存せり、是れ昔し棚外に植並べたる樹の残れるものなりといふ、里俗之を間斷櫻と言ひ、又棚趾を並木屋敷といふ、貞任が歌に「としをへし糸のみだれのくるしさに」とよめるは即ち此處なりき、東鑑に文治五

年九月二十七日頼朝卿安部頼時が衣川の遺跡を歴覽あり、廓土空しく残りて秋草鎖すこと數十町、礎石何處にか在る舊苔埋むと百餘年と記せしは此棚の事なり、下流には瀬原の棚あり、貞任の構ふる所なり

○衣の關跡 金色堂の西北にあり、東史に西は白河を界し十餘日の行程たり東外ヶ濱に據る又十餘日、其中央に當り遙かに關門を開き衣ヶ關と云ふ云々

順徳院御製

影さゆるよはの衣の關守はねられぬまゝに月を見るかな

和泉式部

道貞忘れて侍りける後みちの國の守にて下りけるにつかはしける

諸ともにたゝましものをみちのくの衣の關をよ所に見るかな

○衣の里 平泉村宇瀬原の邊より宇戸河内衣川村等の古名にして平泉郷に接すと見えたり

紅梅の衣のさと

中務美子

わきもこか衣の郷の梅の花さそくれなるの色に咲くらん

同  
春過ぎて夏のひとへにありながら衣の里は名こそかはらぬ

前澤停車場

(わさへま)

上野より二百八十三哩○公衆電報取扱

●岩手縣 陸中國膽澤郡前澤町にあり當驛は水澤に亞々驛にして戸數千三百餘を有す

◎交通

中尊寺へ一里二十四町、達谷窟へ三里、衣川村安倍頼時、貞任の城趾へ二里半

◎旅店

佐藤屋、太田屋

◎物産

漁網、鰯鮓、生絲、雪下駄等にして附近より米穀、木材、游炭等を出す

水澤停車場

(わさづみ)

上野より二百八十九哩三十八鎖

岩手縣陸中國膽澤郡水澤町にあり、水澤町は昔時仙臺の伊達將監の居館ありし處人口凡そ八千、繁華の地なり、岩谷堂町へはこゝより下車すべし

◎官衙

郡役所、區裁判所、警察署、稅務署

◎交通

盛岡市へ十四里二丁、一ノ關へ六里廿六丁、黒澤尻へ四里廿三丁、岩谷堂町へ二里七丁

◎旅店

龜梨秀吉、菱屋勘七、高橋善吉、石川鹽藏、石川勇五郎

◎物産

米穀、材木、漁網、牛紙、鰯鮓、草履、鍋釜類、川魚等

○公園 町の南端にあり、風景最もよし、高野長英の碑、駒形神社の遙拜所、臨時緯度觀測所等にこゝ在り

◎神社、佛閣、温泉、名所

○駒形神社 停車場より七里餘、彼の酢川岳の一面にして、當郡にては駒形山と呼ぶる、駒ヶ嶽に在り、古老の傳ふる所によれば、往古山頂に神駒あり、常に山岳に遊び、雪毛霞暈、覆る、後之を峯頂に瘞む、祠を立て之を祭る、故に神駒嶽と稱す神名帳の所謂駒形神社是なり、其山峻くして、宿雪晩夏に至るも消えず、其殘雪の狀、自から奔馬迅驅の狀となり、首尾耳鬣脚蹄の形殆んど具はる、これ地名の起る所以と、其遙拜所は即ち公園にあり

○永徳寺 停車場より二里許永徳寺村にあり、報恩山といひ、後圓融天皇勅願の靈刹、奥羽兩國曹洞宗の本寺、門葉凡そ四十八ヶ寺、維新前は非常なる勢力を有したりき

○大梅拈華山圓通正法寺 停車場より四里餘、江刺郡黒石村に在り、光明帝

貞和四年の開基、越前の永平、能登の總持兩寺と、曹洞の三區本寺たりき、寺寶に古文書古畫類極めて多く、山中佳境亦少なからず、靈犬塚、蛇形石、花立坂、瑞鹿碁、水晶山、等、等、荷くも古美術に志篤き人は一遊の價値あるべし

金ヶ崎停車場

かねがさ 上野より二百九十四哩十九鎮

岩手縣陸中國膽澤郡金ヶ崎村に在り、奥州街道の一小村にして、こゝまでを舊仙臺領とす、六原軍馬補充部支部へはこゝより下車するをよしとす

◎交通

六原軍馬補充部支部へ二里半、岩谷堂町へ一里半、嶽の温泉へ四里半

◎神社

○鎮守府八幡宮 停車場より十五丁、佐倉川村大字宇佐八幡とて水澤との間なる國道を右に五町許にあり、此地は鎮守府の舊趾にして九州宇佐八幡宮を遙請せし

所なり、其開基頗る古く且つ有名の神社なるを以て、参詣するもの常に絶へず

黒澤尻停車場

(じりさわ)

上野より三百哩十八鎮五分間以上停車

岩手縣陸中郡東和賀郡黒澤村にあり、これより南部領となる、當驛は元安倍貞任の弟黒澤尻五郎正任なるもの、住みし所にして一城廓ありしも、源頼義陸奥征伐の時攻陥さる、今は其城址を館と稱す、停車場を去る十町許、此地は秋田地方往來の要衝に當り戸數凡千餘を有し繁華なる市邑なり、前澤との間和賀川に千二百八十呎の鐵橋あり

◎交通

横手へ十六里、仙人鑛山へ五里、六原軍馬補充支部へ三里、水澤鑛山へ五里、秋田市へ三十六里、院内鑛山へ二十七里

◎旅店

南部ホテル、野村屋、會津屋、春風館、高友旅店

◎料理店

今野屋、東京屋、松葉館、梅月亭

◎物産

米穀、百合根、生絲、銅、麻繩、摺附木素木、揚物、芹、銚鐵

◎温泉

○瀨目温泉 停車場の西方七里岩崎村にあり、鹽類泉にして無色透明、溫度は華氏の九十八度を保つ、最も痲疾に特效あり

◎神社古跡

○稻瀨の渡 停車場の東南二十町江刺郡稻瀨村下ヶ岡に小瀧あり、稻瀨といふ、或は云ふ、舊時渡津のありしところは、此地を距る西十餘町の下流にして、鐘突屋敷と稱する地なりしと

陸奥のかど岡山のほととぎす稻瀨のわたりかけて鳴くらん 西行法師

時鳥むかしなからに來なくとも稻瀨のわたりとふ人もなし 讀人知らず

○丹内山神社 停車場の東方五里、谷内村に鎮座する御社なり、祭神は多通比古

の命にして、社傳によれば、上古蝦夷の崇拜せる神社なりと、境内に神池あり石橋を架し、飾るに青銅の擬寶珠を以てす、庭内老櫻樹萬株あり、又男杉女杉と稱する神木あり、男杉は周り三丈四尺、女杉は周七丈二尺、共に雲を摩す、神代の遺物ならんなど傳ふ、毎年陰曆八月一日を以て祭日とす

花巻停車場

(きまなは)

上野より三百七哩七十九箇

岩手縣陸中國稗貫郡花巻町にあり、此地は昔鳥谷と呼び、安倍頼時の始て城きし所に於て、天正十九年淺野長政九戸を鎮め、歸上の時南部信直と約し、其家人北秀愛に此地を守らしめ、始めて花巻と改稱したり、古へ北上河岸に櫻樹多數あり、暮春落花の候散りて水上に流る、花、逆巻く波にそひて流れあへず、暫し渦巻きて止まりければ里人花巻の淵と呼へりとぞ、人口三千餘を有す

交通

花

士澤町へ三里、遠野町へ十一里、釜石町へ二十四里、秋田縣六郷町へ二十三里、

官衛

郡役所、區裁判所、警察署、郵便電信局、稅務署、小林區署

銀行

花巻銀行、盛岡銀行支店

旅店

釜津田、狩野屋、後藤、鎌田、北田屋等

料理店

菊七亭、竹屋、菊屋、花屋、門茶屋

温泉、古迹、神社、佛閣

○鉛温泉 停車場より四里十九丁、同郡鉛村豊澤川の岸にあり、疝氣、腹痛等に

よし、新鉛温泉はこゝより數町を隔つるのみ

○臺温泉 停車場より二里十五丁、稗貫郡臺村に有り、脚氣中風痔疾疝氣諸症に

宜し、道車馬を通ずるに足る

○志戸平温泉 停車場を距る二里六丁餘稗貫郡湯口村に有り、豊澤川の岸なる岩脚より湧出す、金瘡疥癬等には頗るきゝめ有り

○大澤温泉 湯口村の東澤内街道より東に入る一町餘豊澤川の兩岸に有り、停車場より三里十九丁、源泉四所皆岩を鑿ち浴場を開き居れり、眼病痛氣諸悪瘡舊痼痼疾等に効あり

○鳥谷ヶ崎城趾 停車場より十一丁、花巻里川口兩町の間在り、昔時南部氏鎮南の名城にして、伊達政宗も此一城をば奈何ともなし得ざりしと、鳥谷ヶ崎神社は城主北秀愛を祀る所にして、城趾内に在り祭日は毎年舊八月十七、十八の兩日にして頗る賑ふ

○延壽寺觀世音 花巻町陽光山雄山寺にあり、本尊は閻浮檀金三寸布引觀世音にして、田村將軍東夷征討の持佛、又一體は舊城主北秀愛の守本尊、黄金二寸八分の觀世音にして、東國二十五番の札所となす、毎月十七日縁日にして、祭日は鳥谷ヶ崎神社と同じなり

○清水觀世音 停車場より三里、同郡太田にあり日本三清水の一と稱せらる

石鳥谷停車場

(やどり)

上野より三百十五哩六釐○公衆電報取扱

岩手縣陸中國稗貫郡好地村にあり、戸數二百餘、當地は古來より銘酒(七福神)蕎麥を以て名あり、殊に七福神は岩手の一品と稱せらる、米葉莖の輸出盛なり

○交通

大迫へ三里廿丁、日詰より大迫に達する縣道あるも、里程遠き爲め概ね當驛による、大迫は大藏省專賣支局のある所にして、煙草商人及び官吏の往復常に絶へず臺温泉へ二里卅丁、

○族店

天森、平野屋

○佛閣

○大興寺土佛觀世音

停車場より一里、永和元年中の開基にして、陰曆三月、九月の十二日、十七日の兩日は附近より參詣者多し

○松林寺子安地藏尊

停車場より三十一丁、文徳帝の皇后が祈誓し給ひし所に於て、日本六十六昧の其一なりと傳ふ、陰曆六月廿二日、廿三日の兩日は參詣者殊に婦人多し

○長谷寺長谷觀世音

停車場より三十一丁、田村廣護持の本尊を安置せるものにして、陸中三十三番札所の其三なりと傳ふ

○光林寺

停車場より一里餘、八幡村大字中寺林に在り、弘安三年の創建にかゝり境内寂寥、風光明淨、世に寺林館といふ、什寶極めて多し

日詰停車場

(めづひ)

上野より三百十八哩三十三釐〇公衆電報取扱

岩手縣紫波郡赤石村北日詰にあり、奥州街道なる日詰の驛は北上川の西岸に位し、停車場より二十八丁あり

○官 衙

郡役所、警察署、區裁判所出張所

○物 産

米、林産、梨子、燐表、木材

○交 通

石鳥谷へ一里二十九丁、盛岡市へ六里十七丁、志和町へ一里三十二丁、大迫町へ三里三十丁

○古 跡、神 社

○比爪館の舊址

日詰新田によりと雖とも今は宅地と變して分明ならず、館は比爪五郎季衡の居城にして季衡は秀衡の族比爪入道俊衡の子なり、東鑑に後鳥羽天皇の文治九年九月十五日比爪太郎俊衡、其弟五郎季衡、其子太田冠者師衡、次郎兼衡、河北冠者忠衡、子新田冠者經衡等六人厨川に降ると、即ち此地を云ふなり、天正年間戸部御所は此に在り南部信直之を攻めて城終に陥る



○陣岡蜂社

古館村大字陣ヶ岡に在り、停車場を距ること里餘、東鑑に文治五年二品頼朝陣岡蜂社に陣し淹留すると七日、泰衡の臣河田次郎主泰衡を弑し其首を齎し献ず、頼朝小山朝光をして河田の首を斬らしめ、十一日頼朝陣岡より厨川に歸るとあるもの、即ち此地を指すなり、土人の言に據れば陣岡の名は源義家安倍貞任を伐つ時、此に陣せしに由て起るものなりと

○志賀理別神社

日詰町と郡山驛との中間、國道より左の方赤石村大字櫻町に在り、郷社にして志賀理和氣神を祭る、創建年月は未だ詳かならざるも延喜式神名帳に其名を列し、文徳天皇の仁壽二年七月辛未陸奥國志賀理和氣の神に正五位を授くと見たり

○志和稻荷

停車場より二里十町、志和町にあり、毎年舊曆初午、九月九日等を祭日とす参詣者多し

○櫛の奇木

村内勝源院になり、安部氏遺愛の古木なりといひ傳ふ

矢幅停車場

(いはや)

上野より三百二十三哩五十級

岩手縣陸中國紫波郡煙山村にあり、記すべき事なし

盛岡停車場

(かをりも)

上野より三百二十九哩七十七級五分間以上停車○途中乗継驛○荷運夫及辨當等販賣あり○公衆電報取扱

岩手縣陸中國南岩手郡下厨川字木伏にあり、盛岡市は南部氏の城市にして元不來方の城と稱する古城たりしが、慶長年間南部利直三戸城より移りて城池を改修し、名を盛岡と更めたり、爾來累世封を此地に受け以て維新に至る、當市は仙臺以北第一の都會にして、東西三十六町南北十八町戸數凡そ八千五百、人口三萬三千を有す、商賈軒を並べ、物貨輻輳し、實に縣下第一の繁昌地たり、南の方停車場に近く大河あり、車石川といふ、鐵橋の長さ七百九十一尺、北上川はこゝにて車石川を合流して、初めて大河となる

◎官 衙

縣廳、市役所、地方裁判所、警察署、郡役所、大隊區司令部等

◎學校病院

尋常師範學校、尋常中學校、獸醫學校、實業學校、盛岡女學校、巖手女學校、農事講習所、私立盛岡病院、巖手病院

◎銀行及會社

盛岡銀行、第七十七銀行、第九十銀行、安田銀行支店、盛岡農工銀行、土木請負盛岡會社、精米會社、北上株式會社、内國通運會社支店

◎旅 店

三嶋屋、高興、杉木、成瀬、陸奥館、清風館、櫻雲閣

◎料 理 店

三上亭、秀清閣、古田屋、瀬川

◎物 産

米、大豆、生糸、南部袖、縮緬、絹織物、麻布、鐵瓶、林檎、梨子、玉蔥、洋菜、晒餛、黃精餛、豆銀糖、松

の實、下駄表、木材、牛、馬等

◎名所、舊迹、神社、佛閣

○盛岡城趾

停車場より十町許、古來不來方城又は福士館、日戸館と云ふ、清原武則鎮守府將軍たりし頃、其甥宇志方太郎貞頼の居りし所、正慶元年工藤小次郎一族光家此に據りて亂を起す、南部右馬頭茂時弟伊豫守信長に命じ伐ちて之を降し福士伊勢入道慶善を置く、之を盛岡城の南部氏が屬城となりし濫觴となす、天正十九年九戸役蒲生飛彈守氏郷歸陣の時南部大膳太夫信直送りて此に至る、氏郷以爲らく此地位置は國の中央を占め且つ四神相應の地たりと、自ら城廓を規畫し、信直に勸むるに更に城て治所とせんことを以てす、其子信濃守利直に至り慶長二年建築を始め元和五年陸奥國三戸郡三戸城より諸臣を率ゐて移轉せらる、其後中津川洪水氾濫の爲め三戸に還る、重直の時祝融の禍に罹り一時郡山に在城の事ありしも、寛永十年全城竣工の後世々不易の居城となれり、最初經營に着手してより漸次修葺を加へ四十二年の星霜を経たりと云ふ、今や斷礎故墟草葉に埋められ、當時の壯觀見るべ

くもあらず、しかも其内丸には縣廳を初め諸種の官衙學校等、殆んど此中に集まれば、  
○石割櫻 市内内丸地方裁判所の門内右の方に在り、高さ七八尺、長さ二丈餘、  
幅八九尺なる大巖石の上に一樹の櫻生へり、樹頗る大にして根の周り五尺もあるべ  
く、根元より二尺許以上にて双木となれり、枝葉鬱蒼として能く繁茂すれども其巖  
上には一の土塊なし、而して此樹の生長に隨ひて斯る大石も爲めに二つに割れたる  
なり、市人巖を呼んで櫻雲石といふ

○盛岡公園 同所、中津川の北岸に在り、東西四町南北三町許り、中央に小丘あ  
りて瓢山といふ、傍ら小池を穿ちて多く鯉、鮒を養ひ池畔一二亭榭を設く、池に沿  
ふて招魂社あり戊辰の役國事の爲めに斃れたる志士の靈を祭る、其入口に勸工場あ  
り園内には櫻樹多く春の眺め至りてよし

○縣社櫻山神社 は市の北方凡廿町米内村字北山に在り、舊盛岡藩主始祖祖南部  
三郎光行及中興の祖南部大膳太夫信直兩公を合祀したる祠なり、三十三代利親公の  
代盛岡城内淡路丸と唱ふる所に於て一社を設け淡路丸神社と稱せしも後櫻山神社と  
改む、例祭は毎年五月廿五、廿六の二日間にして參詣する者頗る多し、地位高燥に

して春の花、秋の紅葉、夏は上田の堤(俗にツ、ミと稱す)に至り、小舟を泛ぶべく  
冬は盛岡の雪景色一眸に集り風光絶佳の勝地となす、境内には「戊辰戦死者の碑」あ  
り

○縣社八幡宮 市内字志家にあり、本社は元盛岡城内三社の一なりしを、延寶七  
年南部行信建立せしものにして祭神は譽田別尊なり、或は云く、康平五年鎮守府將  
軍源頼義東征の後上洛に際し、此地を過る時(此邊櫻川に沿ひて元鎌倉街道なりし  
と)一社を勸請したりしに、行信之を成就せしなりと、大神宮、春日大明神を合祀  
し、末社には齋守稻荷、力神、梅の宮等あり、例祭は九月十四日より十六日に至る

○見馴松、御幸新道 市内餌差小路にあり、明治九年 聖上奥羽御巡幸の時、故  
從六位菊池金吾氏邸に驛を駐め給ふこと三日、後十四年北海道に 行幸ありし時、  
復た同邸を以て行宮と定め給ふ、前後兩次庭園の松樹を觀賞し給ひ、名を賜ひて  
「見馴松」と云ふ、諸陵頭從五位勳六等文學博士川田剛氏其園に名くるに賜松園を以  
てし、其記を作る、此邸前より肴街に通ずるの處を御幸新道と云ふ、石を建て、之を  
榜示す

行在の家主奉れる紅梅餅を御手つから賜りて歌めしければ  
つかうたてまつれる

もちひけんころ深さは紅の梅のいろにも匂ひける哉 正 風  
菊池金吾の家の庭の松にみなれてふ名を賜はりてそのころを  
よめと仰せことありければ

あらためむいろにも千代をさしげけり君か見なれの宿のまつか枝  
明治十四年八月廿日 侍従四位臣 藤原朝臣公業

○盛岡の三橋

盛岡市の中央中津川に架せる橋を上ノ橋、中ノ橋、下ノ橋の三橋となす、此の三橋の欄干の擬寶珠は面白き歴史あり、延文二年南部政行(十二代)芳野行宮に詣られし時、御所の近き邊りにて鹿の鳴くこと止まず、頃しも春の半ばなれば秋こそ鹿の鳴くべけれ時ならぬ鹿の鳴くぞ奇怪なる、誰れかある速く歌伏にせよとの勅捷にて、「春の鹿」の御題を下されけるを、政行取りあへず、「春霞秋たつ霧にまかはねば思ひ忘れて鹿や鳴らん」との一首を、時の天子 後村上帝に献じたるを、叙慮斜ならず懸て鹿の鳴くこと止みしかば、其御恩賞として、忝くも「帝都の

模様が在所に移して徒然を慰めよ」との繪旨を蒙り、加茂川橋の擬寶珠を欄干に用ふるとの勅許あり、且つ従五位に叙せられ遠江守に任じ、松風と稱する名視(此視は往昔三位中將重衡戒を法然上人に受くる時贈る處、後勅ありて禁中に入りたるものなりと)、并朱塗の弓百挺を賜はる、其後政行公三戸城下熊原川の橋に、始めて銅製の擬寶珠を附けられ、金銀を以て之を鏤めれば人之を黄金橋と稱せり、廿七代従三位利直、慶長年中三戸より盛岡に移轉の際更に鑄造し、盛岡の上ノ橋に移し替へ後他の二橋にも用ふるに至れり

○三ツ石

櫻雲石に次ぎて巨石の奇なるものを、市内花屋町の東なる(外山街道筋)東顯寺の後庭に在る、三ツ石なりとす、石の高さ凡二丈周圍五丈許り、其状恰も猛虎の嶋を負ひて風に嘯くに似たり、屹立したる大花崗石各其半身を抱きて三箇となる、是れ三ツ石の名稱の起る所以なり、三石大明神あり

○鳩峰山報恩寺(曹洞宗)

市外米内村大字三ツ割關口(松坂の邊り)に在り、木尊は釋迦牟尼佛、脇立文珠、普賢兩菩薩にして聖徳太子の作なり、境内に七間四面の羅漢堂あり本尊は盧舍那佛(木像坐躰一丈六尺)脇立は八才童女、善男童子、地藏尊菩薩

薩外四躰にして皆弘法大師の作に係り、所謂る五百羅漢の大像は此堂左右上下の壇上に排せらる、有名なる大佛師駒野丹下の作に係る、其本堂の天井は狩野林泉の筆なる飛龍の圖を以て張り詰めらる、堂前に菩薩樹あり、高さ五十尺周回三十尺許り其老木なること日本三樹の一なりと云ふ

○大光山聖壽寺

は京都妙心寺末臨濟宗に屬し又萬年山とも號す、開山は三光國齋國師にして三戸郡小向村なる三光庵を移したるものなり、南部家の菩提所に於て累代の墳墓今現に該寺の高阜に在り、盛岡五ヶ寺の第一位に居りしも、今は僅に其名残をとむるのみ、但し同寺には歐洲人を描きたる古代の無類なる一雙の屏風あり、畫中の人物は確に「フランシスカン」の僧徒なり、此屏風は第十七世紀の終り飛彈守蒲生氏郷の姫君が南部家に入興したる時に齎せるものなり、當時觀るもの奇異の念を爲し、圖中の彩色の光輝燦然たるは、人間の血液を以て其畫料に混じ點色したりと爲したり云々と、チャンバアレン氏の著に見ゆ

○厨川柵、姫戸柵

厨川柵又安倍館と稱す、停車場を距る三十町餘、岩手郡厨川村宇厨川に在り、北上川に傍ふ、安倍貞任の城趾なり、康平五年九月十七日源賴義

貞任を攻めて此に之を誅す、文治五年頼朝藤原泰衡を伐ち九月二日平泉を出で北くるを追ひて此に至ると云ふ、後工藤小次郎行光なる者之に居り其孫光家に至り正慶中南部行長に臣從す、文祿元年南部氏其故柵を毀ち今僅に空濠を存せり、柵の南西に當り方八町と稱する地あり頼義該柵を收むる時屯營せし所なりと云ふ、『奥南見聞雜記』に曰く「里人の口碑に頼朝公厨川館にて盡の碑と云ふは是より幾程境にやと御尋ありければ是より奥に在りとは承り候へども行程存じ申さず候由申上ぐれば其時陸奥のいわでしのぶはえぞしらぬかき盡してよ盡の碑 源頼朝

と詠じ玉ふ」と云ふ又、『陸奥話記』に曰く「貞任等を征伐する條に(上畧)同十四日向厨川柵二十五日酉尅到着圍厨河姫戸一柵相去七八丁許也云々、考ふるに厨川の柵より西の方土人姫敷と呼ぶ所あり此處なるべし戸は則ち人家を云ふなれば後は屋敷とはいへるなるべし土人は多く尊卑に係らず家地をば屋敷と云へりかれば姫戸の柵は此所なる事疑ひなし」云々

○手掛松

手掛松は安倍館の對岸斷崖絶壁高さ五丈餘の岩上に在り、口碑の傳ふ所に據れば源義家安倍貞任を厨川城に攻めたる時八幡森に對陣して其動靜を窺ひた

りしが、城廓堅固にして近くべからず、義家乃ち河岸岩角の孤松に攀ぢ、隻手を掛  
け以て河底の深淺を測りたり、此を以て手掛松の稱ありと、松、水に映じて翠蓋滴  
る如く真に一幅の畫圖なり、一説に曰く貞任隻手を此松に懸け身を躍らして川を越  
え、厨川城に迫り風に乘じて火を放ちたりと、其下は即ち蒼々たる深潭常に渦紋を  
爲し水面藍の如く其深さ數十尋之を鏡ヶ淵と云ふ、但俗貞任の娘子投身の處なりと  
す、此の邊岩礁點々水勢頗る急激にして舟筏を行るもの、尤も危険とする處なり、  
蛇の島は一に浮島と唱ふ、如何なる出水と雖も表面に浮き廻り全島水を被むるの憂  
あることなし、面積八丁許り、盛岡果樹協會の苹果標本園此に在り、蛇の島と北上  
川西岸の間に築留を設けて鮭、香魚を漁す附近黒石野には古來一種の黒彩ある名石  
を産す所謂蛇紋石(溫石)なるものなり  
此他

○御田屋清水、片葉芦、夕顔瀬橋(貞任の故事あり)、時鐘(重さ千百五十貫目)、山王山  
(盛岡市第一眺望の處)、栗山大膳の碑(黒田騷動の發頭人、こゝに預けられ謫居の中  
に犯す)下斗米大作の碑(津輕侯を暗殺せんとせし刺客)、團子石、津志田の芋の子

冷泉を湧出す、喰等數多けれど總て省略に附す

○岩手山

一に巖鷲山に作る、其字音相近きを以てなり、或は云く昔時長治の頃  
山上の巖に、巨鷲屢、現はるゝに依りて岩鷲山と稱せりと、然れとも岩手は所謂の  
磐提なり、古來の地名、又郡名なるは新古今集千載集、六帖夫木集等の諸歌集に載  
する所なれば、岩手山と稱するを妥當となす、但夫れ唱へ易きが故に岩手を通稱と  
なすのみ、頂上の形ち、裾野のさま宛然に富士に似たるより、岩手不二ともいふ、  
大麓は瀧澤、西山、田頭、松尾四ヶ村に跨り山脚多く走下して曠野を控さ、西の一方  
透迤として陸羽國境の山脈に接す、海面を抜くこと六千八百七呎、停車場を距ること  
と六里の處に在り、登路三條あり、一は瀧澤村よりし(凡貳里廿三丁)一は田頭村よ  
りし(凡を六里廿五丁)一は西山村よりす(凡を壹里拾五丁)瀧澤村口、里程に於  
て最も近しとなすも、峻嶮他の二面に勝る故に、途中鐵鎖を岩石に繋けて攀登に便  
せし處あり、山麓より山頂に至る間を十合に分つ、每合石標を立て登山者の目標と  
なす(此石標の在る瀧澤口に限るが如し)登攀九合目に至れば平地あり、「御不動平」と  
云ふ、傍らに茅舎あり、雨露を凌ぐに足る、絶頂に達せんには此れより尙ほ目前

に觸起する所の峻嶺を登らざるべからず、此の峻嶺の背脊に沿ひて、山頂を一周する處、之を「御鉢回り」と稱す、「御鉢回り」を下りて低地に入れば即ち岩手山神社の在る處なり、御鉢回りの徑路たる僅に尺餘に過ぎず、昔時は三十三觀音の石像をこゝに排置したり、但し此岩手山の妙趣を知らんと欲せば、明治九年 聖上東北御巡幸の際御休憩ありたる岩手郡澁民村大字門前寺「千村松坂」を最上遠望の處とす、千本松坂附近古來和歌多し

みちのくの岩手やしはしあふましと忍ふにいよ増る戀かな

顯 綱

岩手山岩手ながらの身の果は思ひし如く誰れか告まし

人 巖

いかにせんせけともあまる袂かな岩手の山の谷の川水

後鳥羽院

色見へて思ふ心は年もへぬ岩手の山の嶺の下露

知 家

年月はいわたの松の下紅葉色に出てや今は戀しき

經 繼

遙拜所は、山麓の下三方面に在り、孰れも柳澤と稱す、其の瀧澤村に在るは寛文八年南部家の建設する所に係り、本社へ登山の者は、先づ此處に於て遙拜し、其姓名を帳簿に記載し或は守札を得て登山せざるべからず、西山村の柳澤には樹林の間に

冷泉を湧出す、登山者は就きて水に浴し、水垢離を取る、其登山者を御山掛けと稱し、祭典を御山祭又は柳澤祭と唱へ、盛岡市に在りては新山小路の同分社を祭る。

○大釋温泉、網張渡泉

大釋温泉は元岩手山の山脈なる鎌倉森と、小松倉山との間、網張と稱する大澗洞に湧出する鑛泉なるを、土管を以て壹千貳百八十餘間なる大釋に引上げ、浴槽を設けたるものなり、故に源泉の名に基き大釋と稱せずして網張を以て目するもの多し、停車場を去る七里餘、大釋は海面を援くと貳千五百十七尺、土地高燥にして盛夏の候と雖も寒暖計八十度に昇らず、飲料水及び空氣の清潔なる實に脱塵の仙露たり、臉を攀ちて網張の源泉に到れば、里許にして窈々響あり、忽ち見る、三條の白烟猛然半空に沖するを、滿地硫氣充積して、黄色の結晶地面に累々たり、其周邊に艸蘆(俗に笹山屋と云ふ)の跡を存す、従前大釋に浴場の設なかりし時、浴客は皆此に來り草を結びて雨露を凌ぐに供せしものなり、舊藩の時其危険にして人を舍くべからざるを以て、網を張りて入浴を嚴禁せし爲に網張の名ありとか、其効能は慢性筋僂麻質斯、慢性痛風、慢性皮膚病、梅毒(經久の梅毒) 下腹充血、全身多血、肝臟腫大、鉛水銀、等の慢性中毒、其他婦人病一切によし

○葛根田岩窟 大釋を距る一里餘、葛根田川の岸に在り、危岩怪石重疊屹立して中腹洞窟を爲す、高さ數十尋、巾五十間、奥行十貳間と云ふ、葛根田川に橋あり、蟹澤橋と云ふ長さ十六間、岩石に據りて木材を交又し隻柱を用ひず、恰も五串の天工橋に類す、又松實岩と稱する岩あり、高さ十三四間、廣さ四十餘間形松の實の如し、故に此の名あり、葛根田岩窟より西方山嶺を攀る三里許にして大瀑布あり、鳥越の瀧と云ふ高さ廿貳間、巾十五間、宇西根源太々森より發する處の水流なり、此瀧の近傍鑛泉の湧出すること無數、里人土を割して、浴池を設け、各地獄、極樂の名を附し、以て田名部の恐山に擬す、近年客舎を造り漸く浴客に供するあり之を葛根田の温泉と云ふ、此邊介化石、木藥石と稱する奇形の化石を産す、又洞中廣淵にして千餘人を容るべく、天然の岩石柱樑を築きて一の大廣間を現出するものあり之を田村の岩窟と稱す、傳へ云ふ昔時兇徒大猛丸此土に出没して村民を害せしが、田村將軍之を誅滅したる故に田村の岩窟の號ありと、是より北方十丁餘の山中に小祠あり滴石神社と云ふ、其後方深林より溪水流れて點滴石に落下し、其點々の音更に山響に和して一種の音を爲し、俚俗之れを「滴石タン／＼」と稱す

○繫温泉、藤倉神社 繫温泉は盛岡の西四里十二町餘、岩手郡御所村大字繫字湯館に在り、大釋温泉より栗石村に出で、安庭の渡船を経て直ちに抵ることを得べし、市内青物町よりするを本街道となす車馬の通行自在なり、疥癬、諸惡瘡類に効驗著しと稱す、其の「繫」さと唱るは源義家安倍貞任を追撃して此に至り、總軍駒を繫留して沐浴し長途の勞を慰したるに基くと云ふ、藤倉神社は繫温泉場を去る七八丁字館市に在り、境内千四百二十四坪を有し風致に富む、首夏の比藤花最も賞翫すべし、清泉あり老杉の根幹より發し浚々として聲あり

○鶯宿温泉 停車場を距る六里餘岩手郡鶯宿村字谷地畑に有り、眼病疝氣切疵等に効驗著し、車馬は辛うじて通ずれど、土地僻遠にして、來浴者は自炊の具を携ふべし、古昔一鶯あり、脚を傷け來り浴す、數日にして全く治し飛び去りしより、鶯宿の名ありと



五區線

自好至青森

附八戸線

好摩停車場

(まうか)

上野より三百四十二哩七十六釐○公衆電報取扱

岩手縣陸中國北岩手郡卷堀村字好摩にあり、當驛は好摩臺と稱する高原にあり、これより以東平原十里、左側に南部不二を仰ぎつゝ行く、東海道を走るの心地す、停車場に好盛館と稱する旅店及一二の茶店あるのみ

◎神社

○駒形神社 停車場を距る東南十五六丁、芋田村に在り、祭日は毎年舊曆六月十七日にして、遠近諸地より参詣する者頗る多し、神體は石にして、これに祈願を籠れば、名馬を得ると唱へ、信心者は祭日特に持馬に盛裝して詣らう

川口停車場

(ちどはか)

上野より三百四十六哩三十六釐

岩手縣陸中國岩手郡川口村にあり、昔時郷士川口五郎の古城跡なりとて、今呼んで館といふ、城跡尙存す

◎神社

○卷堀神社 は停車場より二十丁餘、毎年陰曆正月十八日八月三日祭祀を執行し参詣者頗る多く、其名近傍に高し  
○稻荷神社 は新舊兩社あり、舊は館にあり、遷座の跡にして、新は今の村社あり、陰曆八月十七八日の兩日祭典あり  
○丹渡川の瀧 丹渡川の上流に二つの瀧あり、近來材木を流すがため、一丈餘に切下げたるも、水勢激迅壯快言ふべからず、夏期鯉の之を昇るは實に一奇觀なり、村民瀧を流用して網を掛け、漁するもの多し(里程一は卅丁一は貳里)

◎物産  
木材、薪炭、大豆、百合根等

沼宮内停車場

(ぬまのくに)

上野より三百四十九哩四十九釐〇五分間以上停車〇公衆電報取扱

岩手縣陸中國北岩井郡沼宮内村にあり、當驛は昔時沼宮内少輔の居りし所にして、それが古城ありしかど、今は其所在地詳かならず、戸數凡そ五百、人口三千許を有する一小驛たり

◎官衙

警察署、郵便局

◎交通

盛岡市を距ること九里、南川口へ一里、小本へ貳拾三里(道路平坦)

◎古跡

○弓弭清水

當驛より二里半許御堂村新通寺内に在り、傳へ云ふ天喜五年六月源賴義賊魁阿部頼時を討つ時に、炎暑甚しく士卒大に渴に苦しむ、賴義因て皇天を拜し伏して觀音を念じ、弓弭を以て岩頭を衝きしに、清水立るに湧出し、兵士の渴を醫せりと、今尙滾々として源泉常に饒かなり、是即ち兩陸を貫通する長江北上川の水源なり、寺什には義家陣中に用ひたる釜(徑二尺八寸)及び矢根あり、境内の四本杉太さ十三尋とす

◎旅店

山口、愛宕旅館、高橋、松浦、佐藤、保木、平野

◎物産

米、大豆、牛馬、生糸、木材、木炭、木皮、林檎、百合、軸木

中山停車場

(まやかな)

上野より三百五十七哩二十四釐〇公衆電報取扱

岩手縣陸奥國二戸郡小鳥谷村にあり、當驛は日本鐵道全線路中日光に次く高峻の地に

して、海面を抜くと千四百九十四呎、線路は前後共に四十二分の一の急勾配を以て下れり、昔此山より北方を奥の細道と云へり、西行法師の歌に「東路のあひの中山ほど狭み心の奥の見えはこそはあらめ」とは此處をいふならむ、此地方は特に牧馬に適するを以て三本木軍馬育成所の支所あり陸軍省の用馬を養ふ、此線路小鳥谷に下る間、山深き處にあるより、夏季は藤の花多く、秋の紅葉は確氷に勝れり、又隧道多く、小鳥谷に近き瀧見トンネルを出れば、小繁川の高橋を渡る、其傍らに大瀧あり、尤も奇觀となす

◎名 所

○弓弭清水 此地より三十丁沼宮内より下るに比すれば路險なれど近し

◎旅 店

柴田 (停車場前)

小鳥谷停車場

(やづこ)

上野より三百六十六哩七十一釐

岩手縣陸奥國二戸郡小鳥谷村字小繁にあり、當驛は中山と同じく山間の一小村落に過ぎず、而かも線路は深山幽谷の間を遶りて、或は隧道に入り、或は鐵橋を渡り、恰も東海道函根の奇勝に彷彿たり

◎交 通

九戸郡伊保内村へ五里、淨法寺村へ四里

◎物 産

材木、木炭、大豆

一戸停車場

(へのちい)

上野より三百六十九哩五十九釐五分間以上停車場〇洗面所〇辨當販賣あり

岩手縣陸奥國二戸郡鳥海村にあり陸奥街道の一驛にして戸數五百餘を有す、郡中の繁華福岡に亞ぐ、こゝと福岡との間に鳥越隧道あり、長さ三千四百六十二尺

◎官 衙

郵便電信局

◎交通

伊保内村へ三里廿二町、淨法寺村へ四里廿町、久慈濱へ十五里廿四町

◎旅店

堀口、田頭、中島、東屋

◎物産

竹細工、貝化石、小麥煎餅、木炭、大豆、木皮

◎神佛名所

○鳥越觀世音 一戸町を距ること廿七町鳥越山にあり、此山は高數十丈、奇石怪巖重疊して屹立す、頂上に石窟あり、廣さ凡そ十疊敷、中に觀世音を安置す、大同二年慈覺大師の開基とす、縁日は毎年舊曆九月九日、十九日、廿九日にして參詣頗る多し  
○毘沙門堂 停車場より三町許、祭禮は舊毎月三日にして、就中舊正月三日、十六日及三月三日は參詣者非常に多し

○末の松山波打峠 停車場より三十町、一戸と福岡との間の國道にあり、阪路羊腸、左右の岩石波濤の痕あり、貝殻の之に附着するあるより、土人波の打寄せた

る證となす、仙臺の次驛岩切驛に近き末の松山といづれが是なるを知らず、君をよきて仇し心を我もたば末の松山波も越えなん 讀人しらす  
の歌によるも、こゝをば波の越す事なきを察するに足らん

福岡停車場

(かをくふ)

上野より三百七十三哩五十三鎖

岩手縣陸中國二戸郡石切村字石切所にあり、福岡町へは二十町餘を隔つ、福岡町は往古貞任の屬白鳥三郎高任の城きし處にして、宮城野と稱せしが、天正年中九戸左近將監政實此城に據り、蒲生氏郷、淺野長政、井伊直政、堀尾吉晴等と戦ひ、遂に滅され、其後福岡と改めたり、城趾の所在今明ならず、戸數凡六百餘を有し人口凡二千、郡中第一の市邑なり、町内に梅の古木あり其名高し、此驛と三戸間に目時、小中島などの隧道あり、一は千七百七十尺、後者は六百三十三尺

◎官衙

郡役所、警察署、區裁判所、收稅署、電信局

◎交通

金田一村へ一里廿町、輕米へ五里十町

◎旅店

大館、村井

◎物産

牛馬、貝化石、竹細工、大豆、漆、木材、生糸、生皮、麻糸

◎名所、温泉

○水晶瀧

停車場より東方凡そ一里許、上銀山の麓に在り、高五丈餘、幅二間、樹林の間より注下する處宛然米點の山水、水晶簾をかくるに似たり

○湯田温泉

停車場より二里餘、金田一村より國道を右折せし處、即ち同村字湯田に在り、鹽類泉にして無色透明、温度は華氏の九十九度を保ち、泉源三ヶ所あり皆田園より涌出し、最も疥癬に効驗ありと云ふ、此村なる馬淵川の岸に粘土の固まりたる團石あり、之を碎けば蟹、貝、魚族等の化石となりて存在するを發見する事

あり、福岡驛にては硯石、筆架其他の器具に彫刻し、是を名所末の松山の化石なりと稱して發賣す

三 戸 停 車 場

(へのんさ)

上野より三百八十四哩七十九鎮

青森縣陸奥國三戸郡向村字住谷野あり、當驛は元と南部氏基業の地にして貨物概ね具備せざるなく、戸數凡そ千戸人口四千余を有する一市街なり、南部氏の城跡は驛の東にあり

◎官衙

警察分署、郵便局

◎交通

二戸郡金田一村へ二里三十町、五戸町へ五里十町、八戸町へ八里

◎物産

生漆、牛馬、栗實

◎古 迹

○長慶天皇行宮趾 停車場より一里餘、名久井村名久井嶽の半腹に在り、相傳ふ南北兩朝の頃八戸氏 長慶天皇を名久井の深山に奉じて恢復を謀る、新田、結城等の諸族之を聞き奥州に下る者三十餘名、其裔或は八戸氏に仕へ或は他土に移り、獨り佐藤春松なる者此山に留りて陵の香火を掌どり世々農夫たりと、又長谷寺の趾あり則ち天皇の皇弟明尊上人の開基する所なり、天皇崩御のとき「末の世に光あらはせ己が身に天御祖の恵みありなば」の御製あり、故に土人御陵を稱して有末光塚といふ、石碑一尺許り寛成の二字を刻す、即ち天皇の御諱なり、其の傍字王夕崎を以て行在の趾とす、佐藤春松の家には、遺品は多く往昔行在に呈せしものにして盃碟菊紋、綾衣あり、又一軸あり中央に有末光尊の四字を書し左右に弘和二年三月六日崩御の十字を分書す

○異國馬の碑 三戸町元木平、國道の傍らに在り、享保年間徳川綱吉清人伊孚九

が獻する所の斯波國産の二馬を南部家に附して放飼し其種を殖せしむ、其一死して此に埋め石井玉章なる者碑を建て、紀念とす、碑の左側に鹿毛二百九歳五尺九寸五分異國春砂とあり、斯波は今の亞刺比亞にして、是より八戸に多く名馬を出すに至れり、又牝馬の兒を産する時は此處に牽き來りて、其馬の絶大ならんを祈る事、此附近の習慣なり

劍吉停車場

(しよんげ)

上野より三百九十哩六十一鎖

青森縣陸奥國三戸郡北川村字劍吉にあり、この驛と尻内間に一日市隧道あり、長さ五百七十一尺

尻内停車場

(ちうりし)

上野より三百九十七哩五十三鎖五分間以上停車場○洗面所○辨當販賣者あり○荷運夫○公衆電報取扱

**乗替** 當驛は八戸支線の岐るゝ所にして八戸、湊、**鯨港**等へ到らんとする旅客は此驛に於て列車を乗換へらるべし  
青森縣陸奥國三戸郡長苗村大字尻内にあり

◎物産

牛馬、魚類、鱧鮠、海苗、大豆等

**八戸支線**

**八戸停車場**

(へのちは)

上野より四百一哩二釐

青森縣陸奥國三戸郡八戸町字八幡町にあり、當驛は馬淵川河口の南に位し、舊八戸藩の城邑にして、今の三八城神社の在る所は則ち其城趾なり、戸數二千四百餘、人口一萬四千餘を有し、土地豊饒にして海陸運輸の便を備へ、頗る繁華なる一都會なり、

◎官衙

郡役所、地方裁判所支部、區裁判所、警察署、税務所、町役場、監獄署、登記所、郵便電信局、公證人役場、執達吏役場

◎學校病院

第二尋常中學校、實業補習學校、八戸病院

◎銀行會社

階上銀行、八戸商業銀行、貯蓄銀行、泉山銀行、印刷株式會社、織物合資會社、肥料製造株式會社

◎新聞社

八戸商報社

◎旅店

佐川、若松興市、杉本、江渡◎料理店は武藏野

◎交通

青森市を距ること十九里廿三町、三戸町を距ること八里

◎物産

大豆、軸木、メ柏、海産物、經木、牛馬、砂箱、干刺螺、鹽海梁、藻菊、南部煎餅

◎神社、名所、舊迹

○縣社 三八城神社は字八幡町に在り祭日は毎年舊曆八月六日、龍神社、新羅神社の合同祭禮は毎年舊曆九月廿日より三日間舉行、長者山八坂神社の祭禮は毎年舊曆六月十五日、以上何れも有名なる祭禮にして人出甚だ多し

○蝦夷ヶ館、高館 八戸停車場の左右にあり、いづれも義經の故跡なりといへど史書の徴すべきものなし

○小松寺 停車場より三里許小松村にあり、平の重盛の墓なるものあれど、信偽を詳かにせず

○小田八幡神社 停車場を去る一里二十丁、源九郎義經が衣川を脱し來り、一時館と爲せる所ありと傳ふ、武藏坊辨慶等か手寫せりと云ふ大般若經を存す、經櫃の如き釘を用ひず古色蒼然たり

○櫛引八幡宮 停車場を去る二里、長慶天皇の召し玉へる者なりと傳ふる所の

緋絨鎧を藏す、年代久しきを經たるも緋色毫も衰えず、兜には菊花の紋章を付しあり、別に還城樂の假面一個あり

○四季の花見 として遊覧の勝地尠からず、松館村の臥龍梅は八戸町の南二里許なる松館村の溪間に在り、老幹蟠りて龍の如く、花最も見るべく其樹一株よりよく梅實二十俵を得るといふ。長者山なる八戸公園の櫻桃一時に咲き亂れたる時はそぞろに杖を牽くを禁ぜざらしめ、是川村の桃林亦遊人を喜ばしむ、白山の紅躑躅は春の後殿たるに堪へ、對泉院の菊花は秋の日の寂寥きを慰むるに足る、四時をりくの花の眺めまた此郷を賑はせり

湊 停 車 場

(とほみ)

上野より四百二哩五十七鎖○公衆電報取扱

青森縣陸奥國三戸郡字上野村に在り、當驛は八戸支線の終極にして馬淵川と新井田川との落合ふ河畔に位し、白銀、鮫等に相連なり、東北有名の漁獵場とす、ことに鰯漁の盛なる驚くべきものあり



◎旅店

海水浴石田屋(鮫港)

◎料理店

萬氣亭、北越(同)

◎産物

ノ和、海草類、魚介、材木

◎鮫港 湊停車場より東方一里の海岸に在り、戸數三百許、蕪島其前に横はり、灣内は水清く、魚介に富み、空氣清潔眺望絶佳避暑地としては得易からざるの地たり、蕪島は海岸を距ること三丁許、往古より全島蕪草の繁茂するを以て名あり、春風飈蕩の候は金泥を抹たる如く、異彩波に映じ實に美觀とす、島に辨財天あり、祭日は毎年舊曆三月三日沙干狩の日を以て舉行す、遠近より來り集ふもの甚だ多し、今鮫港の名所をよみ込たる俗唄を録して以て敘事の足らざる所を補ふべし

鮫浦の名所聞かしやんせ、沖に蕪島べんざい天、半崎に恵比須濱、大崎さまにて小湊を物見石にて一杯樂しめや、遙か向ふに見ゆる船はアレハ、松前秋あじか但

しや津輕の備船來る船は帆足を揃へて満々と、蕪名かはせや鮫浦女郎衆は繁昌する

湊停車場より此地迄は車馬の往來自由にして馬車八錢、人力車賃十五錢なり

◎館鼻の岬 停車場より十町、新井田川を隔て、相對す。海を下瞰して眺望絶佳なり、頂上に小社あり、御前神社といふ、口碑傳ふる所に據れば、初め武内宿禰神社を草創し、次で田村將軍之を再建すと、元は階上郡の總鎮守にして源義經武藏坊辨慶、龜井六郎及び藤原朝彥等の奉納物目錄今猶ほ之を秘藏すと云ふ

下田停車場

(たもし)

上野より四百〇四哩四十五釐〇公衆電報取扱

青森縣陸奥國上北郡下田村に至り、當驛と古間木との間にある蕪隧道は長さ五百四十四呎なり、此地は世に鼻曲りといふ南部鮭の本場なり

◎交通

下石村へ廿二町、一川目迄二里、二川目迄二里三十町、大落瀬へ貳里、三本木へ五里

五戸へ三里十八丁、八戸へ四里

◎物産

鮭、貝類、鮭鱒引(尋常の鮭に非ず、北海道のラカンと同種)、鱒、鮎、大豆、米、馬

古間木停車場

(きまこ)

上野より四百十哩六十二鎮○公衆電報取扱

青森縣陸奥國六戸村宇落瀬宇古間木にあり、有名なる三本木原にある軍馬育成所は此地よりするも可し里程四里餘、青森縣農學校へも四里

○大素塚 停車場より四里、三本木の原野を開きし博士新渡部稻造氏の祖父君を紀念するもの

○木ノ下村氣比神社 停車場より廿八町

沼崎停車場

(きさまぬ)

上野より四百十七哩二十二鎮○公衆電報取扱

青森縣上北郡浦の館村大字上野小川原沼の西方にあり、七戸町へはこゝより下車さるべし

○七戸町 停車場より二里餘、上北郡役所所在地にして、警察署、稅務署、登記所、小林區署、産馬組合事務所等あり、本郡政治の中心たり、戸數九百六十五戸、人口六千七百餘人、其より西北一里弱にして農商務省直轄の奥羽種馬牧場あり、歐洲産の種牝牝馬百頭以上を飼養し毎年春季駒を産する事多し、其外七戸産馬組合の二歳駒の糶賣は毎年十一月一日より十三日に至り、他國の馬喰業者盛に來り集まる

◎名所、佛閣

○小川原沼 瀛車此附近に至れば波光瀲灩鏡の如く、八戸附近にてわづかに瞥見したる海色の、再び來り迎ふるかと思へば、こは小川原沼にてありき、此沼東西一里半、南北四里半、周圍十一里、其東端は太平洋に注ぐ、産するもの、鮫、ツカ、鮎、蜆貝、イト等にして、鱒は尤も有名なるもの、夏時北海道に輸出するもの甚だ多し、冬季は遊獵に適し野は白鳥等其重なるものなり

○壺の碑

七戸驛の北一里半許り、坪村に千良神社あり、是れ古へ壺の碑ありし處ならんと、碑は往古阪上田村磨東征の時此地を日本の中央として建設せしものなりと云ふ、然れど今は碑の所在を詳かにせず、頼朝の歌に「陸奥のいはて忍ふはえぞ知らぬ書つくしてよ壺のいしぶみ」といふがあり、陸前に在るは多賀城の碑にして壺の碑に非る事その條下に説けり

○山屋の薬師

七戸村にあり、陰曆四月八日を祭日とす、参詣人多し

○花松の觀世音

停車場より三里餘、天間林にあり、祭日は四月十九日とす、附近の土俗天魔を祭る、天間は天魔の字を變へしものか

○三本木原

停車場附近より既に此原に屬す、廣袤十數里平原渺茫として更に際涯を見ず、原の中央に一驛邑あり、三本木といふ、此邊天然の牧場にして多く良馬を産す、世に奥州馬として稱揚せらるゝは皆此邊の産馬なり、今は軍馬育成所として陸軍省に屬す

東路のをくの牧なる荒馬をなつくるものは春の若草

慈 鎮  
爲 家

みちのくの牧の荒駒その程にりへぬものは心なりけり

乙 供 停 車 場

(もどつね)

上野より四百二十一哩四十四鎧

青森縣陸奥國上北郡用地村にあり、此間にも隧道あり

野 邊 地 停 車 場

(ちべの)

上野より四百三十哩三十二鎧五分間以上停車場○辨當販賣

青森縣陸奥國上北郡野邊地町にあり、停車場より十町許なる野邊地の本驛は國道の要衝に當り、戸數千二百餘、人口凡そ六千五百を有し、郡中尤も繁華なる小都會にして且つ良港灣なり、此近傍は冬季降雪最も多く往々列車の進行を阻碍する事あり、爲めに乙供と此線間の線路に雪除装置をなし置けり

◎官

衙

區裁判所、警察分署

野村、上北  
◎銀 行

味噌、醬油、鱈、帆立貝  
◎産 物

◎交 通

○斗南半島 元來此野邊地港は、斗南半島の咽喉にあり、田名部町、大湊、恐山等へ赴くには、こゝより下車するをよしとす、田名部へ十四里、大湊へ十五里（こゝへは狩場澤より隔日に流船を出す、海上廿里、大湊は海兵團のある所なり）恐山は半島の高山にして噴火山あり、地獄、極樂などあり、温泉も湧出す、喪者多し）へは田名部より百十三丁、その途中七里にして横濱に達す、そこに石田三成の墓なるものあり、又八里許にして尾鯨牧あり、頼朝の名馬生暖の産地なり

◎温 泉、名 所

○馬門鑛泉 野邊地線より一里許、猪場澤より三十町位鹽類泉にして無色透明な

り、奥州海道に接近す、この地往昔の南部、津輕兩領の分界なりき

○十府の浦 今分明ならねど、古書には野邊地近傍の海濱なりと見ゆ、陸前多賀國府よりも菅薦を産す、いづれか十府の地なるか、分明ならず

○錦木塚、狭布の里 これも野邊地村の内に在りとのみにて分明ならず、顯照法師の説に、「往古東奥の男戀しき女をよばはんとするも艶書をやる術を知らず依りて錦木として長さ一間許りの木を斑に彩どりて其女の門に立つるなり女の逢はんと思ふ男の木は早く取入れども逢はずと思へば錦木の立ながらに朽るとあり、今は無き事にて古き昔の例なるべし」云々、去れば此塚は錦木を立て、戀死せし人を埋めたる跡なる乎

錦木は立ながらこそ朽にけれ狭布の細ぬの胸あはずとや 能因法師

狩場澤停車場

（さばかり）

上野より四百三十四哩二十七鎧

青森縣陸奥國上北郡東平内村にあり、此處より大湊行の流船隔日に出づ、此邊の高野

はすべて、牛馬の牧野にして、牛馬は往々線路に出て、列車を見て狂奔するさま、一種の奇觀なり、このあたり雉子、兎等甚だ多し、野邊地帯を見晴し風景大に美し

小湊停車場

(となみこ)

上野より四百四十一哩四鎖〇公衆電報取扱

青森縣陸奥國東津輕郡中平内村大字小湊にあり、當線は戸數三百許を有する一漁村なり、淺所は停車場より一里許、漁業地として其名高し、椿山(三里)、濱子(一里)、この線を淺山間に隧道多く、中に土屋隧道千六百五十二尺あり

◎官 衙

警察分署、小林區署、登記所

◎物 産

帆立貝、鱈其他の海産物

◎神社、名所

○雷電宮

停車場より十町許の處にあり、坂上田村麿の勸請なる處、津輕家にては崇敬あつかりし社なり、所藏神樂の面は田村麿征夷の際に用ひしものなり

○椿山

停車場より三里、東津輕郡中平田村なる田澤に在り山を負ひ海に臨み、満山椿にして其幾千株なるを知らず、海上より見る時は、紅花海水に影を焦して、美觀名狀すべからず、老樹多くして周圍五尺以上に及ぶものありと、椿神社は横峰山の麓に在り、松古く苔滑かにして、清泉湧出し、誠に仙境の如し、俗説によれば此椿は昔越前の商賈横峰嘉平といふもの、此村の玉女と契り相愛する事極めて篤かりしが、嘉平故郷に歸らんとする時玉女悲嘆に堪えず、再航の日椿油を持來り給へと願ふ、平明年至れば玉女病んで死せり、嘉平落膽椿兩三株を其墓畔に植えたるが今日之如く繁殖したるものなりと

淺虫停車場

(しむさあ)

上野より四百四十七哩廿七鎖〇公衆電報取扱

青森縣陸奥國東津輕郡野内村大字淺虫にあり、當驛は青森灣頭にありて、近く湯の峰

鷗島等を一時の下に萃む、汽車は青松白沙の間を出入して風光尤も好し

◎旅 店

東山館、海老屋(榎湯)、三國屋(或は淺虫館)、小宮山長介、田村旅館、(いづれも温泉宿)

◎物 産

食鹽(是は當地温泉の熱にて製するもの)、鮑等

◎名所、古迹、温泉

○淺虫温泉 停車場にあり、傳へいふ、昔時圓光大師東國に巡錫して、偶々此地に來りしに、一頭の牝鹿温泉中に沿せるを見、初めて靈泉の効驗あるを知り、郷人を諭して浴場を此地に開設せしむ、是れ其濫觴なり、然れども土人は恐れてこれに浴せず、唯だ布に織るべき麻を温泉に瀧して蒸しけるが故に、誰れいふとなく麻蒸の湯と呼ぶに至り、中古更に淺蟲と改む、泉源は八個所、則ち椿湯、大湯、大湧の湯、裸の湯、柳の湯、目の湯、鶴の湯等なり、青森縣中尤も溫暖の地にして、避寒避暑によくしく風景亦た東北に冠たり

○唐味棧道

淺蟲より同じく久栗阪に至る海濱に唐味棧道の跡あり、唐味は一に鳥頭前と書す、東鑑に所謂宇多字未井の棧是れなり、往時は此處海岸に接して小徑を開き小灣懸崖の上に棧橋を架し危険甚し、文化中異國船松前の沖に航せし時、公吏の往復繁くなり行き終に大に開鑿したり、其傍らに岩窟ありて不明の窟と號せり、文治六年藤原泰衡の臣大河次郎兼任なる者自ら義經若くは朝日冠者と稱し陸奥に入りて由利維平等を亡ぼし、尙ほ津輕地方に亂入して勢ひ猖獗を極む、頼朝乃ち足利義兼、千葉常胤、比企能員等に令して之を討たしむ、兼任敗れて此地に來り鳥頭前棧道に壘を築き死を以て之を守る、義兼等之を聞き大軍を以て襲撃せしかば兼任力竭きて終に苗山今ま何れの地なるを知らずに向つて逃走すと、此窟は蓋し兼任が武器等を藏めし所歟

○錦木塚

一説に久栗坂にありとも傳ふ、但し所在は素より分明ならず

○アイノ臺

箆石(久栗坂)等の古跡停車場前にあり、又杜鵑花多く、花時は満山紅を染めて溪水爲めに赤し、螢谷と稱するは其名の如く螢の名地にして、義經遊覽の所といひ傳ふ、秋の茸狩に至りては亦一段の樂なり、或は海水に浴し、或は小舟に

棹こぎさして綸いとを垂たるなど、樂いと多し  
○湯の島めぐり 湯の島は海上十町許の處にあり、島内怪岩奇石多く、材木巖瓦岩等あり、遊覧案内の船を出す、船賃三十五錢

野内停車場

(いなの)

上野より四百五十哩四十四鎖

青森縣陸奥國東津輕郡野内村大字野内にあり、此邊外ヶ濱の間にして大浦小浦と唱ひ風景尤もよし、又た隨所海水浴に適す

◎神社、古迹

○貴船明神 停車場より五丁、文治年中源義經の建立せし處、この附近に鷲尾村といふ處あり、鷲尾三郎こゝに死せしと傳ふ、社内に鷲の口といふ奇巖あり、櫻樹多し

○東岳 停車場の南十里許にあり、机案かまの如き形狀をなし、昔時は寺院の千坊あり

し由、今尙殘剩ざんじょうの佛跡によりて考ふるも、鎌倉以上の歴史れきしを有するに似たり

浦町停車場

(ちまらう)

上野より四百五十五哩十八鎖

青森縣青森市浦町にあり、されば青森市には二個の停車場ある事となるなり、第五聯隊兵營、憲兵屯所は共に筒井村にありて、此所より下車すれば僅に十四丁青森停車場よりも二十丁計近し、今浦公園へは二十丁、青森停車場より十五丁近く、妙見へは一里十丁、青森停車場よりも近き事二十丁

青森停車場

(りもをあ)

上野より四百五十六哩七十一鎖○乘繼驛○荷運夫○公衆電報取扱

青森縣陸奥國青森市字安方町にあり、故に此附近の人々は、安方の停車場ともいふ、青森灣頭に枕みて戸數六千八百八十餘人口三萬一千三百餘を有す、抑當市は本州最北の

都市にして當會社東北線の最終停車場なり、而して鐵道局奥羽北線亦此地を起點とし、目下開通せるは弘前大鰐等を経て秋田縣五城目迄とす、又海上には瀛船常に出入して北海道函館、室蘭と郵船會社の定期船を以て連絡す、又郵船會社は停車場と接近して旅客の瀛車瀛船に乘換の便をなし、貨物は停車場構内堀割りより直に陸揚又は船積す、其他沿岸各港への往復船舶港内に輻輳して、帆檣林立實に繁昌を極む、殊に本州と北海道とを往復する客貨は、此地に依るを最も便利とするを以て、旅客の往來貨物の集散四時間斷なし、商業の活氣ある亦以て察するに足るべし、此地素と鳥頭、安瀉、多聞天、堤の四箇の漁村ありしのみにて荒涼を極めたりしが、寛文中津輕越中守其頃森山彌太郎に命じて、埠道を開かしめたるに終に今日の隆盛を見るに至れり

◎官 衙

縣廳、市役所、第八師團の五聯隊分營、憲兵分署、大林區署、郡役所、登記所、地方裁判所、區裁判所、警察署、郵便電信局、稅務署等あり

乘替

弘前、野代、秋田方向に行かんとする人は、こゝより官設鐵道に乗替すべし

◎學校病院

師範學校、中學校、青森病院

◎銀行會社

第五十九銀行、青森商業銀行、青森銀行、弘前銀行支店、安田銀行支店、青森貯蓄銀行、農工銀行、郵船會社支店、電燈會社、北産商會

◎新聞店

東奥日報、陸奥新聞、青森時事新聞、青森新聞

◎旅店

鍵屋、中島、早瀬、田澤、和島、磯谷、山崎

◎料理店

金森樓、紀伊國屋、豐洋館

◎運送店

内國通運會社支店、海陸運送社、三立社、陸運社、丸三運送社

◎劇場

場



中村原、青森座

◎交通

北海道行汽船は上記の如し、其他三麻、松納等への航路亦あり、陸路此附近への里程は造道村へ一里、原別村へ一里十八丁、高村へ二里、田東嶽村字宮田へ二里廿七丁、横内村へ二里九丁

◎神社、名所、故迹

○善知鳥神社 青森町大字安方町にあり、停車場より七丁許、縣社にして市杵島姫命、多紀里姫命、多岐都姫命を祀る、安倍の比羅夫渡島肅慎を征する時、戦勝を神に祈りて、勸請せるものなりと、傳へ聞く鳥頭安瀧なるもの此地に左遷せられ、死後其靈化して善知鳥となれり、それを「ウトウ」と訓するは其啼く聲に基きしものなるべし、其後祠は全く頽廢して遺趾をも留めざりしが、坂上田村麻呂東夷征討の時新たに社殿を造營し、自後代々の國司絶へず修繕を加へて保存を計り、今尙本社にて毎年九月十四日に祭典を行ひ神樂を奏し、又新米を供す、西行法師が

子を思ふ涙の雨を笠の上にかゝるもわびしやすかたの鳥  
と歌ひしけ此祠なり、尙他にも歌あり、二三を擧げん

みちのくの外ヶ濱なる呼子鳥なくなるこゑはうとふ安方 よみ人しらず  
紅の涙のあめにぬれじとて鏡を着てとる善知鳥やす方 同 上  
謠曲に善知鳥とあるも此地の事を作れるなり、大和文章にはウトウは水鳥の名、和品なる故漢字なく鳩とも書けりとあり、此地にては之を捕ることを禁しあるを以て非常に數多し

○外ヶ濱 青森灣海濱の總稱にて、西は龍飛崎より東は夏泊までの間をいふなるべし、沿岸到る處眺望に富み勝地多し、外ヶ濱とは宛字にて其實は率士ヶ濱ならん、彼の普天之下無非王土、率士之濱無非王臣、の句の意を取りて、王土の果を意味せしものか、西行の歌に

陸のくはをくゆかしくもちほゆる壺の碑外の濱風

○青森公園 は停車場より卅五町、一に今浦公園と稱し老松古櫻園内に叢生し、青森灣を下瞰し風色極めてよし

○妙見堂

青森市の南濱田村にあり青森唯一の花見の場所、此堂にも田村麿の舞

樂の面あり、青森停車場より一里三十町、浦町停車場よりは一里十町

○八甲田山下ヤスノ木森 青森停車場より六里許り、八甲田山下にあり、第五

聯隊雪中行軍中貳百名内外凍死の地にして、やすの木森に紀念の爲め建碑す

◎物産

海産物を第一とし其他林産蠶繭工等とす

山手線 赤品羽川間

大崎停車場

(きさほむ)

品川より一哩七鎖の赤羽より十一哩六十九鎖

東京府荏原郡大崎村にあり、卅四年の開設にして品川よりすれば第一次の驛にて品川の町外れより七八丁を隔つ、故に山手線によりて品川の南部に赴く人は當驛よりするを便とす

○品川町

舊東海道五十三次の前程として古くより知られたる處、今尙ほ戸數三

千五百餘を有し屋樓鱗次往來絡繹たり、東は品川灣にして遠く房總の山を雲煙の間

に望むべく、灣内には軍艦、船舶常に碇泊す、沖合に數多の小島を見るは所謂昔の

砲臺にして御臺場と稱するもの、品川停車場は規模なかくに宏壯、荏原郡役所を

置けり、毎歲六月南の天王(荏原神社)北の天王(品川神社)の大祭にして、遠近より

參詣者群集し頗る賑やかなり

○御殿山

停車場の前面五六町の處岡阜あるを見ん、これ櫻の名所として古より花見の勝地なりしが、近來追々に櫻樹を伐採し舊態を失ひたるは惜しむべし

○海晏寺

停車場より十五町、南品川宿の南端にありて、楓の名所なり、境内高低趣をなし數十株の老楓ありしも維新後之を伐採し、少しく舊觀を損したりと雖ども更に栽えたる稚楓なかくに見處多くなれり、殊に品川灣を一眸の中に集めたる景色いふばかりなし。北條時頼の開基にして開山を大覺禪師とし、後ち慶存和尚慶長元年に至りて當寺を再興す、本堂庫裡共に茅葺にして本尊を鮫頭觀世音と云ふ、寺記に曰く「建長年間此地の海中より一尾の鮫を捕獲し來り腹部を割きて觀世の像を得たり時頼之を聽きて稀世の瑞祥とし佛刹を建て、之を安置せしめ同時に瑞林、瑞應、廣正、東悅の四院をも造營せり、其地を鮫の上りし處なればとて鮫濱又は鮫洲と稱す」云々、境内に北條時頼、岩倉右大臣等の墓あり、紅葉の節來遊者群集す

○東海寺

品川町北番場にあり、澤庵和尚の開山、徳川家光の創建にして堂宇壯嚴を極めしも惜しむべし、維新の際殿堂悉く灰燼に歸し今は舊觀なし

○澤庵和尚の墓

東海寺より鐵道線路を隔て、硝子製造會社の北手石燈を登り

たる處にあり、和尚の遺志によりて塔を建てず、長さ八尺斗りなる天然石をもて墓標とせり、相隣りて加茂眞淵の墓あり、加藤千蔭が記せし碑を立つ

○桐ヶ谷の瀧

へは停車場より九町許、瀧あり、夏時納涼によろし、此地に鳥部野あり

○目黒不動尊

へは道平坦にして停車場より十五町許なり、委しくは次驛に在り

目黒停車場

(ろぐめ)

品川より二哩三十鎧○前驛より一哩五十六鎧○自動電話設置○公衆電報取扱

東京府下荏原郡大崎村字上大崎にあり

○目黒不動

停車場より十四五町、瀧泉寺と云ふ、本尊は慈覺大師の作なり、堂宇壯麗にして樓門の額は後水尾帝の宸筆なり、境内に數多の櫻あり、獨鈷の瀧は清水龍口より進り、如何なる早天と雖とも洶ることなし、夏時は避暑客の來遊するもの極めて多し、門前の割烹店又清潔なり、此地筍栗の名所にして其美味を賞せむ

と特に來遊する客少なからず、料理店は内田屋、大黒屋、角伊勢等なり

○祐天寺

停車場より十四町許祐天上人を開山とし、享保年間二世祐海の創建な

り、本尊阿彌陀如來は惠心僧都の作にして上人生涯の持念佛なり、又三輪利鑑の作

なる祐天八十二歳の影像あり、其他累の怨靈を解脱せし因に依り累濟度の法衣、及

○比翼塚

女院御所より賜はりし蜀紅の錦の袈裟を藏し、毎年虫干の時縦覽を許す

○苔香園

不動の門前にあり彼の權八小紫を埋む、今尙養者あり

澁谷停車場

(やふし)

品川より四哩六釐○公衆電報○自動電話あり○入場切手販賣

東京府下南豊島郡中澁谷村に在り

○官 衙

憲兵屯所、陸軍衛戍監獄

○銀 行

豊貯蔵銀行

○學 校 病 院

青山學院、日本赤十字社病院

◎名 所

○澁谷氷川神社

村社にして源頼朝を勸請せし處なりといふ

○咲花園

元廣尾町にあり、園の中央に澁谷川流れ、岸に添えて小丘あり頗る風

致をなす、四季の花絶ゆることなく、就中春の牡丹、秋の菊は特に其名高し

○金王八幡

は停車場より五丁、源義朝の近侍澁谷金王丸の生立たる所とぞ、女

治五年七月義朝鎌倉龜ヶ谷より移植し、といふ金王櫻と稱する老木ありしをもて、

古來其の名高し

○松陰神社

は停車場より凡そ一里、世田ヶ谷村にあり、吉田松陰の幽魂を祀つ

る處にして、祠背には松陰并に同志同難者の墳墓あり、墓前の石鳥居には王政一新

之歳大江孝允の十字を刻せり、毎歳祭日には春季皇靈祭にして松陰遺物を陳列して

觀覽に供す、學生等の參詣するもの多し

○寶泉寺 是停車場より五丁、元祿七年徳川五代將軍綱吉公の近侍松平外記深く佛敎に歸依し、自ら別邸を喜捨し、當寺を創立し、源秀山室泉寺と稱し、日本三僧坊の隨一なる、和泉國大鳥山神風寺第一世快圓律師を請して開山となす、著名の寺なり、本尊は阿彌陀如來、別堂に大聖歡喜天あり

○藥湯 弘法の湯(神泉藥湯)と稱し停車場より七丁、土地幽僻なるを以て遠近來浴する者多し

◎交通

農科大學へ十五丁、陸軍騎兵實施學校へ十八丁、騎兵第一聯隊へ廿丁、近衛輜重兵大隊へ十九丁、近衛野戰砲兵聯隊へ卅丁、野戰砲兵第十三、十四、十五聯隊へ卅丁陸軍衛戍病院世田谷分院へ一里

新宿停車場

(しんじゆく)

品川より六哩四十四鎮○公衆電報○自動電話設置○入場切手販賣

東京府下南豊島郡淀橋町元角筈村にあり、甲武鐵道との交叉驛なり

乗替

甲武線中央線等即ち小金井、國分寺、八王子、青梅、甲州街道諸所、及び信濃町、四谷、市ヶ谷、牛込、飯田町等へは此驛にて乗替らるべし

◎名所

○十二社權現 俗に十二、とうといふ停車場より十四町、社は應永年間紀州熊野權現を分祀したるものにて、社地高低趣をなし、幽靜にして老樹蒼鬱たり、池あり澄透、古來大旱に逢ふて嘗て涸れたるとなしといふ、深あり數條懸下丈餘、飛沫珠を聯ね實に消夏の佳境なり

○井の頭辨天 三鷹村大字在禮にあり、本尊辨才天は天慶年間六孫王經基の安置せしものなりと、池水は即ち神田上水の源泉にして風光頗る美なり、此處に至らんに新宿より甲武鐵道線に乗換へ吉祥寺驛より下車僅かに二丁

○大久保躑躅園 停車場より五丁、大小拾數ヶ所、庭園何れも栽培意を凝らしたれば、花時艶麗遊人尤も多し

○銀世界

停車場より十四丁岩田氏の梅園にして老樹數百株、雅客の杖を曳くもの頗る多し、園内に將軍腰掛の松あり住時徳川氏の梅花を賞せし所といふ

○小金井の櫻

甲武線境驛より十町許、多摩川上水の兩岸無數の櫻樹巨幹老木殆んと里餘に達す、就中小金井橋の附近は觀望最も美、花影水に映したる好景實に東京附近隨一たり

○太宗寺閻魔堂

新宿一丁目にある古刹にして閻魔王木座像は高さ一丈六尺五寸、其首部と兩手とは運慶の作なりといふ、例年一月、七月の十六日には老若群集し願る賑ふ

○堀の内妙法寺

甲武線中野驛より十六町、法華宗中屈指の名利にして、本尊日蓮上人の像は徒弟日朝靈木にて彫刻し上人の點睛せしものなり、信徒の參詣常に多し、特に八月の千部會及十月の會式には來詣者頗る多く雜踏を極む、本驛より一里九丁

○新井の薬師

中野驛より七町西新井にあり、堂宇宏壯當山薬師如來の像は弘法大師の作にして靈現特に著しと云ふ、例年五月八日は來詣者殊に多し、本驛より一

里十二町

○水道浄水工場

停車場より五町、東京市の設立に係り規模壯大、即ち全市に供給さるゝ用水を濾過浄水せしむる處なり

目白停車場

(はじめ)

品川より八哩四十九鐵

東京府下北豊島郡高田村字清水ク窪にあり

○神社寺院

○鬼子母神

は停車場より三丁、村内雜司ヶ谷にあり、本尊訶梨帝母天(鬼子母神の像)を安し、副殿に圓満具足天并に十羅刹女像を置く、昔し永祿四年此地に住民某といふ者あり、池に毎夜星の光映るを觀、土を穿ちて訶梨帝母天の像を得たりとぞ、今尙星跡の清水、又は星の井とも稱して存せり、境内には巨大なる銀杏樹多し、茶店相列りて賽詣の客散策の士常に絶えず、毎歲十一月八日より十八日迄は御

會式と云ふて參詣頗る多し。鬼子母神境内に近き高田村に山吹の里といへるあり、

太田道灌遊獵の時雨に遇ひ簀を少女に求めし處なりといへり

○高田馬場 高田村の一部停車場より半里許の處に、高田馬場といへるあり、赤穂義士の一人堀部安兵衛營を討ちし地にして、昔頼朝隅田川合戦に勢揃せしも此處なり。寛永十三年馬場を築き弓馬訓練の所とす

○目白不動 停車場より十町、小石川區關口台町にあり、東豊山新長谷寺と號し、本尊は弘法大師の作なり、當地は關口の高丘にあり、懸崖の上に茶店多く、眺め殊によし

○護國寺 同區音羽町豊島ヶ岡に在り、停車場より十五丁、新義真言宗にして元和元年の創建、元祿年中桂昌院殿修繕を加へ、江戸密乗最大の寺院となる、寺域四萬餘坪、寺院閑寂にして堂院清淨、誠に良刹なり、本尊は瑪瑙石像にして天竺よりの渡來と稱せらる、本堂に猿柱あり、什寶に狩野安信涅槃の大幅あり、豊島ヶ岡には三條公の靈を埋む

◎交通

早稻田(東京専門學校、女子大學、大隈邸等)へ十五丁、關口芭蕉庵(田中子邸)へ十三町、戸山學校へ二十町

板橋停車場

(しほたゐ)

品川より十哩四十鎰

東京府下北豊島郡板橋町元瀧の川村にあり、板橋町へ十五丁を隔つ、板橋町は中山道の首めにして街の中央に岐路あり、左すれば川越街道とす

◎交通

巢鴨町へ二十町、瀧の川へ十町、練馬村へ一里餘、火藥製造所へ六町、音羽護國寺へ三十町

赤羽停車場

(ねはかあ)

板橋より二哩三十六鎰○品川より十哩四十鎰

一區線に出づ

海岸線 岩田沼端間

田端停車場

(たはた)

一區線中に詳し、次驛との哩數二哩四十鎖

南千住停車場

(ゆんみみせ)

上野より四哩五十三鎖

東京府下北豊島郡南千住町にあり、田端より岐れ海岸線に入る第一の停車場にして、又陸羽街道の首亭たり、南は浅草區に連り、北は隅田川を境して南足立郡千住町に接す、市内には警察署郵便電信局等あり、此地元塚地にして草草繁茂せるを後人拓きて原となせしを以て小塚原と稱せりと、今も尙妓樓のある處を稱して小塚原と云へり、停車場前の線路を隔て我社の隅田川貨物取扱所あり、構内頗る廣く中央に隅田川を引きて溝渠を通し、列車と船舶との接續を便にす、故に東北各國より來る貨物は此處に

て直に船に移して市内各所へ分散し、又市内若くは横濱等より船載し來る貨物は、列車に搭じ各地に送出す、故を以て構内にはさしもの百貨常に堆積する事なく、随つて入れば随つて出づ。次驛間に隅田川あり、鐵橋の長さ千六百五十五尺

◎神社、佛閣

○飛鳥神社 は俗に三輪の天王と稱し事代主命を祭る▲無縁寺は昔時死刑に處

せられし者の靈を祀る、街の左傍に刑場の跡あり巨大なる石地藏と不動堂とを建つ

▲誓願寺は大字南組隅田川の南岸にあり其南隣に▲熊野神社あり永承五年源義家貞

任征討の途次、此地を過ぎしに河水漲りて渉るに術なし、依て携ふる處の熊野の神幣

◎名物

川魚、鮎のすいめ焼



北千住停車場

(じせきたゆんた)

上野より五哩六十三釐○荷運夫○自働電話○公衆電報

東京府下南足立郡千住町にあり、隅田川を隔て南千住と相對す、市内に南足立郡役所ありて戸數凡三千人口一萬五千を有す、商業頗る繁盛にして、南端中組には毎朝青物河魚の市を開く、此の地は濱街道と陸羽街道と岐るゝ處なり、近傍に小菅集治監あり

乗替  
らるべし

東武鐵道分岐點なれば吾妻橋、向島附近、粕壁、久喜等へはこゝにて乗替

佛閣

○西新井大師 へは停車場より東武鐵道に乗替ふるを便とす。車賃は片道十五錢往復二十錢位、弘法大師の草創にして五智山總持寺と號し眞言宗なり、本尊大師の像は古へ下總國眞間山弘法寺にありしも、同寺の日蓮宗に屬せし際當寺に徙せしものなりと、毎月廿一日の緣日には信徒の參詣非常に多し

名所

○堀切村菖蒲園 へは當驛より東武鐵道の便あり、園は武藏屋、植木屋の二軒にして、孰れも庭内盡く花菖蒲を栽ゑ紫白色を競ひて頗る美事なり、初夏の候都人遊勝の地とす

名物

川魚、野菜、鮎のすゝめ焼等にして、就中鮎は此地の名産たり都人特に來り食する者多し

龜有停車場

(りあめか)

上野より八哩六十釐○公衆電報

東京府下南葛飾郡龜有村大字龜有にあり、新宿町へ十町許

金町停車場

(ちまなか)

上野より九哩六十八釐

東京府下南葛飾郡金町村にあり、當驛は戸數五百戸許を有する一村落なり、帝釋天の縁日には臨時汽車を出す

◎神社寺院

○柴又帝釋天 停車場を距る拾數町の處に在り、經榮山題經寺と號す、寛永年間  
の創建にて本尊は長二尺五寸巾一尺五寸許の梨板にして、表に帝釋天の像裏に四尊  
四菩薩等を刻す、表門は近年の建築にして構造頗る美なり、寺内に神水あり、參詣者  
之を竹筒に汲み取り携へ歸る者多し、毎庚申の日には都下より參詣する者數萬人、  
路傍には露店を出し頗る賑を極めり、停車場より人車鐵道の便あり

○葛西神社 停車場附近に在り、元と香取神社と唱へしが先年 陛下習志野原に  
御巡幸の際、偶々此處に休憩あらせられ、「葛西」の名を賜はる

○半田稻荷 停車場より八町、田間に一廓を構へ、此所に結構宏壯なる神社あり  
半田稻荷といふ、遠近より參詣するもの常に絶へず、彼の香西金町半田の稻荷とは  
是なり

◎交通

金町製瓦會社へ二十町、二合半領へ二十町

○高須三弘大師 停車場より二十町許、亦參詣者多し

◎物産

野茶、茶

松戸停車場

(どつま)

上野より十二哩二十六鎮

千葉縣下總國東葛飾郡松戸村にあり、濱街道に衝り江戸川其後を流る、水陸の交通極  
めて便に、商業の盛なると郡下殆ど比なし、毎月四九の日に市を開く、前驛との間江  
戸川に千十八呎の鐵橋あり

◎官衙

郡役所、區裁判所

◎交通

野田へ五里、流山へ二里餘、市川へ一里、以上の三地へは流船の往復あり日々四回發船す、貨金野田へ十六錢、流山へ九錢、市川へ十一錢とす

◎古跡

○國府臺 一に鴻の臺と稱す、停車場より三十町許、前驛との間を流る、江戸川の下流にありて、車窓中より認め得べし、古へ國府を置かれたるの地にして、松戸より市川に至る岡陵の總稱とす、此地里見、北條と屢ば對戰したる地にして、江戸川に臨み斷崖直立古松其上に叢生す、風景の美きとは既に世人の知る處なり、加ふるに近傍古趾名跡頗る多く、往時は一の遊勝地たりしも、今や砲兵旅團を此地に置かれ、猥りに庶人の入るを許さざるに至れり、近傍には總寧寺、手見奈の祠、真間の弘法寺、全繼橋等あり

○相模臺 驛の東方に在る高地を稱す、國府臺の役、陣地を置きたるの地とす

馬橋停車場

(しばま)

上野より十四哩二十四鎮

千葉縣下總國東葛飾郡馬橋村にあり

◎交通

流山町へ一里十五町人力車賃二十五錢なり○小金町へ二十二町、孰れも當驛附近にて繁華なる町なり

◎名所、佛閣

○東漸寺 小金町に在り、淨土宗にして佛法山一乘寺と號し關東十八檀林の一なり、末寺三四十を有す、行運社經譽上人の開山にして文明十三年の創建に係り、根本内村にありしを行譽上人今の地に移し大に殿堂を興して檀林となせり、境内廣瀾老幹巨木森立せり、堂宇の結構は更にも言はじ、本尊は阿彌陀如來にして普賢勢至の二菩薩を待せしめ共に座躰の木像なり、毎年四月廿四日より三日圓光大師御忌執

行遠近より参詣するもの絡繹す。又毎月廿五日には説教會執行、且境内に地方苗木市を開く

○馬橋の萬福寺

本尊不動明王及仁王尊は運慶の作にして、全國に數ある中にも絶作のものといふ、天然痘守護に利益ありとて、参詣者非常に多し、法會は毎年三月廿七日より三日間執行す

○五香の善光寺

高木村大字五香に在り、當驛より一里半、本尊は觀世音菩薩にして信濃善光寺の分派と云ひ傳ふ、毎年十月六、七、八日の三日間十夜と稱す、年中第一賑かなる縁日なり、又毎月一日、十五日、十八日の縁日にも遠近より参詣するもの多し

○初茸狩

右五香村近傍の山中には初茸、松露の發生するあり、期節には一日の勝遊を試むるに足る

○遊獵地

當驛より柏方面に向へる一帯の山野は鴨、鴨、鴨等夥しく遊獵家の盛んに來遊する處なり、案内者一人の日當七拾錢位なり

柏停車場

(はしか)

上野より十九哩二十三鎮

千葉縣下總國東葛飾郡千代田村大字豊四季にあり、當驛附近より次驛の間は一帯に小金ケ原の廣原にして風色快潤を極む

○小金ケ原

は古へ高田、臺、上野、中野、印西の五區に分ちて共に牧場たりしが、明治二年東京府下無産の窮民を移して開墾に従事せしめしより、今は漸次村落を成すに至れり

◎名所

○諏訪神社

八木村字駒木に在り、停車場より三十町行路平坦なり、俗に駒木の諏訪と稱し關東有數の明神にして信者常に絶えず、八月廿三日は大祭にして當日の参詣者は實に數萬人なりといふ

○布施辨財天

當驛より三十八丁にして我孫子驛よりは八丁計、道は遠けれども

道路平坦にして途中廣潤なるが爲め、東京附近よりは當驛よりするを順路とす、富勞村大字布施にあり、關東三辨天の一なり、昔此邊一帶の池沼なりしが、大道年間紅龍現はれ土魂を捧げ、一鳥を作る、然るに其鳥毎夜光明を發しければ、里人之を怪む、時に一人夢想に感じ、光明を尋て鳥上の窟中に至れば、一體の辨才天あり、依て傍に小祠を建て、之を祀れり、後程なく弘法大師の巡遊せらるゝ時、此山を物語りけるに大師亦之を奇とし、親しく其像を拜せしに、巖に自ら彫刻して但馬國朝來郡筒江の郷に安置せしものなりしかば、大に其靈異を感じ、嵯峨天皇に奏請し、勅許を得て弘仁十四年終に伽藍を作り、紅龍山東海寺と號し、又地名は辨天の利益に縁みて布施と稱したり、其後將門の亂兵燹に遇ひて伽藍は烏有に歸せり、六孫王經基武藏介となりて、箕田城にあるの時一日來詣し、尊像の松の梢にありて光を放つを見收め歸り、將門伏討の後再興して松光院と號せりと、是其縁起の大略なり、地は利根河畔の小丘にあり、殿堂山門等稍見るべきあり、前面に曙山あり、春の櫻の紅葉共に美なり、湖畔に酒樓二戸ありて利根川に望み眺望頗佳、川魚の調理亦都人の口に適せざるに非ず、納涼に恰好の地なり

○茸狩 當驛附近の山林多く初茸を生ず、東京より來りて茸狩を試むる遊客年毎に多し、停車場前の茶店にて案内すべし、

我孫子停車場

(こびあ)

上野より二十一哩七十九鎖

千葉縣下總國東葛飾郡我孫子町にあり、濱街道の一驛にして、利根川を隔て、取手驛と相對す

乗替

成田鐵道への分岐點なれば同地への旅客は乗替らるべし。此地方の人の佐倉方面へ赴くも亦然り

◎交通

成田山へ九里、布施町へ三里、木下町へ四里

◎名所

○手賀沼 は停車場附近にあり、長さ三里に及び、湖畔には小丘相連れるをもて、

或は懸崖をなし或は長汀をなす、其曲浦をなせる處は水に枕みて草舎七八戸、漁舟之を臨みて歸る、野渡の趣をなせる處には、垂柳二三株、牧童馬を曳て其蔭に憩ふ、風光宛ら畫圖の如し、冬季は水禽群かり村人の網に捕はれ、銃獵家の來遊するもの亦多し、其地の物産となして第一位を占む、湖畔の小丘に子の神と稱するあり社前の酒亭は湖を望むに最も宜し

**取手停車場**

(てりど)

上野より廿五哩六十三鎧〇五分以上停車場

茨城縣下總國北相馬町和田に在り、利根河畔に接し水陸の便に富む、此地天正年間大鹿左衛門の城きたる處にして城趾今尙歴然存す、戸數六百餘を有し、稍繁華の一市街なり、前驛との間なる鐵橋は長さ三千百十呎、全線中最長の橋梁とす

○官 衙

郡役所、警察署、町役場、稅務所、登記所、郵便電信局

○銀 行

取手銀行

○交 通

水海道町へ五里馬車常に往復す、布川へ三里、相馬へ一里廿四町、守谷へ二里二十町

○旅 店

山口屋、釜屋

○名 物

奈夏漬

○名 所 佛 閣

○長禪寺の大師 停車場前なる一丘陵の上に在り、利根の長流を臨みて富士の

秀峰に對し風光尤も佳、一月、十二月兩度緣日あり

○岡堰 停車場より一里五丁、北相馬郡山王村地内にあり、近縣第一の大堰にして

永祿二年の創設にかゝる、満堤櫻を植ゑ風景亦佳、曾て小松宮殿下の御覽じ給ひし

事あり

○相馬古御所 の跡は停車場より二里廿町、北相馬郡守谷町守谷にあり、廣袤凡六萬五千餘坪、廓趾溝跡今猶指點すべし、將門の亡びし後孫小太郎文國七世の孫重國此墟を修め居れり、後徳川氏の世に至り堀田正俊此地に封ぜられ、天和元年古河城に徙るに及び、竟に廢城となる

藤代停車場

(ろひじふ)

上野より二十九哩三十九鎮

茨城縣下總國北相馬郡相馬町字和田にあり常驛は龍ヶ崎へ通する順路なり、其距離一里三十二丁

佐貫停車場

(きぬざ)

上野より三十哩五十二鎮

茨城縣常陸國稻敷郡馴染村なる佐貫にあり、龍ヶ崎鐵道は此驛より分岐す

乗替 入地、門倉、龍ヶ崎等へ赴く人々は茲より乗替らるべし、此鐵道長さ二哩七十一鎮

◎交通

○龍ヶ崎町 は戸數約二千、警察署、郵便電信局、區裁判所、中學校等あり、蕪の集會地にして春蠶後商人多く入込む、附近に頼政の墓なるものあり、或ひは二區線古河驛附近なるが眞のにして、こは息子仲綱のなりともいふ

◎名所、神佛

○女化原 は停車場より一里許、濱街道を横斷して東西三里十八町南北三里、古へは根本ヶ原と稱したりしが、女化が原と改めたるに就き例の怪譚あり、昔此地に年老ひし狐あり、農夫忠七なる者の爲めに命を助けられ、其恩に報いむと美人に化して忠七方に嫁入し、夫妻睦ましく年月を過ぎ遂に一女二男をもをけ、末子漸く三才なりし時狐は一首の歌を遺し行く所を知らずなりぬ、近隣其奇異を唱へて女化が原と呼ぶに至れりと、女化稻荷と稱するは其老狐を祭りたる祠にして參詣者常に多

○牛久沼 停車場より八丁、園圍凡五里、烟波渺茫四時の眺めあかず、尊菜、ヤマメ等を産す

○金龍寺 停車場より十町ばかり、若柴村にあり、寺寶に李龍眠の十六羅漢の圖あり、珍奇の名畫とす、こは北條氏が什物なりしを、後新田義貞の手に入りしにて金龍寺は義貞が菩提所なりしかば、此寺の什寶とはなれりけり、新田の裔上州金山より此地へ居城を移せし時、此寺も共に移りしなり

牛久停車場

(くしろ)

上野より三十三哩七十八鎮

常陸國稻敷郡牛久村にあり、矢田部町へ二里三十町、矢田部町には警察署、郡役所等あり

◎名所神社

○女化神社 停車場より一里八丁、前驛に委し

○牛久沼 停車場より一里、同上

○月讀神社 停車場を去る一里半、岡田村なる樋の澤に在り、毎月陰曆廿三日は參詣者多く、殊に一、七、十一の三月は増車の必要ある程なり

荒川沖停車場

(あらかは)

上野より三十八哩七鎮

茨城縣常陸國稻敷郡朝日村大字荒川沖にあり

◎神社

○月讀神社 停車場より一里許、前驛に委し

土浦停車場

(らうちつ)

上野より四十二哩十二鎮五分間以上停車場○途中乗繼○辨當販賣者○荷運夫あり



茨城縣常陸國新明郡土浦町にあり、當驛は舊土屋采女正の城下にして、戸數三千餘、人口凡一萬五千を有し、此線路内に於ける第一等の都會なり、特に北には筑波を仰ぎ、南に霞ヶ浦を望み、風景絶佳の處なり

○官 衙

郡役所、地方裁判所、區裁判所、警察署、監獄署、町役場、稅務署、郵便電信局

○學校、病院

尋常中學校、松岡眼科病院、松葉病院

○銀行、會社

第五十銀行、農商銀行、三つ輪銀行、土浦運送株式會社、土浦運輸合資會社、櫻組運送合資會社、常陽製糸會社、製蓬株式會社、塚本製糸場あり

○交 通

銚子港、鹿島、佐原、潮來行の小蒸汽船毎日七回宛往來す、北條町へ四里廿町、乗合馬車の便あり賃金廿五錢、筑波町へ五里廿九町、谷田部町へ三里十二町、水海道町へ五里三十四町

○名 所 古 跡

○霞浦 は一に香澄浦に作る東西七里十町、南北六里卅三町、周圍三十四里十七町、頗る大湖なり、湖中に一島あり浮島と稱す、貫之の歌に「櫻川瀬々の白浪しけ、れは霞うなかつ信太の浮島」とは是なり、香取、鹿島、潮來、佐原はみな、この水利によりて交通し得べし、湖中の勝區の名稱たけにてもあぐれば

▲沖 宿

駒ヶ峯觀世音、鹿島神社、三峯神社、大日神社、籠り神社、海藏寺、崎濱横穴

▲木 原

木原館址、阿彌神社、楯縫神社、永慶寺、同居塚、生田長者宅址、花見塚、旗立松、佐倉砦址、大山の岬、江戸崎町、江戸崎城址、土岐氏墓、古渡城址、高田權現、神宮寺城址、大杉神社、阿波崎城址、浮島

▲牛 渡

古蹟、鞍掛松、僧空也墓

▲有 河

一瀬川

▲志戸崎

藍見崎觀世音

▲井上

玉清井、四蓮寺、王造高須松

▲麻生

麻生城趾、三好公園、天王崎、香澄の里、香澄山、霞崎

▲牛堀

熊野神社、千歳樓霞ヶ浦沿岸第一の旅舎風色尤も佳、鰻の名物、停車場附近より漁船の便あり

▲潮來

稻荷山、汐浜里、長勝寺、硯宮、島帽子松、地藏川岸、潮來十六島

▲大舟津

浪逆浦、鹿島神宮、御笠山、栗石、涼泉池、鎌足公宅趾、根本寺、沼尾池、塚原下傳墓、高間原、忠禮神社、鹿島浦其他

等なり

○土浦城址

常町内西町に在り、今は諸官衙の所在地となれり、傳へいふ平將

門の築く所、慶長六年には松平伊豆守信一來り居り、慶安三年には朽木式部少輔代りて居り、爾來土屋家の居城となれり、門前に一大老松あり、古幹二丈餘の處に大板の寄木あり、又舊物見櫓の屋根の上には一丈餘の榎あり、藤森弘庵の郁文館亦此中にあり

○五總明神(國香墓)

字明神にあり、常陸大掾平國香を祀れり、社殿創立の年

代詳かならず、史を按するに、天慶年間平將門下總國相馬郡守谷城によりて謀反せしより、平國香之を討ちしも、戰破れて死する處を詳にせず、然れとも茲に社を存し、九百餘年の久しき毎年九月廿三日祭典を行ふ、徳川氏天下平定の後、將門の裔相馬氏陸奥國中村にあり、濱街道を往復するの途次土浦を通過するや、必ず暴風雨又は異怪の事あり、是れによりて國香の靈魂祟りをなすならんとのと口碑に傳はるに至れり、但し國香の墓は下總國北相馬郡川原代村にもあり孰れか正しきを知らず

○西子岡公園

停車場附近にあり、櫻樹高く眺望尤も佳なり、境内に月讀神社を祀る、往昔土浦藩主土屋氏亭を此地に起し垂松亭と名づく八景の和歌あり

霞浦の歸帆

吹風もなきし霞が浦ちかくつれてみなとへかへる友船

田の面の落雁

いくゆふべ田の面にやとをかりがれの落くる聲に秋はさびしき

小松の秋の月

ふきはれて月ぞすみゆく闇への雲はあとなき松のあらしに

照井の晩鐘

夕つくひこゝにてるおの影くれてきくもさびしき古寺のかれ

錢龜の夕照

夕日影うつらぬまゝに旅人のあらはにわたるさとの板橋

田村の夜の雨

それかとも里一むらの夜の雨にほのみえそめしともし火の影

高津の晴嵐

市人の聲もたかつの里近みけさはにきはふ晴るゝあらしに

筑波の暮雪

暮かゝる空とも見えず筑波ねのは山しげ山雪にうもれて

○鷺宮公園 停車場より凡六丁、園内噴水あり梅、櫻、老松多く納涼に適す、鷺

神社を祀る

○總宜園 停車場より十五六丁、櫻樹多く花季遠方より望めば白雲の簇るが如く甚だ美観を極む

○小田城趾 停車場より三里、筑波郡小田村にあり小田晴久の城趾にして碑あり、近傍の地中より屢遺物を出す

○藤房卿遺髮塔 停車場より二里許り、新治郡藤澤村にあり、明神塚、又は髮塚ともいふ、傍らに神宮寺あり、藏房卿隠棲の地と傳へらる

○泉觀世音 停車場より五里筑波郡泉村にあり

○日枝神社 停車場より三里許り、新治郡山の莊村にあり、澤部山王と稱す

○一ノ矢天皇 停車場より三里、参詣者多し

○蠶影神社 停車場より五里筑波郡神郡村にあり、養蠶家の守護神にして参詣者頗多し、欽明天皇の御製あり「常陸なるたてとたてのにおるぬのは筑波の山のにしきなりけり」

○筑波山 當驛を距る事五里廿九丁、山頂迄は六里廿九丁人力車賃七十五錢、委

しくは下館の部に在り、今はたゞ此驛このまきより筑波山下に至る迄の名稱を示さん  
○筑波街道 土浦より真鍋臺に至り、左に折れて藤澤、小田、神郡、臼井までは  
人力車を通ず、里程五里、夫より山坂やまざか嶮けんにて道筋大石多く、問道馬かんだうを通ずるのみ  
なり

▲眞 鍋

土浦停車場より

善應寺、鏡井、東雄紀徳碑、總宜園花、八坂神社

十五丁

▲藤 澤

藤澤城址、神宮寺、藤房剱髮塚

全一里三十丁

▲高 岡

法雲寺

全

▲小 田

小田城址、三村山清涼院址

全三里

▲北 條

北條條址、多氣城址、泉觀音

全四里二十丁

▲田 井

▲筑波神社

全五里

山上の名跡

全五里二十丁

◎旅 店

松庄、櫻井、笹木、丸方、不二館

◎料 理 店

日新樓、滑養館、霞月

◎物 産

米麥、繭、生糸、干魚、鱈魚、醬油、白魚、わかさぎ、櫻海老等

◎劇 場

鈴木座

神立停車場

(つたむか)

上野より四十五哩七十八釐

茨城縣常陸國新治郡上天津村にあり

◎名 所

○成澤清水 停車場を去る約六丁の西方に在り、その響強きより此の名あり

○鶴沼 停車場を去る約十町、周圍二里餘、鴨多く銃獵に適す

○茸狩 停車場附近に初茸尤も多し

◎物 産

新炭、茶種、穀物

◎旅 店

久野屋、小川樓

高濱停車場

(まはかた)

上野より五十哩○公衆電報

茨城縣常陸國新治郡高濱町にあり、霞ヶ浦に望める一市にして佐原、銚子等と舟楫の

便あり、水陸貨客の接續地なり、又小川、玉造、武藏野原等へは當驛より往復するを便とす、小川へ一里廿丁、玉造へ四里廿五丁、銚子へ二十二里

石岡停車場

(かをし)

上野より五十二哩二十銀

茨城縣常陸國新治郡石岡町にあり、當驛は茨城縣下の名邑にして舊國府のありし處なり、故に往古は府中と稱したりしも、維新後今の名に改めたり、戸數二千三百、人口一萬余を有し、商業甚だ盛なり、市中には造酒業者、醬油製造業者多く、巍然たる大建物は遠方より眺めらる

◎名 所 古 跡

○國香の墓 停車場より十町許、宇貝地平福寺内に平國香の墓及大塚氏歴代の墳墓あり、土浦及び下總にあると、孰れか是なるを知らず

○戀瀬川 は水源を加波、難臺二峰の間より出て、當市の傍を流れて霞浦に入

る、家隆の歌に「戀瀬川つれなき中に行く水は年もせかれぬ涙なりけり」とは即ち此川なり

○旅 店

○萬屋、龜下

○交 通

○筑波山 當驛を距ること五里、志筑へ一里、小川町へ二里、柿岡町へ三里

羽鳥停車場

(りどは)

上野より五十六哩廿二鎧

茨城縣常陸國東茨城郡竹原村にあり、當驛は薪炭の産出地にして別に記すべきなし

岩間停車場

(まはい)

上野より五十九哩五十一鎧

茨城縣常陸國西茨城郡岩間村にあり、當驛は南川根村へ到るの順路なり

○物 産

薪炭

○名 所

○閑居山 停車場を去る西一里六十町餘、山腹に弘法大師の祠あり、老櫻古杉數百株あり、山頂より霞ヶ浦を下瞰して風光大に佳し、

○愛宕神社 當驛より二十三丁、當驛前面に聳ゆる愛宕山頂にあり、山麓迄五丁道路平坦なれど山頂への十八丁の坂路は峻峻なり、大祭日陰曆五月廿四日、祭日同毎月二十四日

○難臺山 當驛より一里十丁、當驛西部愛宕山と對立する高山にして、南北朝のとき小田五郎勝綱の兵を擧げ官軍に應ぜしところ、今尙城壘の趾を存す、屏風岩、千人窟、五里穴、等見るべきものあり、目下花崗石の産出あり、山麓迄車馬を通ず  
○瀧前不動 當驛より三十丁、道路平坦人力車を通ず、岩間上郷難臺山麓にあり境内幽邃にして飛瀑あり、落下壺丈余、避暑の好適地として近來遠近より來る人多

◎交通

新治郡柿岡町へ三里、加波山へ三里(水戸地方よりの順路なり)、東茨城郡片倉へ二里、西茨城郡川根村へ一里、

友部停車場

(べもど)

上野より六十三哩七十三鐵○小山まで三十一哩廿八鐵  
○五分間以上停車○辨當販賣○乘繼驛○公衆電報取扱

茨城縣西茨城郡友部村にあり、當驛は海岸線の分岐點にして、小山地方より水戸地方に到らんとするものと、土浦地方より水戸に到らんとするものとの相合する所なり、此地素と山間の一僻村に過ぎずといへども高燥にして空氣清く、眼病等の治療には恰好の處なり

乗替

水戸、土浦方面より小山地方への旅客はこゝにて乗替らるべし

◎病院

松岡眼科専門病院 (停車場附近に在り)

◎會社

委託販賣倉庫會社 (亦附近に在り)

◎交通

當驛は蘆生系の産地なる北川根村へ到る順路なり

◎旅店

伊勢屋、白木屋

◎物産

薪炭、雜穀

内原停車場

(らばちう)

上野より六十六哩七十一鐵

茨城縣常陸國東茨城郡下中妻村にあり、薪炭を産す

◎温泉、古跡

○成澤温泉 停車場より二里、山根村成澤にあり、富屋、泉屋の二浴宿あり、功  
能は疝氣、痔、寸白、癩、皮膚病等によし、一名徳香の湯ともいふは徳香院の僧侶  
初めてこの湯を發見せしが爲めなり

○小松寺 停車場より二里餘、小松村大字上入野に、平重盛の墓と稱するあり、  
塚は方二間高三四尺、塚上古碑一基あり、平家一族没落の後、平貞能、重盛の骨  
及守護佛を負ひ、此處に至り、山上に葬り一精舎を建て自ら僧となれりと傳ふ、重  
盛の墓は陸奥國にもあり、眞偽を知らず、此寺には水戸の義公烈公が證明せし弘法  
大師の作像、傳教大師の書等あり

上野より七十哩三十四鎖

### 赤塚停車場

(かつかあ)

茨城縣常陸國東茨城郡河和田村字赤塚にあり、有名なる好文亭は停車場の眞上に在り

### 水戸停車場

(とみ)

小山より四十一哩四十五鎖、上野より七十四哩十鎖○  
五分以上停車場○乗機○辨當販賣者○荷運天○公衆  
電報あり

茨城縣常陸國水戸市上市柵町にあり、舊城址に據り、仙波湖に枕み風景尤も佳し、水  
戸は舊水戸中納言の城市にして、今は縣廳所在の地たり、東西一里八町南北十五町四  
十間市坊の數百十九を有し、人煙頗る稠密にして商業亦繁盛を極む、此地は濱街道、  
棚倉街道、白川街道、宇都宮街道の衝にあたり、後に那珂川の流れありて舟楫の便に  
富む、此地に水戸鐵道あり、同線は此地より起り太田町に至る十二哩餘間の鐵道なり  
○官 衙 菅谷、額田、佐竹、太田等へ行かんとする人は、水戸鐵道に乗替らるべし

縣廳、市役所、郡役所、地方裁判所、監獄署、警察署、小林區署、郵便電信局、登記所、葉煙草賣所、聯  
區司令部、測候所、稅務署等あり

### ○學校、病院

尋常師範學校、尋常中學校、高等女學校、茨城縣病院



◎銀行、會社

川崎銀行、第四四銀行、第六十二銀行、水戸農工銀行、商業銀行、製糸場

◎新聞社

いばらき新聞社、茨城日報社、常陸新聞、茨城新報

◎旅店

鈴木屋、芝田屋、太田屋、森川屋、清香亭、伊勢彦、松水館、鶴田いし等

◎料理店

垂楊亭、山口樓、津の國、清香亭、本橋

◎劇場及寄席

歌舞伎座、水府座、常盤座、富榮亭

◎物産

煙草、鱈鹽辛、寒水石細工物、梅干等

◎交通

那珂川汽船大に發達し、水戸と湊、祝町間に一日九回の往復あり、水戸の發着所は

停車場に近き杉山河岸よりにして、湊の發着所より其附近の勝地への里程は左の如し

湊公園五町、水門歸帆十三町、楳原神社十町、天満宮六町、姥ヶ懐十五町、四郎介稻荷八町、華藏院三町、平磯廿五町、觀瀾所卅町、大洗卅五町、護摩壇卅町、巖船夕照十二町、神力稻荷一里五町、子ノ日原三十五町

○水戸城趾 市の中央上市及び下市の間に在りて、千波湖と那珂川と其前後に迫る、上世大塚氏始めて此地に城きて累世之に據り、次で江戸氏數世城主となり、天正文祿の交佐竹氏代りて之に居り、慶長年間關ヶ原の役畢るの後も徳川家康其六子信吉を此に封ず、信吉早夭して嗣なく、弟頼宣之に代り其の駿河に轉ずるに及びて、頼房封を此地に受け以て光圀以下數世に傳ふ、維新後廢城に歸し今は其地を割きて師範學校、博物館の敷地と爲せしも猶ほ城樓及び石壘、空濠を存す、停車場に近し

○第二公園 停車場の眞上に在り、舊城の三の丸にして、弘道館のありし所なり、館の四方梅樹數千株老幹起伏して境内を蔽ひ、花時遠望すれば宛然白雪の如し、弘道館は今水戸市の保存する所に係り、其一部は現に幼稚園に充てられ、他は舊形の

まゝ存して、縦覽を許す、烈公當時の風趣を追想すべし、玄關の戸襖に彈痕あるは天狗連の所爲なりしといふ、有名なる弘道館の石碑は、館の附近八角堂の中に立てらる、石材は寒水石にして碑文は烈公の親筆なり

○東照宮 停車場の西儘かに二町、上市宇宮ノ下、千波湖の北岸に在り、郷社にして徳川家康の靈を祀る、石階南より通じ古松、老杉亭々として社殿を護するもの、如く頗る幽靜の趣きあり、藩政の日には水戸第一の大社にして結構壯麗を極めしも、廢藩後は舊時の美觀を失ふに至れり

○第一公園 停車場より二十町、上市の西南にありて、常磐公園といふ、天保年間烈公の經營に係り借樂園と名けらる、蓋し官民共に樂むの意を寓す、當時梅樹を栽培したること實に六千株の多きに及びたりしが、今は漸く減じて現に四千株に過ぎざるに至れり、園の中央に好文亭樂壽樓などあり、曾て烈公の諸士を集め詩を賦し歌を詠せられたる所なり、此園は舊に梅花に著名なるのみならず、四時の花卉を栽へ、就中躑躅花は其數最も多し、又山水の風致に富み、日本三公園の一と呼ばる、中に何陋庵あり、仙奕堂あり、仙湖の碑は烈公が選みたる水戸八景の一、仙湖の暮

雪を刻せしもの、吐玉泉、櫻山、綠ヶ岡(義公の別墅たりし處)常磐神社(義公、烈公を祭る)等附近にあり

○藤田東湖の墓 停車場より二十町上市の内常磐村共同墓地に在り、斑石を以て造り徳川齊昭題して「表誠之碑」と云ふ、碑文は藩儒青山延光の撰する所なり、傍らに藤田幽谷及び元治元年國難の爲めに殉死せし水戸七人の墓あり、中央に徳川昭武自筆の殉難之碑を建つ

○曝井舊趾 停車場より一里、常磐村瀧阪に在り、道の東傍小池を存し清泉常に涌出するもの其舊趾なり、萬葉集に「三粟乃中爾向有曝井之不絶將通彼所爾妻毛我」又八雲抄衣笠大内臣の歌に「今ぞ知る思ひ出つゝさらし井の更にも人は戀しかりけり」とあり

○西山館 水戸鐵道により太田町を下り、これより西に距る十町許譽田村大字新宿に在り、著名なる徳川光圀が大日本史を編纂したる遺跡にして今尙ほ之を存す、元祿三年光圀此地の佳趣多きを見て館を此に營み、翌年徙りて之に居り、自ら西山隠士と號す、館岩谷に據つて塙垣を設けず茅屋衛門村民の居に異なるなし、僅々數人の

侍臣皆老病癡疾の者を用ひ婢妾亦酒掃に供するのみ、但し今存する所の者は文化火災後の再築に係れり

附近に桃源橋(桃の名所)久昌寺(水戸八勝の一)瑞龍山(水戸累世の墳墓、朱舜水の墓あり)などの名勝あり

○大洗の海水浴

有名なる大洗の海水浴場は、水戸市を距ること三里廿五丁、磯濱村に在り、前面は渺茫たる大洋に對し、後方は蜿蜒たる丘陵を負ひ、一帯の青松白砂と相映して風光の美いはん方なし、此地鬼洗の澤、琴彈の瀑、烏帽子岩、磯濱八景、大洗神社等遊人の杖を曳くべき處亦尠からず、旅店には金波樓、魚來庵、小林樓、大洗ホテルあり一週宿泊七圓三十五錢より五圓位迄、那珂川汽船の便によれば湊より三十五町にて此地に至るべし、磯濱町は海水浴場の南六七町の處に在り、人口八千許小繁華の地なり、湊町はその北二十四丁、祝町も亦附近に在り、こゝには妓樓を置く

○平磯町 停車場より四里十丁、那珂川汽船によりて湊町に赴き、こゝより南一里許を經平磯町に至る、海濱岩礁多く潮水極めて清澄、風景亦頗る爽闊にして、能く三伏の暑を避るに足れり、海水浴場あり旅館少なからず就中萬年樓、平野屋、平磯館、東樓、開運樓等あり、宿賃は一週間六圓より三圓五十錢位迄

佐和停車場

(わ さ)

上野より八十哩三十一

茨城縣常陸國那珂郡佐野村大字高場にあり

◎交通

平磯へ三里、磯崎海水浴場へ貳里十五丁、湊町へ三里十六町

石神停車場

(みがしい)

上野より八十三哩廿二

茨城縣常陸國那珂郡石神村にあり、虚空藏の祭日即ち舊三月十三日には臨時汽車を出す次驛との間に久慈川あり、鐵橋の長さ千〇〇七呎

◎名 所

○村松虚空堂 停車場を距ること二十町許の所にあり、俗に「十三参り」といふ、男女共十三歳の時に参詣せば福徳其身に生ずるとて遠近より参詣するもの多し

大甕停車場

(かみほね)

上野より八十七哩七十餘

茨城縣常陸國多賀郡坂上村字甕の原にあり、近傍に泉川あり、これが爲め彼の百人一首にある中納言兼輔の歌に「みかのはらわきてながるゝいづみ川いづみきとてか戀しかるらん」とは即ち此地を咏したるものなりなど、附會の傳説さへあり、笑ふべしといへども、兎に角大和の同所と何等かの關係あるならん

◎名 所

○泉か森 は停車場より六町許にして森林あり、老樹翁鬱天を掩ふ、中に一祠を

置て天速玉姫命を祀る、又境内辨天祠の傍に一清泉あり、所謂泉川の水源なり、水は池底より湧出し、銀砂巴狀を成す、里人はいふ、人其傍に立ち大聲湧たり々々と連呼すれば、水量頓に多しと

○大甕神社 巨大の怪巖層々相重りて數丈の高に聳へ頂に社殿あり、素盞雄命を祭る、鐵鎖に縋り僅に攀るを得、更に歩を轉じて左方の高地に至れば、前面一碧鹿島洋の渺茫たるを見水木の磯、久慈の濱より磯夕濱に至る長汀曲浦一眸に入る、後方は富士筑波の二峯を併せて望み得べし

◎交 通

久慈町へ十五町、車代十五錢、水木濱へ十二町、車代十二錢、何れも漁場にして又海水浴に適地たり、太田町へ二里二十町

◎旅 店

久慈濱には銀波樓、永木濱には濱屋、綠屋、若松屋、萩野屋、海老屋あり

◎物 産

鮮魚を第一とす

下 孫 停 車 場

(ごまもし)

上野より九十哩六十鐘

茨城縣常陸國多賀郡河原字細内にあり

◎ 名 所

- 鮎川海水浴 停車場を距る十五丁諏訪の下流にあり、頗る風致に富む、浴所は石を焼き海水を沸す、痔疾に特效ありと云ふ
- 河原字海水浴 停車場より十町、風光絶佳の地なり、旅館は後に示せり
- 諏訪梅林 停車場を距る十八丁、諏訪神社の近傍にあり、老株數百、山水の眺望絶佳、こは烈公遺愛の梅なりといふ
- 諏訪の水穴 諏訪の梅林を距る十丁餘、鮎川の水源にして清泉湧出す、水戸義公名けて神仙洞と云ふ
- 大久保風穴 停車場を距る二十丁、未だ穴中の實相を探り窮めたる人なし

助 川 停 車 場

(はがけす)

上野より九十三哩六十四鐘○乗継驛○公衆電報

○ 眞弓山 停車場を距る一里半、八幡太郎が凱歌を奏せし古蹟にして、眞弓神社あり、東海岸の眺望尤もよし、これより寒水石を産す

◎ 旅 店

阪木屋、長野屋、眞砂屋、岩崎樓、樂遊樓、泉屋等の旅店河原字海水浴場にあり

◎ 物 産

鮮魚、寒水石、砥石

茨城縣常陸國多賀郡高鈴村字助川に在り、當驛には高萩警察分署あり、大甕附近より勿來附近まで、沿線海あり、山あり、白沙青松風光極めてよし

○ 納涼地としての助川 東京以北の地が以南の地に比して、一昧に涼しかるべきは、何人も辭まざる處なれば、此地の避暑地として、温度の點よりのみいひて、大磯、沼津などの海水浴場より低かるべきは云はんも贅なるに似たれど、冬季に

右表の如く、南北各地を通じて、温度の最も低きは一月にして、晝夜平均の度は高萩に於て一度二分、助川に於ては二度五分を示し、高萩は各地中最も寒冷なれども助川に至りては東京より暖に横濱と同一にして、沼津大磯に比すれば稍々寒し、

平均						夜				
沼津	大磯	横濱	東京	助川	高萩	沼津	横濱	東京	助川	高萩
四、〇	三、一	二、五	一、六	二、五	二、一	二、二	一、九	〇、一	一、五	一、〇
五、六	四、五	三、七	三、〇	二、六	二、一	四、八	三、一	二、〇	一、一	〇、七
七、五	六、七	六、三	五、五	五、〇	四、五	六、八	五、二	四、〇	三、一	二、八
一三、三	一二、三	一一、八	一一、二	九、八	九、〇	一三、三	一二、六	一一、〇	九、九	九、三
一七、九	一七、七	一七、八	一七、二	一五、七	一六、六	一六、八	一六、〇	一六、二	一四、四	一四、一
一九、六	一九、四	一九、六	一九、〇	一八、三	一八、〇	一八、二	一八、二	一八、二	一六、八	一六、五
二二、五	二二、三	二二、一	二一、六	二〇、三	二〇、五	二二、六	二二、三	二二、六	二〇、四	二〇、三
二五、九	二五、八	二五、四	二四、八	二四、七	二四、三	二五、七	二五、三	二五、三	二三、九	二三、三
二七、〇	二七、〇	二七、二	二六、五	二六、一	二六、〇	二七、二	二七、〇	二七、〇	二五、八	二五、五
二七、五	二七、四	二七、三	二六、五	二六、一	二六、〇	二七、九	二七、六	二七、四	二五、〇	二四、七
二八、三	二八、三	二八、〇	二七、一	二六、九	二六、七	二八、二	二八、一	二八、一	二六、九	二六、五
二九、七	二九、七	二九、二	二八、五	二八、一	二八、〇	二九、七	二九、三	二九、三	二八、〇	二七、七
三〇、七	三〇、七	三〇、五	三〇、〇	二九、九	二九、八	三〇、二	三〇、一	三〇、一	二八、八	二八、五
三二、二	三二、二	三二、一	三一、五	三一、一	三一、〇	三二、二	三二、一	三二、一	三〇、九	三〇、六
三三、三	三三、三	三三、二	三二、六	三二、二	三二、一	三三、三	三三、二	三三、二	三一、一	三一、〇
三三、九	三三、八	三三、四	三二、八	三二、七	三二、五	三三、七	三三、三	三三、三	三一、九	三一、五
三六、七	三六、七	三六、二	三五、五	三五、一	三五、〇	三六、七	三六、六	三六、六	三四、四	三四、一
三九、三	三九、三	三九、一	三八、五	三八、一	三八、〇	三九、三	三九、二	三九、二	三六、九	三六、五
四〇、七	四〇、七	四〇、五	四〇、〇	三九、九	三九、八	四〇、七	四〇、六	四〇、六	三八、八	三八、五
四二、一	四二、一	四二、〇	四一、五	四一、一	四一、〇	四二、一	四二、〇	四二、〇	三九、八	三九、五
四三、七	四三、七	四三、五	四三、〇	四二、九	四二、八	四三、七	四三、六	四三、六	四〇、五	四〇、二
四五、二	四五、二	四五、一	四五、〇	四五、〇	四五、〇	四五、二	四五、一	四五、一	四二、四	四二、一
四六、八	四六、八	四六、七	四六、六	四六、六	四六、六	四六、八	四六、七	四六、七	四三、三	四三、〇
四八、二	四八、二	四八、一	四八、〇	四八、〇	四八、〇	四八、二	四八、一	四八、一	四四、二	四四、〇
四九、八	四九、八	四九、七	四九、六	四九、六	四九、六	四九、八	四九、七	四九、七	四五、一	四五、〇
五一、二	五一、二	五一、一	五一、〇	五一、〇	五一、〇	五一、二	五一、一	五一、一	四六、〇	四五、九
五二、八	五二、八	五二、七	五二、六	五二、六	五二、六	五二、八	五二、七	五二、七	四六、九	四六、八
五四、三	五四、三	五四、二	五四、一	五四、一	五四、一	五四、三	五四、二	五四、二	四七、八	四七、七
五五、九	五五、九	五五、八	五五、七	五五、七	五五、七	五五、九	五五、八	五五、八	四八、七	四八、六
五七、五	五七、五	五七、四	五七、三	五七、三	五七、三	五七、五	五七、四	五七、四	四九、六	四九、五
五九、〇	五九、〇	五八、九	五八、八	五八、八	五八、八	五九、〇	五八、九	五八、九	五〇、五	五〇、四
六〇、六	六〇、六	六〇、五	六〇、四	六〇、四	六〇、四	六〇、六	六〇、五	六〇、五	五一、四	五一、三
六二、一	六二、一	六二、〇	六二、〇	六二、〇	六二、〇	六二、一	六二、〇	六二、〇	五二、三	五二、二
六三、七	六三、七	六三、六	六三、五	六三、五	六三、五	六三、七	六三、六	六三、六	五三、二	五三、一
六五、二	六五、二	六五、一	六五、〇	六五、〇	六五、〇	六五、二	六五、一	六五、一	五四、一	五四、〇
六六、八	六六、八	六六、七	六六、六	六六、六	六六、六	六六、八	六六、七	六六、七	五五、〇	五四、九
六八、三	六八、三	六八、二	六八、一	六八、一	六八、一	六八、三	六八、二	六八、二	五五、九	五五、八
六九、九	六九、九	六九、八	六九、七	六九、七	六九、七	六九、九	六九、八	六九、八	五六、八	五六、七
七一、四	七一、四	七一、三	七一、二	七一、二	七一、二	七一、四	七一、三	七一、三	五七、七	五七、六
七三、〇	七三、〇	七二、九	七二、八	七二、八	七二、八	七三、〇	七二、九	七二、九	五八、六	五八、五
七四、五	七四、五	七四、四	七四、三	七四、三	七四、三	七四、五	七四、四	七四、四	五九、五	五九、四
七六、一	七六、一	七六、〇	七五、九	七五、九	七五、九	七六、一	七六、〇	七六、〇	六〇、四	六〇、三
七七、六	七七、六	七七、五	七七、四	七七、四	七七、四	七七、六	七七、五	七七、五	六一、三	六一、二
七九、二	七九、二	七九、一	七九、〇	七九、〇	七九、〇	七九、二	七九、一	七九、一	六二、二	六二、一
八〇、七	八〇、七	八〇、六	八〇、五	八〇、五	八〇、五	八〇、七	八〇、六	八〇、六	六三、一	六三、〇
八二、三	八二、三	八二、二	八二、一	八二、一	八二、一	八二、三	八二、二	八二、二	六四、〇	六三、九
八三、八	八三、八	八三、七	八三、六	八三、六	八三、六	八三、八	八三、七	八三、七	六四、九	六四、八
八五、四	八五、四	八五、三	八五、二	八五、二	八五、二	八五、四	八五、三	八五、三	六五、八	六五、七
八六、九	八六、九	八六、八	八六、七	八六、七	八六、七	八六、九	八六、八	八六、八	六六、七	六六、六
八八、五	八八、五	八八、四	八八、三	八八、三	八八、三	八八、五	八八、四	八八、四	六七、六	六七、五
九〇、〇	九〇、〇	八九、九	八九、八	八九、八	八九、八	九〇、〇	八九、九	八九、九	六八、五	六八、四
九一、六	九一、六	九一、五	九一、四	九一、四	九一、四	九一、六	九一、五	九一、五	六九、四	六九、三
九三、一	九三、一	九三、〇	九二、九	九二、九	九二、九	九三、一	九三、〇	九三、〇	七〇、三	七〇、二
九四、七	九四、七	九四、六	九四、五	九四、五	九四、五	九四、七	九四、六	九四、六	七一、二	七一、一
九六、二	九六、二	九六、一	九六、〇	九六、〇	九六、〇	九六、二	九六、一	九六、一	七二、一	七二、〇
九七、八	九七、八	九七、七	九七、六	九七、六	九七、六	九七、八	九七、七	九七、七	七三、〇	七二、九
九九、三	九九、三	九九、二	九九、一	九九、一	九九、一	九九、三	九九、二	九九、二	七三、九	七三、八
一〇〇、九	一〇〇、九	一〇〇、八	一〇〇、七	一〇〇、七	一〇〇、七	一〇〇、九	一〇〇、八	一〇〇、八	七四、八	七四、七
一〇二、四	一〇二、四	一〇二、三	一〇二、二	一〇二、二	一〇二、二	一〇二、四	一〇二、三	一〇二、三	七五、七	七五、六
一〇四、〇	一〇四、〇	一〇三、九	一〇三、八	一〇三、八	一〇三、八	一〇四、〇	一〇三、九	一〇三、九	七六、六	七六、五
一〇五、五	一〇五、五	一〇五、四	一〇五、三	一〇五、三	一〇五、三	一〇五、五	一〇五、四	一〇五、四	七七、五	七七、四
一〇七、一	一〇七、一	一〇七、〇	一〇六、九	一〇六、九	一〇六、九	一〇七、一	一〇七、〇	一〇七、〇	七八、四	七八、三
一〇八、六	一〇八、六	一〇八、五	一〇八、四	一〇八、四	一〇八、四	一〇八、六	一〇八、五	一〇八、五	七八、三	七八、二
一〇九、二	一〇九、二	一〇九、一	一〇九、〇	一〇九、〇	一〇九、〇	一〇九、二	一〇九、一	一〇九、一	七八、二	七八、一
一一〇、七	一一〇、七	一一〇、六	一一〇、五	一一〇、五	一一〇、五	一一〇、七	一一〇、六	一一〇、六	七八、一	七八、〇
一一二、三	一一二、三	一一二、二	一一二、一	一一二、一	一一二、一	一一二、三	一一二、二	一一二、二	七八、〇	七八、〇
一一三、八	一一三、八	一一三、七	一一三、六	一一三、六	一一三、六	一一三、八	一一三、七	一一三、七	七八、〇	七八、〇
一一五、四	一一五、四	一一五、三	一一五、二	一一五、二	一一五、二	一一五、四	一一五、三	一一五、三	七八、〇	七八、〇
一一六、九	一一六、九	一一六、八	一一六、七	一一六、七	一一六、七	一一六、九	一一六、八	一一六、八	七八、〇	七八、〇
一一八、五	一一八、五	一一八、四	一一八、三	一一八、三	一一八、三	一一八、五	一一八、四	一一八、四	七八、〇	七八、〇
一二〇、〇	一二〇、〇	一二〇、〇	一二〇、〇	一二〇、〇	一二〇、〇	一二〇、〇	一二〇、〇	一二〇、〇	七八、〇	七八、〇

於て大磯沼津に比するも、甚だしき差違を見ざるは、一奇といふべし、今左に此地并次に次々驛高萩と東京、横濱、大磯、沼津との温度の比較表を掲ぐべし

日中						朝					地名	
沼津	大磯	横濱	東京	助川	高萩	沼津	大磯	横濱	東京	助川		高萩
七、九	六、〇	五、七	五、三	五、七	五、二	一、一	〇、七	〇、〇	一、三	〇、四	〇、〇	一月
一〇、二	八、七	六、九	七、四	六、三	六、二	一、七	一、〇	〇、九	一、〇	〇、五	〇、六	二月
二、三	二、六	九、三	九、八	七、九	六、二	三、九	一、九	三、〇	一、六	三、一	二、一	三月
一六、六	一六、一	一四、三	一四、七	一七、七	一七、二	一〇、三	八、四	九、六	八、六	八、五	九、〇	四月
二二、五	二二、九	二〇、九	二一、一	一八、三	一九、六	一五、四	一四、五	一五、三	一四、三	一五、五	一六、〇	五月
二五、五	二四、〇	二二、〇	二二、三	二〇、五	二二、七	一七、七	一四、九	一七、一	一六、六	一七、七	一八、九	六月
二六、三	二六、七	二五、七	二五、三	二三、七	二四、五	二二、三	一九、九	二二、五	二〇、七	二二、〇	二〇、八	七月
二九、六	二九、五	二九、六	二九、七	二七、〇	二八、八	二四、三	二二、三	二四、三	二二、七	二四、三	二三、八	八月
三二、七	三二、五	三二、七	三二、七	三〇、七	三二、五	二八、四	二六、三	二八、三	二六、七	二八、三	二七、八	九月
三六、七	三六、五	三六、七	三六、七	三四、七	三六、五	三三、四	三一、六	三三、三	三一、〇	三三、三	三二、九	十月
三九、三	三九、三	三九、三	三九、三	三七、〇	三九、三	三〇、四	二八、四	三〇、三	二八、三	三〇、三	二九、九	十一月
四二、一	四二、一	四二、一	四二、一	四〇、七	四二、一	二七、〇	二五、四	二七、〇	二五、三	二七、〇	二六、八	十二月
四三、七	四三、七	四三、七	四三、七	四一、五	四三、七	二六、七	二五、一	二六、七	二五、〇	二六、七	二六、三	年

斯く助川高萩か東京等より遙に北方にあるも、温度の割合に低からざるは、蓋し海流と山岳との關係に原づくなり、二月以後の温度は何れの地方も次第に上昇し、八月其絶頂に達し、南方各地に於ては二十六度内外に昇るに拘はらず、助川は晝夜の平均温度は二十四度七分にして、各處の中に於て最も清涼なり、之に次ぎ清涼なるは高萩にして二十五度三分を示す

右の如く夏の助川高萩は、朝間は東京沼津等と温度略々相似たるも、日中に至りては東京等の如く暑氣酷烈ならずして清涼身に適し、夜に入るも猶同一の状況にして稀には三十二度以上(華氏の九十度以上)に昇ることなきにあらざるも、其時間甚た短く、忽ちまた清涼となるを以て溽暑の苦に悩むこと少し、八月以後は温度次第に下降し、九月は七月に似て、十月は五月に類し、十一月は四月に近く、十二月は三月と寒暖の度を同しうせり、即ち冬季に於ては、此地方は沼津大磯に比してこそ、稍寒けれ、東京横濱に比しては殆んど等しきを見らるべし、若し夫れ海水の温度に至りては、横濱を除くの外他に比較を取るべき好材料なく聊か不完全の感なき能はざるも、南北兩處海水温度の状態の一斑は、頼て以て推知するを得む、抑も海水は

空氣の如く温度の變化急ならず、普通の場合には晝夜の差極めて少し、而して海水の温度は空氣の温度と、大に其趣を異にし、一月より三月までは、助川高萩は横濱より遙に温暖にして、四月よりは助川高萩は横濱より俄に低温度となる、去れど其高温の極度に達せしは空氣の温度と同じく八月にして、九月に至りては横濱の海温は大に其度を低め、助川高萩地方と略々同一となり、十月猶同一の状況なるも、十一月以降は助川高萩は、横濱より遙に高温となれり、以上の状況を概言すれば、寒冷の候にありては助川高萩共に横濱よりも高温なれとも、暖暑の候に至りては助川高萩は横濱より低温度となる、即ち其最も低温なる一月は助川高萩は八度内外なれども、横濱は僅に六度を超ゆるのみにして、温度の最も高き八月は、助川高萩は共に二十度を超へざるも、横濱は廿六度の高度を占む、其詳細を示せば次表の如し

平均	海水温度													
	地名	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	年
高萩	八・二	八・三	八・八	九・八	一三・三	一六・六	一九・三	二〇・〇	二二・五	一九・四	一六・九	一三・六	一〇・五	
助川	七・八	八・三	九・〇	九・九	一三・一	一七・一	一八・八	一九・六	二四・五	一七・六	一六・九	一三・四	一〇・〇	
横濱	六・三	六・三	八・一	一三・三	一五・五	一七・〇	一八・九	二〇・六	二四・七	一六・一	一四・八	一〇・四	一五・六	

地名	晴				
	高萩	助川	東京	横濱	沼津
一月	七分	六分	五分	五分	五分
二月	六分	五分	六分	六分	六分
三月	五分	五分	五分	四分	四分
四月	五分	五分	三分	二分	二分
五月	六分	六分	四分	五分	四分
六月	五分	六分	四分	四分	三分
七月	四分	四分	二分	三分	二分
八月	七分	八分	六分	七分	四分
九月	五分	五分	四分	四分	四分
十月	六分	六分	四分	四分	四分
十一月	七分	七分	五分	四分	五分
十二月	七分	七分	七分	六分	六分

亦以て此地方が、海水浴場として東京以南に劣るなきを知るべし、更に天氣について云へば、南北各地とも特絶して多数を占むるものは晴天にして、曇天之に次ぎ、雨天は又其次にして、雪天は極めて少し、而して助川高萩は、晴天の數粗と相均しく、之を南方各地に比較すれば、季節の如何に關せず、晴天の日常に多く、曇天は甚だ少なく、雨天も亦寡少なり

今特に各地に於ける晴雨の割合を表示せば其詳細は次の如しとす

地名	雨		
	東京	横濱	沼津
一月	一分	一分	一分
二月	一分	一分	一分
三月	一分	一分	一分
四月	三分	三分	三分
五月	一分	二分	一分
六月	一分	一分	一分
七月	二分	二分	一分
八月	一分	一分	一分
九月	二分	二分	二分
十月	一分	一分	一分
十一月	二分	二分	二分
十二月	一分	一分	一分

然ればこゝに、前に擧げたる諸項を總べて一言せんに、助川高萩地方は沼津東京より遙に北方にあるも、冬季は比較的溫暖にして、南方各地との差甚だしく、只北方の溫度少しく低きのみ、暑候に於ては助川高萩共に朝間の溫度は南方各地と相似たれども、日中及夜間は南方より遙に清涼となるを以て盛夏の候と雖も炎熱に苦むの憂なし

助川高萩の海水溫度、暑時は横濱より遙に低溫を示せとも、寒時には横濱より遙に高溫を占む、冬季助川高萩の比較的溫暖なるは黒潮の影響に因り、冬季海水の溫度が横濱の海水溫度より高溫なること之れが一因たらずんばはならず、而して助川高萩の海水溫度一年中の變化は南方の如く甚だしからず

天氣は季節の如何に關せず助川高萩は東京横濱等の各地より晴天多くして曇天少く雨天亦寡少なり



斯く寒暑兩季に適し、加ふるに土地の風光尤も佳く、附近に名所舊蹟多く、旅舎は東海道筋の如く、貴族的ならずして、しかも親切丁寧なる、此地若くは高萩の如き處あるをば、都人士に向つて大なる注意をなすは、それ我社の義務ならずとせんや

◎旅館

松風館(停車場前)宿賃金一圓廿錢より八十錢

◎名所

○水車の瀧 松風館の下にあり、危橋溪流に架し、風色甚だ佳し

○八幡清水 は驛内にあり、水質清冷如何なる旱天にも乾涸せしことなし、八幡太郎東征の時箭を以て穿ち得たるを以て八幡清水と稱せり、士人之を飲料とす此地尤も遊獵に適す

◎交通

赤澤銅山へ二里

川尻停車場

(りじはか)

上野より九十六哩六十七鎖○公衆電報取扱

茨城縣多賀郡櫛形村大字友部にあり、川尻町は停車場を距ると二十二町の處にあり、此地は往昔は多珂郡伴部郷と云ひ、又藻島郷と稱し、豊良港又は豊浦とも云へり、因て豊浦町と名く戸數七百餘人口三千四百三十餘あり、東は海に瀕し西一帯の丘阜を負ふ舊川尻折笠の二村は民戸相接続し、宮城縣街道に連る避寒地納涼地海水浴に適するは助川と相隣れるによりても知るを得べし

◎名所

○蠶養神社 は停車場より二十二町の處にあり、社記を考ふるに、人皇第七代孝

靈天皇の御宇五年辛巳二月初午日、稚産靈命蠶養濱を去る一許町東沖磯の上に降臨し玉ふ、時の人社を神路社の上子山に建て日本最初養蠶の祖神と崇め奉る、上古景行天皇の御宇皇子日本武尊東征して上總より陸奥に入らせ玉ふ御時、御船を當浦

に繋ぎ蠶嶺の社に詣て克事を祈る三日三夜、既にして船を發し蝦夷の境に入る、戦はずして蝦夷咸く平く、日高見國より常陸を陸へて甲斐にいたり玉ふ時、今の社地に遷し奉る、初め稚産靈命が現れ玉ひし處は海邊にあり、今も其浪間より神慮合感の蠶石、蠶生具、五色石など出ると傳へられ、尙此等の石は邪を除き、穢を穢ひ、鼠を避くと云へ傳へらる、毎年陰曆四月十四日、霜月十七日大祭を行ふ、尙ほ外に神縁の遺跡多く、經操浦、機詰磯、延磯、鍋島、蝶島、舟橋等の舊名あれと今は確かならず

藤原實方朝臣

少女子か蠶養の濱によるたまは神の美けしよそひとそおもふ

里人かかふこの糸の一すちにいのらは神もうけひかしやは 本居 豊顯

○川尻八景 御番山月、川尻二見、等磯漁火、蠶宮避暑、見崎不動、水門歸帆、松崎仙境、蠶養干潮を稱して川尻八景と云ふ

○海水浴 川尻には海水浴場十數戸あり其内著名なるものは海雲樓、豐樂館、二本樓、本叶、高砂等にして宿賃三十五錢位停車場よりの車代十二錢

○海氣浴 蠶養神社境内にあり斷崖絶壁にして海面に斗出し、一望萬頃風光明媚なり、夏時來遊するもの極めて多し

○伴部櫛形の城跡 停車場より西に貳丁、人皇七十三代堀川院長治元年常陸國多賀郡伴部邑櫛形の城主谷田部山直氏始めて築くとなり、今は畑となり復往昔の遺跡とも見るべきものなし、眺望絶佳別墅の好適地なり

○艦の宮 櫛形城跡と線路を挟んで相對し、老松鬱然として天に聳ゆ、中に社あり祭神は素盞男命なり、一説に人皇八十代高倉院の治承元年川尻村國井の濱へ主なき船寄りしに、其船の艦の方より毎夜光り物ありて靈佛の上り給へしを今の艦の宮明神と祭りしなりと言ひ傳へり

○山尾城 停車場より八丁程、友部村の西にあり、慶安三年庚戌の年小野崎通治初めて山の尾に城を築くといへり、これにより山尾城跡を新館と呼び、櫛形城跡を舊館と呼ぶに至れり、風景極めてよく、山上數十株の櫻樹あり

○妙徳山法鷲院 停車場より六町、大師堂は日本三大師堂の一つなり、堂中藏する所の寶物多かりしも、今は只僅に空海大師の自刻の木像を存するのみなりと云

ふ、舊三月廿一日大師縁日にして開帳あり

○牛浦 楡形村大字伊師濱の南方に在る一小港灣なり、停車場を距る二十五町餘、濱街道に沿ふ、此地東海に向ひ、奇巖怪石遠く海中に突出し、翠松その上を装ひ、南方赤見臺に連なり、尤も風光に富む、牛浦は古昔伊勢の濱と稱し、又美しき碁石の多く産出する所となりて碁石濱とも云ふ、潮干狩の好適地なり

○赤見臺 牛浦の南方に在りて、東海に突出したる高阜なり、斷崖絶壁東海岸の最も高所と稱するところ、南方は川尻の蠶養の濱に連る、眸を回せば高鈴神峯の高嶺は西方に聳えて蜿蜒南北に亘り、總の犬吠の岬は遙かに水煙の間に髣髴たり、小名濱も亦香々として萬頃の外に浮ぶ、臺中一段高き所自ら二區を劃す、昔水戸義公此の地の風光を嘉賞し、年々此處に遊び、其の休憩所に充てし所なりと、赤見臺の名亦は義公の命せし所にして、今尙其の碑を存す

◎交通

立石金山へ西三十町餘、島田炭鑛西二十町餘、砂澤石油鑛へ南二十町餘

◎物産

鱈節、干鰯、鰯詰、カサギ、鮮魚、米、麥、大豆、柿、茶、紙、木炭、木材

高萩停車場

(ぎはかた)

上野より百〇三哩四十鎖〇五分間以上停車場〇乘繼驛  
〇辨當販賣

茨城縣常陸郡多賀郡松原町大字高萩にあり、多賀郡の中央に在る一市街にして、戸數七百人三万余あり、此地今を去る八百餘年前肥前若狹大夫の居城たり、松原城と云ふ、今は僅に墨濠の一部を存するのみ、鐵道開通以來戸數頓に増加し、日に月に繁昌の地となれり、海水浴避暑納涼に適するは、助川と等しく、溫度は助川より上り、濕度は助川よりも少なく、氣候溫和の一勝區なり

◎官衙

郡役所、警察署、稅務署、小林區署、裁判所出張所、郵便電信局、町役場

◎病院

多賀病院、茨城病院出張所

◎銀行及會社

常北銀行、多賀銀行、小山田製鹽所

◎名 所

○手網濱 近傍赤濱の海岸なり、(砂礫皆赤きを以て赤濱の名あり)、赤砂青松の美  
古來著名なり、茲に願成寺妙法寺等の古跡あり、萬葉集に「遠妻四高爾有世婆不知  
十方手網乃濱能尋乘名益」とあるは此處なり

○滑ヶ瀧 は西貳里許にあり直下十五丈、夏尙寒く避暑に適す、義公の杖を曳かれ  
し事あり公の歌に  
ふりあけて見ればはてしもつきざらん下たには滑か淵の瀧水

○瀧神社 は西五丁許、小丘の上に在り、東方市街を隔て、太平洋を望み、風景  
佳絶なり

○高戸の濱 は東八丁許海水浴に適す、夏時避暑に来る人頗る多し、同所に蓬萊  
石と名つくる奇石あり、下に記す旅舎は此附近にあるなり

○松岡八景 は隣村松岡村にあり、舊松岡藩の在りし地にて、近きは七八丁遠き

も一里に過ぎず、其の名左に

石崎の松雨、板木山の秋月、能仁寺の晩鐘、高戸の歸帆、關根橋の晴嵐、龍子山  
の夕照、永山の落雁、湯汐の暮雪、

○松岫園 は西北一里半日棚にあり、桃花を以て世に知らる、花時雅客の杖を曳  
くもの極めて多し

◎旅 店

蓬萊館、高萩館、松陽館、田村屋、宿賃は六十五錢より四十錢、停車場より八丁車代十二錢

◎料 理 店

三松亭、朝日館、吾妻亭、砂子亭

◎物 産

手網秋山高萩の三炭礫あり、無煙石炭を産出す、其他薪炭、木材等

磯原停車場

(らばそい)

上野より百九哩十四鎖〇公衆電報取扱

茨城縣常陸國多賀郡北中郷村大字磯原にあり、近傍に茨城炭礦ありて盛に採掘に従事す、前驛との間に八百九十一尺の隧道あり、此邊山を出て海に沿え、海を離れて山に入る風色極めてよし

◎名 所

○磯原遠見所 村内権現前にあり、脚下に一島を踏みて萬頃の蒼波に對す、水戸黃門此處に於て詩あり

逆旅登高會、開懷萬里風、大津翻浪白、薄葉歷霜紅、獨秀一枝菊、孤飛片影鴻、三杯桑落酒、興入醉鄉濃、

○天妃山 村内大北川の海に入るの處にあり、古は折藻山と稱せり、頂に小廟あり、翠松之を掩ふ、崖上に立ち海風に面せば、太平洋の狂波岩に碎けて高く飛散するの狀實に壯快なり、左右は白砂遠く連り漁舍點々青松の間に隠見す、更に崖を下り、丘後の磯邊に至れば白浪怪巖を噛み咆哮耳を聳せむとす、無數の蟹兒人の至るに驚き、走て岩窟に隠る、漁父あり網を投ず、尺余の銀鱗潑濺として網中に躍る、

又鮒を捕ふるを見るに、竿頭に蟹若くは魚の頭等結び静に窟中に挿入し易す籠中の物となす、或は「ヤス」を手にし、波間に沈み鯛比良目魚等を刺すものあり、其巧みなる何れも驚くに堪へたり、山畔に旅館あり、山海館といふ、此山線路より見る時は、さながら一小島にして、相州の江の島を小さくしたる趣ありて、風趣は寧ろ彼に勝る、多く得がたき勝地あり

○一ツ島 天妃山より十五町、海中一町許の處に巨巖高さ十丈許のものあり、翠松叢生す、又其西南に平面石あり、是亦往時は島形をなせしも、怒濤既に之を碎て今は僅に其幾分を残すのみ、海濱に茶亭あり

關 本 停 車 場

(ともきせ)

上野より百十三哩四十五鎖○途中乘繼驛

茨城縣常陸國多賀郡關本村にあり水戸方面より平潟、勿來等に臻らむとする客は此驛にて下車さるべし、次驛との間に隧道あり、長さ五百十四呎

◎名所温泉

○大津町 停車場より十三町許、車代八錢海岸の一漁市にして風光明媚、遠淺にして尤も海水浴に適す、旅舎としては八勝園あり、又同町宇五浦に鍾鼓洞と稱するあり、岩窟にして潮來り之に激する時奇響を發するを以て其名あり、又町内宇佐波山に佐波々地祇神社あり、郷社にして天日方奇日方命を祀る、境内老松蒼鬱航海の船舶常に目標となす

○平潟港 停車場より十三町許、三面は小丘之を包み前面の一方僅かに開けて外洋に對す、灣内は廣からざるも、濱街道の要市にして、且つ沿岸唯一の港灣なるを以て船舶の來集するもの非常に多し、稍稍庭的なれど、其風光此處を推して濱海道第一とす、芭蕉翁の句碑あり曰く「このあたり目に見ゆるものみな涼し」と、海水浴には靜海亭あり、旅舎は住吉屋尤もよしとす、夫より勿來の關趾を訪はむとせば、國道に依り數個の洞門を過ぎ、山明水媚の間を歩すると五六丁、鐵道線路の側に至る、茶店あり關碑の石摺及櫻石等を賣る、就て順路を問ふべし、此近傍は松川

磯と稱し、風光頗る明媚たり、洞門は昔ながらの隧道にして、平潟に近き處を常磐二國の境界とす

○湯綱温泉 停車場を去る一里、山間に在れども浴舎四戸に及び客室百有餘あり他に

○岩花冷泉 停車場を去る六丁

○關山鑛泉 停車場を去る十八丁あり、共にリーマチス、火傷等に適す

○勿來の關趾 次驛に委し

勿來停車場

(ろこな)

上野より百十六哩二十鎮途中乘継驛

福島縣磐城郡窪田村字關田に在り、勿來の關は前驛との間隧道を貫通せる小巒を左に折れし所にあり、故にその驛名とす、隧道の附近よりこの驛に至る一帶の松川磯、風光明媚東海道に於ても多く得べからざるの景色なり

◎名所舊跡

○松川磯海水浴 停車場より十町許、松林の間に、旅舎住吉屋支店、櫻雲閣、  
笹木屋等あり、かむろやは料理を専らとす、停車場より車代十錢、風光の佳なるは  
前にいへり

○勿來の關趾

停車場より十五町、前驛より下るよりは十丁餘近し、多賀郡關本  
村にあり、八幡太郎が「吹く風を勿來の關と思へども、道も狭に散る山櫻かな」と  
詠ぜし關の趾あり、山上には古松七八株あり、八幡太郎の詠歌を刻す、太古素盞鳴尊  
東征の時名古曾の關を名けたりと傳ふれど素より信ずべからず、勿來停車場よりは  
新たに道を開き、沿道に數千の櫻樹を植えたれば、路も狭の山櫻、當年の例をど  
いむるに至れり、幸田露伴氏が會遊の文を引かん

こゝ(平瀨)を立ち出で、直に名古曾の關の趾へと車を走らす。道よからねど遠か  
らねば、やがて關田といふところに着く。關の趾へはこゝより山の方へ八町ばか  
り入るとなり。車を關の碑の石摺賣る家の前に乗り捨て、細徑につき上る。  
瀨車の路を越え、山田の畔に添ひ、次第に樹の間草の間を分け上り行く。春夏な  
らば汗すべき路なれど、嶮しきにはあらず。山の頂上とも覺しき處に若からぬ松

幾株が立ち、さるつぼうといふ葉の硬くして美しき矮き樹など叢がり生へる此  
方に、關の趾の碑淋しげに見ゆ。碑は筒井伊賀の書にて古きものならず。其處よ  
り幾干も隔たらぬ松影に、小さき石祠二つあり。關東の宮とし、奥州の宮とせる  
もの、このことにや、これらも古きものにはあらず。此の處こそ關のありしとこ  
ろなれと道しるべの男は云へど、おもふに定かならぬことなるべし、東には九面  
の濱を望み、俗に稱ふる黒浦の名にも似ず磯打つ浪の雪と白きを見る。西は甚し  
く高くこそあらぬ山々連り聯りて起伏一ならず。道廢りて跡おぼろげに、眼の及  
ぶ限り人の影なく、雨持つ空の薄暗くして雲の色さへ悲しめるに薄が下の蟲の音  
幽けく、たゞ秋風の松に咽せんで尾花のゆらぎ浪立つのみ、きくたの關くきだの  
關よしなくの關といひしも皆此關の事なり。宮城の利府の近くに名古曾の關あり  
しといふ説あり。取るに足らざることいふべし。たゞ其關のありしところは今  
の碑のあるあたりなるや。前人記して曰く今通行の路は(おほよそ今の通行の路  
に同じかるべし)後人關くところにして古昔の地にあらず、里人相傳ふ往昔の道  
は關本村より里根川の北岸に分れて作といふ地を經、古關の跡あり、是より關の

松山寺の東、關田目梶原氏の古城の西を過ぎて關田村に至りしといふ、今の道は里根川の東北なりと云こと、されば今の關の趾といふは里人の相傳によりて定まりたることにや、常陸陸奥の國境にありしなるべければ、猶證もあることなるべし。

聞老誌といふものに、相傳、大古素盞雄尊東征登此山頭、經此地而號名古曾關、後人山上立宮社祭牛頭天王、以素盞雄垂跡之地、六月望日行祭禮矣、とあれど、これもいふに足らぬといふべし、我人ともに名高き吹く風をの義家の歌に山櫻かなとあるによりて、おもふとも無しに山の間にあるべきところのやう思ひなせど、小町の歌には、見るめかる海士の行くへのみなと路に名こそ關も我すへなくに、とあり。歌によりて考ふれば、關は山の上なるべくもあらぬやうなり。また西行の歌として傳ふるものに、九面や浪打寄せて道もなしこゝをなこそ關といふらん、といふがあり。この歌によりておもへば、決め定めたる歌のさまにあらぬゆゑ厳しくは云ひがたけれど、關は今道の離ること幾干もあらぬ海邊の如くおもはる。越え難きまで峻しき山の端海に突き出てたる其磯に狭き路ありて

其處に關の据へられたるべしなど日比豫め想ひ居たりしものから、我が想ひの餘りに違ひしに、少し魂抜けし心地して、道もせにちんちり松葉散り候がなん猶名こそあれ關の跡、とつぶやく。今の道の出來し初めは舊記に存して知れたることなれば、確に古の道にあらず、たゞいぶかしきは古の人の磯を行かずして好んで峻しき路を行き、隨つて關をも山の上に設けしことなり。山を下りて車を待たせし家に立寄り、碑摺りたるを買ひ、櫻の化石を見る。古き櫻の今は石になりたるを關の趾より掘り出すといひて、人に物ずきの心を動かさしめ、購ひ求めしめんとす。まことに櫻の化石とは見ゆ。されどいつくより掘り出すにや。ここを立出て、海邊を行くに、九面の濱の景色いとよし

○花園日枝神社

は華川村大字花園にあり、昔大同年間坂上山村麻呂の草創にして、大物主命、大山昨命、大山祇命を祀る、山高うして溪深く、老杉鬱々真に幽靜の境なり、社前の溪流に朱塗の橋を架し神橋と號す、其餘廟社拜殿分靈等孰れも構造美なり

◎交通



窪田へ二十丁、關田へ二十丁

植田停車場

(たゑり)

上野より百十九哩十六鎧

福島縣磐城國石城郡鮫川村大字植田にあり、次驛との間に太平洋山隧道千八百七十五呎あり

◎物産

石炭、木炭、木材

泉停車場

(みづい)

上野より百二十三哩五十六鎧

福島縣磐城國石城郡泉村にあり、當驛は小名濱港へ到るの順路とす、次驛との間に由方山隧道八百五呎あり

○小名濱港 當驛の南方殆と一里に在る一港灣にして、戸數凡そ九百、海水浴に

適す、次驛湯本より輕便鐵道あり

○劔磯 海水浴場の設あり、停車場より二十町危岨怒濤の間に突出し、風色佳絶の處なり

湯本停車場

(ともゆ)

上野より百廿七哩五十三鎧〇途中乗継驛

福島縣磐城國石城郡湯本村により、當驛は石炭輸出の多きこと、磐城線中綴驛に亞ぎ就中小野田炭の輸出最も多し、白水、入山、小名濱までの順路なり、炭礦會社の此地に事務所を置くもの多し、次驛との間に傾城山隧道二千十三呎あり

◎温泉名所

○湯本温泉 停車場より七町、人家二百余戸を有する一市街なり、礦泉は田園或は人家各處に涌出し、質は鹽類泉に屬し鹹味あり、効能は疥癬、疝氣、痔疾、婦人諸病、佝僂質斯、痛風等に宜しといふ、此地昨年迄は旅舎と貸座敷とを兼ねたる者多

かりしが、今は全く分離したり、浴舎數十戸就中大瀧、新瀧、葛屋、山形屋、松柏館、常陸館、久保木屋、井筒屋などいづれも構造も清らかに、調理もあしからず、殊に松柏館は此海道第一の料理屋と目され、葛屋の浴室の如き、東京近附の温泉なるものに之に勝れるはあらじ、曾て貸座敷を兼ねしが如き浮薄の風は絶てなく、炭礦の人々入込めども、存外に奢侈ならず、遊山がてらの入浴この地の如き、何故に今日まで都人士の間に非常に喧傳されざるかを怪む

○観音山公園 町の西南隅に屹立す、櫻樹満山、眼界亦闊し、天王崎は一本松の有る處、今は過半輕便鐵道敷地と化す、但諸に曰く送りましょかよ天王崎へ、其て足らずは船尾まで

○三箱嶽 町の西方一里餘の處にあり、湯嶽と稱し、磐城三名山のひとす、岳上に箱形石三個あり、湯本の湯はこゝより湧出するより三箱の湯といふ、岩代の飯坂にも鱒湖の湯あり、かの飯坂にて傳ふる如く日本武尊が浴し給ひしが眞ならば、尊はむしろ此方に浴されしには非るか、尊はこのわたりを過りし給ひしは定なればなり古歌に

よひ人知らず

あかすして別れし人の住里は三箱の御湯の山のあなたか

大納言師氏卿

世と共に歎しき身は陸奥の三箱の御湯と言せてしかな

藤原光友卿

壽て世々に經りぬる甲斐し有るは嬉し三箱の御幸なり是

○傾城山 停車場の北方濱街道に沿ふ處、八町許に在る一山峰を云ふ、全山松樹を生し山膚崑骨を顯はす奇景の地なり、有志者其頂上に稻倉魂命を祭り傾城稻荷神社と稱す、由來湯本は美人多しと稱す、此山あるも一奇なり

○青葉虚空王藏 停車場の北方十八町許、白水への通路岩井戸と稱する山腹に在り、湯本勝行院別當にして、佛像は行基菩薩の作と云ふ、今之を失す、此地に生ずる煙草は天然生にして寒中と雖も青葉を生じ、或は花を開き、四時あらざる事なし是れ青葉の稱ある所以あり

○野田玉川 停車場より二十町許、玉川村大字野田の南を流る、川を云ふ、今は

水も流れず、徒らにその址をば留むるのみ、岸に片葉の蘆を生ず、野田の玉川は岩切の附近にもあり陸奥の國にもあり、いづれか正しきを知らず

○緒絶の橋 玉川に架したるもの、今は柱礎のみ残り、今は野田より志摩への通路に架する橋へ、其名を轉じたり、この橋の名も仙臺以北に二三ヶ所あり、いづれか正しかるべき

綴 停 車 場

(らいつ)

上野より百二十九哩七十六鎖○公衆電報

◎交 通

湯長谷へ二十七町、小名濱へ二里(輕便鐵道あり)、小野田へ卅四町、上遠野村へ三里、藤原へ廿町、入山へ二里十八町、白水へ一里九町

◎鑛 泉

○高野鑛泉 入の湯、出の湯、佐坐の湯を總稱して高野鑛泉と稱す、停車場より一里許山間の幽地にあり、泉質は亞兒加里性炭酸泉にして内服用共に効あり

◎交 通

入山炭坑へ一里、泉炭礦へ半里、岡田、山口、兩炭礦へ十五町、以上何れも鐵道を布き當驛より日々十數回往復し出入貨車の數日々百車以上の石炭を送出す、宮炭坑へ一里

平 停 車 場

(らひた)

上野より百卅二哩五十三鎖○五分以上停車場○途中乗繼驛○辨當販賣夫あり

福島縣磐城國石城郡平町にあり、當驛は古へ磐城平と唱へ、徳川幕府の始め鳥居忠文封を此地に受け、後ち安藤信成の采地となり其城趾今尙存す、停車場前丘陵の上にあるもの即ち是也、地は夏井川の南岸に位して、陸前濱街道の要衝に當り、戸數凡そ二千、人口七千餘を有し、此線路中最も繁華なる一都會なり、次驛との間に堂山林隧道七

百五十五呎あり

◎官 衙

郡役所、警察署、地方裁判所、區裁判所、監獄支署、稅務署、小林區署、郵便電信局、町役場

◎學 校

鐵道中學校

◎銀行、會社

磐城銀行、平銀行、平勸農會社、開港會社、精米所、硝子製造所、耐火煉瓦製造所

◎神 社、佛 閣

○飯野神社 停車場より五町、舊城飯野平にあり、源義朝の勸請にかゝり、社殿の彫刻鳳凰等は飛彈甚五郎の作と傳ふ

○子嶽倉神社 舊城稻荷台にあり、延喜式内の舊社にして、今は縣社に列し、大同元年正月の創建なり、地は一堆の丘陵を爲し、平町を脚下に瞰ろし、赤井嶽は目睫の間に在りて風景最も佳なり

○赤井藥師

停車場を距ること三里許、赤井嶽の中腹に在り大同二年の開基とす夏秋の候夜る山上より望めば、遙かに洋中より無數の光夏井河を遡り山上に向ふて來集す、此地方にては之を龍燈と稱し頗る有名なり、毎年舊正月晦日及舊七月廿九日祭禮あり、七月の祭禮には龍燈を拜せむとして、相馬及栃木地方より來り詣で夜を山上に徹する者萬を以て算ふ

◎旅 店

住吉屋、都田屋、大村、中屋、柳屋、平陽館、西山

◎料 理 店

住吉屋、山縣屋、谷口、金木、玉川樓

◎交 通

飯野村へ廿七町、神谷村へ一里九町、好間村へ廿七町、鹽屋崎燈明臺へ三里、好間炭礦へ一里十二町

◎市 場

毎年生絲の時季に際して生絲市を開く、青物市場毎日開市

◎劇

場

聚樂館、磐城亭（寄席）

◎物

産

好間炭、薪炭、赤井粘土

草野停車場

（のさく）

上野より百三十五哩七十八釐

福島縣磐城國石城郡草野村にあり

◎名所、神社

○磐城富士

此名あり

當驛より西北一里廿八丁草野村にあり、富士山に酷似したるを以て

○豊間燈臺

砂青松にして渺々たる海面を望み風景甚だ佳なり

當驛より東南二里、石城郡豊間村の海岸一小丘にあり、眼下一帶白

○愛宕神社

當驛より南方八丁、草野村字下神谷にあり、祭日舊九月廿四日

○澤村神社

延岡の人澤村勘平勝爲を祭る所、明治初年の創立に係る、祭日舊八月十五日

當驛より南方九丁草野村字下神谷にあり、地方開拓に盡瘁せし日向

四ツ倉停車場

（らくつよ）

上野より百三十八哩五十六釐

福島縣磐城國四ツ倉町にあり、濱街道の通路に當り、戸數七百人口二千餘を有し、磐城沿岸有數の漁場なり、停車場より町の南端に至る間僅かに五町、次驛との間に鞍越山隧道千七百八十七呎あり

◎名所、古跡

○祐天上人誕生地

あり、有名なる祐天上人は、此家にて誕生せられたりと傳ふ、同所を距る八丁許の處に最勝院と稱する古刹あり、上人自筆の名號、及九條の袈裟、雨乞天神像運慶作

停車場を距る南へ八丁許、大浦村字仁井田に新妻小左衛門

不動明王、土佐元信の花鳥等の什寶あり、同院は本年一月中火災に罹り焼失せるも幸にして什寶を取出す事を得たり、同院境内に上人の墓あり、是は目黒祐天寺の分骨を埋めしものなりと云ふ

○波立薬師堂 停車場廿二丁、久の濱に至る海岸田の網にあり、醫王山波立寺と號し臨濟宗に屬し西京妙心寺の末派たり、大同年間徳一大師海中より長八寸の珊瑚光如來を得收めて當寺を創建し、後文明年間磐城常隆大に堂宇を修繕し、今日尙嚴然として其舊形を存す、境内は頗る風景に富み、海中に巨巖の屹立せるなど、目も醒る心地す、毎年舊曆六月十四、十五の兩日に大法會を執行す、其式頗る盛大にして遠近より參詣するもの多し、又例の露伴氏が旅の記を引く、文の妙このわたりを見るが如くに寫したればなり

久の濱より波立の寺に詣でんと半里ばかり磯づたひに後戻りす。道の邊に多き小草に、丈矮くして美しき色に小さき花さけるあり。ところの名はと問へば、べにぐさといふ。名も優に、花も花の数にも入らぬがあはれなれば、例のあやしき歌など案ず。道の左に波立薬師と刻りたる大きな石の立てるところより磯の方に

下りて、細き流れの細き橋を渡り、樹の間を潜りて堂にいたる。堂は葦葺なれど醜からぬ建てざまにて、古びたり、飛驒の内匠が造るところなどいへるは如何にや。西行の歌として傳へらるゝものに云へるなみたちの寺とは是なり。されどなみたちとは今は呼ばで、はたち、はつたち、はたちなど聞ゆるやうに呼ぶ。波立をはたちと讀みたるは、はたちに波立と字を當てたる後、なみたちと讀めるか、新堀を日暮里と字を當てたる後、日ぐらしの里と稱ふるに至れる例もあれば、かゝる事は定めては言ひ難し、野崎左文子の地誌にはつたちと傍訓あるは流石によくたゞされたるものなり。堂より下りて波打ち際に出づれば、涯無き海より來る濤、遠く起り近く寄せて、飛沫は風に卷かるゝ雨よりも烈し、左は遙にとりがみの岬に至るまで、右は寺の背の山の嘴の水に入るところに見上ぐるばかり峙立ちたる大岩まで、みな古歌にいへる木奴美が浦の中なるべし。駒なづむと此濱を詠じけんもいつはりならず。今にてすら淋しく路あしきところなるを、むかしは如何なりけん。彼の大岩のあたりは濤殊に雷霆なして轟きわたり、そゞろに人の心を寒からしむ

○木奴美ヶ浦 このわたりの海濱殿神崎より、北方二里餘の間を總稱して木奴美ヶ浦といふ、大小の巖水際に亂峙して、或は虎狼の怒るか如きものあり、或は牛馬の飲ふが如きものあり、頗る奇觀を極む、昔し西行法師が「東路のこぬみか濱にひと夜寝てあすやをがまん波立の寺」と咏せしは則ち此處なるべし

○海水浴 別にその設備あるにはあらざれど、此附近海中に巖礁なく、遠淺なるを以て婦人小兒にも尙安全なり、盛夏の候海水浴に来る人四五百人に及ぶ、旅舎は豊國屋あり、宿賃五十錢より三十錢

○玉山温泉 は停車場より一里廿六丁あり、人力車を通ず、土地高燥にして空氣新鮮に、三面深林を以て掩はれ、半里を隔つる白岩は松茸狩の名地なり、泉質は胃病、子宮病、脚氣、佝僂質斯等に特効あり、宿屋は石屋、藤屋、入野屋、玉屋等四戸あり、一日の宿料五十錢乃至四十錢

◎物産

鮮魚、鹽節

久の濱停車場

ひさ (はま)

上野より百四十一哩五十七鎖〇公衆電報

福島縣磐城國双葉郡久ノ濱町にあり、當驛附近は線路海濱に近く、列車は濤聲の上を奔り、白帆殆ど手に觸れむとす、其風光の佳絶なる須摩舞子に遊ぶが如き感あらしむ、夏季は海水浴に来集するの客非常に多し、次驛との間五百呎以上の隧道のみにて六箇に及び尤も長きは末綾隧道千百五十五尺、其他原見澤、大澤、深谷澤、夕筋、台山等あり

◎名所

○生姜岩 停車場より壹里、大野村宇白岩に在り、巖石山上に横りて、其形状恰も生姜に似たるを以て此稱あり、満山奇石より成る、眞に鬼工と云ふべし

○殿上山ノ館 停車場より五丁館野五郎の築きし所に於て、文明年間磐城常陸之を攻めて陥る、今猶城壘の形を存するも、大半海中に没落して其一部のみ海中に突

出せり、兩端は數百尺の斷壁にして太平洋の怒濤脚下に碎く、蓋壯觀なり  
○波立薬師、木奴美の浦 共に前驛に委し、薬師へは停車場より十五丁  
○南澤の松茸狩 停車場より十八丁、大久村字小久に在り松茸山多し、路平坦にして何人も至り易し

◎旅 店  
龜田屋、龜屋、高木屋

廣野停車場

(のろひ)

上野より百四十六哩五十九鎖

福島縣磐城國双葉郡須野村大字下淺見川に在り

◎名所、神佛、温泉

○日の出の松 停車場を去る東三丁の海濱にあり、傍に磐城判官の息智勝丸の乳母の笹の墓なるものあり

○折木鑛泉 停車場より一里。廣野村大字折木の山間に在り、泉質は炭酸冷泉にして無色透明、僅かに硫化水素の臭を帯び、篋を利用して之を旅舎の湯壺に導き、火力を以て沐浴に供へ、夏季は浴客來り集ひ繁華を極む、又冬季は兔、水鳥など多く猪鹿も獵し得べし

○檜葉八幡 停車場より北へ十六丁廣野村大字上北迫に在り、此神社の神寶として義家の軍刀、兜頭巾、鐵等を藏するは、曾て祈願を籠めたる時に納めたるものなりと、又國道より境内迄は櫻樹花の隧道を作り、海道第一の花見の場所と稱さる、花季遊人の來り集ふもの甚だ多し

○成徳寺 停車場より十八丁、廣野村大字折木に在り、淨土宗の巨刹にして知機山と稱し、元徳元年の創建にして末寺四十餘を有すといふ、境内の眺望快潤を極め炎暑の候と雖も苦熱を感ずることなし

○林藏寺 檜葉八幡の南三丁餘の處に在り、文明年間良調和尚の開基にして、村内高倉山の城主猪狩筑後守隆清の創立するもの、猪狩家代々奉侍せし貳拾五菩薩の像一龕、並に同家傳來の大湯釜を什寶となす、共に古色燦然として數百年前の物な



りとす、寺内に隆清の碑あり、停車場より十三丁

○太田農神社 停車場の西北三十丁に在り、豊受姫神天熊之大人を祭る處の舊社にして、古來唯一の農神となし、毎年舊曆正月十一日及舊曆六月十一日遠近より來り詣づる人多し

○檜葉嶽 停車場より西へ三里、檜葉嶽(五社山)あり、山上五神を祭るを以て五社山ともいふ、永承五年源義家陣營を布さし地にて、山腹には一戰場、御造酒庭、旗巻場、八幡森等の舊趾今尙存す、此附近の線路より西に方つて、數十哩の間越望する處の雄峯は實に此山なり

◎旅 店

木木屋

◎交 通

此附近炭脈に富み、淺見川、廣野、双廣、双葉等の炭坑あり、遠きは一里近きは半里、しかも目下いづれも休止中なるは遺憾なり

◎物 産

石炭、木炭、木材

木戸停車場

(ど き)

上野より百五十哩二十六鎖

福島縣磐城國双葉郡木戸村大字山田岡にあり、當驛は一村落に過ぎず、次驛間に全線最長の金山隧道五千四百三十尺あり、

◎會 社

木戸炭礦會社、木戸炭礦合資會社

◎旅 店

橋屋、永井屋、小松屋

◎物 産

石炭、薪炭、木材、生糸(例年六月より九月迄一、六の日市場を開く)

◎名 所、神 佛

○天神山

停車場を距ること二十五丁許の處に在り、近く海濱に接し眺望頗る佳なり

○大瀧神社

當驛より二里二十八丁、木戸川の上流にして、大字上瑞より人家を離れ、里餘柴坂を越ゆれば、蘆毛淵、曲り瀧、熊瀧、笹瀧(何れも高五丈餘)などいふ瀧を見つゝ、晝尙暗き樵徑を攀ぢ行けば大瀧あり奇巖中央に峭立し、三丈餘の銀河二流、逆まに懸れり、其崖端蘇苔滑かなる處に大瀧神社あり、伊邪那美命等を祭る、大同二年四月八日の勸請にして、往古翁媪夫婦紀伊國より神軀を背負來り祭りしと云ひ、其夫婦の塚今尙存ず、下流に布瀧あり、布を晒すに似たり、春は櫻秋は楓夏も亦よし

○八幡神社

當驛より十丁、大字上瑞にあり、品陀和氣命を祭る、文治二年九月十五日檜葉太郎隆祐の勸請する、所明治六年三月今の社號に改稱せり

○館ノ山

當驛より八丁、大字山田岡にあり、昔檜葉太郎清隆の據りし城趾にして、西北方田甫を隔てたる高丘にあり、清隆寺は菩提寺なりと云ふ館の山の丘陵は遠く渺茫たる太平洋を眺め、先年亦た皇太子殿下御慶事の紀念として、多く梅櫻を植へ

たれば風光一段の美を添へたり

○岩澤正觀世音

館の山の南方、岩澤川に望める斷崖絶壁の中央二丈餘の處に刻しあれり、弘法大師の一夜の作と云、附近舊國道の傍に子助ヶ岩あり、乳の出でざる母此岩を少し削りて服すれば乳出づ、依て名ありと、茲は戊辰の役北軍が數度の敗戦に、會稽の恥を雪がんと固守せし奥州二の木戸と稱し、岩澤川に沿ひ、絶壁百丈の要害なり、今尙老松には彈痕あり

富岡停車場

(かをみど)

上野より百五十六哩三十五鎖〇五分間以上停車場

福島縣磐城國雙葉郡富岡町大字佛濱にあり、當驛は戸數三百許を有する一市邑にして熊野町へ到るの順路なり、近邊の風景いはん方なく、木戸川の海に注ぐ様畫も如かず

○官 衙

郡役所、警察署、登記所、稅務署、土木監督署、小林區署

磐城支金庫

◎銀行

◎交通

佛濱へ一町(海水浴場に適せり)、小良ヶ濱漁場へ一里、熊野町へ一里十八町、大字大原開墾地へ一里、上手岡村へ二里、上手岡鐵山へ二里八町、浪倉漁場へ一里、赤木石炭山へ一里二町、岩井戸觀音へ一里一町

◎鑛泉及溫泉

岩井戸鑛泉へ一里二丁、野上溫泉へ四里

◎旅店

龜屋、中屋、大原屋

◎物産

木材、薪炭

長塚停車場

(かつがな)

上野より百六十六哩二十八鎧

福島縣磐城國双葉郡双葉町大字長塚にあり、双葉町は長塚、新山を併せしもの、戸數九百、人口五千八百餘郡中第一の市邑なり、請戸港を前に控へ、三春、郡山よりの縣道之に通じ、運輸の便多く、平以北唯一の木材市場なり

◎官衙、工場

小林區署、小野製板工場

◎旅店料理屋

福田屋、新細屋、宮城屋、三春屋

◎名物

請戸のあんこ汁、焼かまぼこ

◎物産

木材、木炭、鱈節、鮮魚、米、生糸

◎交通

神鳴山二里、野山村二里、大堀村二里、鴻の草八丁、中濱二十丁、請戸港へ二十五丁  
○清戸港 往時は相馬の名港として、米穀材木等の輸入盛なりしも、鐵道開通後の繁華は、次第に長塚に移らんとす、しかも尙漁業地としては縣下有數の處なり、戸數三百五十、人口二千五百、風光松川浦に亞ぐ、小島の磯、金華山公園、三枚岩などいづれも、此地の勝地にして、小島の磯以内は沙遠く波靜かに、飲料水も清例にして海水浴場としては海岸線屈指の地なり、人力車賃停車場より廿錢、旅店は有明樓、朝日屋、硝子屋、常盤屋、大森屋、三浦屋等にて、一宿三十五錢以下とす

◎名所温泉神佛

○諏訪の鑛泉 停車場より十五丁、請戸の途中一丘の上に諏訪の森あり、諏訪熊野兩神祠あり、眺望絶佳、昔時泉田文吾の居城なり、兩竹村に屬す、兩竹に古來傳ふる處の七不思議なるものあり婆が杉、墨染櫻、館の池、等現存す、泉質は白色を帯び無臭なり、半身不隨、痲痛、皮膚病、婦人生殖器病等に効驗あり  
▲婆が杉 は周圍二丈五尺餘千古の老樹鬱然として朝日觀音の上に表立し、遊人樹根に踏して東海を下瞰すべし、土人傳へ云ふ

朝日さす、夕日かゞやく其下にうるし千杯小金萬杯

▲墨染櫻 は泉田文吾の手植への櫻にして、花瓣は八重にして中に墨點あり、老木腐朽し、今は幼莖數幹に分る

▲兩竹 は一株の半ばにして兩幹に分る、往昔此竹を産せしを以て木の花村を改めて今の名に更ゆと云ふ、竹猶諏訪の祠に藏す

○白山公園 は停車場より一丁、壁立數十尺、往時念佛森と稱す、今は公園を設け花木を植え、東海の眺望極めて好し、天王山と對立す、八勝あり請戸の歸帆、前田の落雁、正面寺の晚鐘、郡山の晴瀾、兩竹の夜雨、權現山の秋月、夷比壽川の櫻、神鳴山の墓雪

○天王山公園 は停車場より八丁、新山にあり、戊辰の役濱街道の軍茲に戦ひ、官賊死するもの百四十人餘、山上より手岡葵、莖等の戦跡指願すべし、西に阿武隈の連山を負ひ、東に太平洋を控へ、白帆中濱の松影に出没し風景畫の如し、花時觀櫻の客遠近より來る、双葉招魂碑を建立せり

○野上温泉 停車場より三里相馬昌胤開く所、頗る幽雅の境なり

○蘆野神社 是請戸港に在り、請戸明神とも稱す、祭神は新羅より流着せし女神の出現なりと云ふ、建立は千有餘歳、人皇四十四代養元年中元正帝の時にして、延喜式に標葉の神社とは是なり、海船守護の神にして土人の尊崇厚し、行成卿の額あり境内は老松鬱然、夏時暑さを覺へず頗る静境なり、縁起に由れば、昔時新沙渡媛なるもの、女神を收め祭る所と云ふ、昔は今の暗礁は小島の磯と稱し孤島なりしが、年を経て陥没せしより宮を今の處に移す、毎年九月廿九日祭禮を行ふ市人群集す、標葉左京大夫の祖平隆義標葉郡を領し守護の神となし、所領を寄附す、後相馬昌胤國歌を献ず、殿中に藏す

降りくらす日數もつもる雨雲の空におさまる秋風も哉

宮柱立てとも今は安からず吾貧きを神も哀しめ

○相生の松 停車場より七丁の西羽鳥にあり、一根双幹古色蒼然たり

○妙見神社 停車場より一丁、神苑静境なり

○長徳寺 日本五大阿彌陀堂奥州一の眞言寺として、往時は著名なりしが今は廢頽せり、三門を許され天朝御朱印百石を領せし當時の大門今は痕跡なけれども、大

門の名は土地の字となりて残り、長塚町を出て數丁寺内村に本堂あり、坂上將軍東夷征討の際、田村郡大瀧根岳の賊鳥森立惠朝子を夷滅せし爲め、建立せしもの、請戸縣道は其中門を貫けども、旅客往々其古刹たるを知らずして過ぐるもの多し

○中禪寺 停車場より三十丁寺澤村にあり、大同二年建立有名なる古刹なり、全しく田村將軍の建立

○自性院 停車場附近新山町にあり、祐天上人、空海、無能上人等の筆蹟を藏す

浪江停車場

(なみえ)

上野より百六十九哩三十二鎖

福島縣岩磐國双葉郡浪江村大字權現堂にあり、當驛は戸數五百許を有する一市邑なり、次驛との間に泉澤隧道五百七十二呎あり

官 衙

警察分署、小林區署、登記所、町役場

◎名 所、寺 院

○神鳴山 停車場より三里、躑躅つづじと楓かへてとに名あり、眺望てうぼう尤もよし

○室原の瀧 停車場より一里餘、高さ三丈、満山楓と躑躅とに埋められ、水もまた紅なり

○大堀焼 停車場より一里半大堀村にあり、元祿中當邑の人休閑通稱を榛谷はしか仁左衛門といふもの、僕左馬といふもの、中村田町陶匠たうじやう田代清治右衛門に從て燒器の法を習ひ、歸りて主の休閑に傳へて陶工となす、然れども其の法を秘し榛谷家獨り造ること久し、故に休閑を以て當邑陶工の祖となす、今は三十餘ヶ所の製陶所あり

○常福寺 停車場より三丁許、戊辰の役戦死の人々を合祀かうしす、官賊の遺品見るべきものあり

○葵の莖きの清水 停車場より十丁、四時清水しみづのうしひつ涌出す、僧西行の歌あり、口碑に傳ふ、「みちのくの高瀬の清水來て見れば葵の莖きの北にこそあれ」

○大聖寺 又戊辰の役相馬藩士官軍の先鋒せんぽうを此地に拒よせぎたる古戰場こせんばなり、停車場

小 高 停 車 場

(かたを)

上野より百七十四哩七十四釐

より十丁高阜かうふにあり、元祿年間相馬霜臺公そうたいこう此地に隱退かんとくし、優遊自適世を終る、其後一寺を建築す大聖寺是れなり、今猶古木僻蒼ひくさう依然舊跡を存す、境内けいだいに櫻樹を植ゑ遊觀の地となす

福島縣磐城國相馬郡小高町大字南小高にあり、當驛は戸數凡そ六百を有し、稍々繁華はんくわなる一市邑なり、次驛との間に岩迫隧道六百廿二呎あり

◎旅 店

小松屋支店、小松屋本店

◎物 産

陶器、羽二重

◎名 所、神 佛

○大悲山薬師如来

停車場より南十五丁、泉澤村にあり『萬朝報』の小林天龍氏

が文を引出すべし

千餘年前の古佛像

浪江驛の北三里を小高驛といふ小高驛の南半里に一寒村あり、戸數二十内外なるべし泉澤村といふ國道より岐れて西に行く凡そ一町一大丘の田塍間に横はるを見る其昔大悲山慈徳寺といふ伽藍の在りし地なり丘は極めて脆き岩より成り老樹陰森として之を蔽ふ苔蒸したる石階を上りて中腹に抵れば人工もて開鑿せる一大石室あり間口凡そ六間高さ三間餘其中に七大佛像の蓮華の上に坐せるを見る、就て之を諦視すれば正に薬師七佛を彫刻せるものなり中央に在る者高さ凡一丈五尺其面部は半ば剝落して鼻か口か判別し難きも左右に並列せる坐像に對照すれば其精巧極めて驚くべきものありて何れの世何人が作りたるものなるやを詳にせず然れども其古色より推す時は千有餘年前の物たるは疑を容るべからずして而も當時施したる極彩色の金碧は毫も其色を變ぜず所々に光耀し奈良朝時代に於る美術と其趣きを同うせるものあり殊に驚くべきは彫刻者が之を永代に保存せんとしたるの

苦心にして石の性質極めて脆きを知るものから到底永久に堪ふ可らざるを慮り彫刻全く成りたるの後に於て其外部に塗るにセメント様のものを以てし人の手に觸るゝことあるも容易に剝落せざるやうに爲せり其北三四十間の處にも同様の石室ありて高さ一丈二尺許りの彌陀佛は左右の脇立と共に立ち石室より石室に至る間には無数の小佛像を彫刻したるの跡判然として存在せり而して更に之よりも驚く可きは其西一町許の處に在る奥の院の大石像にして是亦前二個の石室同様山の小腹に在る岩を毀ち刻するに高さ三丈五尺ある觀音の立像を以てしたるものなり惜むらくは庇に當る處何れの世にか崩落したるを以て立像の大半は風雨の爲に破損すること甚しく今は全軀の三分位を存するに過ぎず然れども其天井とも見るべき所は何等の害をも受けざりしを以て當時の彫刻は金碧の色と共に存在し一見して益す巧妙精緻に驚かしむ

往時僧侶の佛教を弘めんとするや靈地を擇びて偶像を安置し蒙昧の民をして歸依する所を知らしむるの方便を爲せり而して磐城國に最も多きは徳一大師の創建に係る寺院なり彼は奈良朝時代に接して生れ親しく大佛の建立を見大に心中に期す

る所あり化外の地を求めて佛教を布かんとし遠く勿來の關を越て磐城海岸の地を相し泉澤を以て最も屈強の場所と爲したるもの、如し同地方に存在する舊記によれば泉澤には一大池あり池中に一島ありたるは明かにして其池は今の田、島は佛像の彫刻されある丘なると一目瞭然なるものあり山を負ひ水に臨む天然の形勝は靈場と爲すに妙なれば徳一は錫を此地に留め佛教と共に前回記する所の佛像の彫刻に着手し加ふに當時最も發達せる意匠を以てしたれば其の成るに及んでや精采煥發大に東夷等の目を眩し徳一を以て世に得難き大智識と爲したるは疑ひを容れず今尚泉澤薬師の分躰として有名なる波立薬師の如き又龍燈を以て名高き常福寺の如き共に大同の二年と六年(大同に六年なし四年の誤に非ずや)とに於て徳一の爲に創建されたるより推せば徳一が泉澤の地を卜したる後に於て漸次其教の普及せるを知るに至るべし是により土地の古老等は泉澤の薬師乃ち大悲山慈徳寺を以て徳一が大同六年に創する所と爲せど慈徳寺は三回の切火を経て縁起全く焼失したれば其の詳細を窺ふに由なし而して泉澤の薬師が相馬地方に於ける佛教の始まりなりし事は歴々證すべきものあり維新前までは中村藩主相馬家より領内第一の

古靈地として年々二百兩の保存金を出し同地方の人亦古代より傳はれる磐城踊り一にジャンカラ念佛と呼ぶ舞踏を其縁日に演じ來りしが維新後保存金の廢止と共にジャンカラ念佛も之を演ずる者なく三十年の長日月古像は榛荆の中に黙坐して狐狸猓の其四邊に戯るのみ可惜靈場も空しく澆滅に歸せんとせしを古老の深く慨嘆するものありて之を地方有志の士に謀り本年以後孟蘭盆日を以て新に縁日と定め特に像前に於てジャンカラ念佛を演ずる事になせりと云ふ美術家史家の來つて精密に調査する所あらん乎其裨益する所蓋し少なからざる可し七像の前に一大杉樹あり周圍三丈二尺餘老幹高く天を刺す

○妙見神社

停車場より五町、相馬家の祖先充胤公が、建武中始めて城を築きたるの地、紅梅山浮船城趾にあり、こゝは相馬家累世の居城たりしも慶長十六年に至りて之を廢す、其後正中年中重胤公中郷太田邑より小高邑に移り、即ち祠を建て、北辰尊星王を祭る所の舊社なり、慶長十六年利胤公居城を中村に轉じて、神躰を中村城に遷す、後安永三年新像を當祠に安んじて祭祀す、傍らに神水池あり、白紙を神水に浸し其の紙を淨水に入れて之を呑めば、人馬の暴病を治すといひ傳ふ



○小高山同慶寺 明應五年遠山和尚開始の寺にして、能州諸嶽山總寺禪寺の末寺、三郡曹洞宗の本寺、相馬家累世の菩提所なり、外天公以來君侯の墓碑並立てり境内頗る絶勝なり

○益田峯神社 停車場より八丁、字丈井にあり、もと甲子祖大宮祠と稱せしを、文政以來官帳により益田嶺神社と稱す、延喜式内行方八社の一なり、四月八日祭禮を行ふ、此の時神輿塚原の海濱に下り、還幸の時祈願する者、三日潔齋にして馬に跨り、足谷山頂より駈下す、此の山頗る峻嶺にして馬上の及ぶ所にあらず、故に割竹を鳴らして以て逐ひ下す、人馬分れ深谷に轉び、或は馬の尾に縋りて下るもあり、然れども人馬共に傷くことなし荒馬嚙馬と雖も尋常の馬となると云ひ傳ふ、之を足谷下しの神事と云ふ、近來地方養蠶をなす者當祠を信奉し來り、拜して守札を受くるもの多し

○海老澤稻荷神社 停車場より一里許、海老澤にあり、祭神倉稻魂命なり鎮座の來歴を詳にせず、社地老松古杉鬱蒼として頗る森嚴を極む、漁夫の信仰篤く、陸前房州等よりも參詣多し

○海老澤浦 益多嶺の東一里許、海水の灣入せる處即ち此浦にして、一に耳井浦と移す、風景の明媚なる遙に平澤の上に在りといふ人あり、稻荷の祠はその一角に在り

磐城太田停車場

(はきい) (たをわ)

上野より百七十八哩二里

福島縣磐城國相馬郡太田村大字高にあり

◎古跡神社

○小鶴池 和名抄、名所集、和爾雅等に載する所の名蹟にして、停車場より十町許、相馬郡太田村大字鶴谷字六斗蒔にあり、池は方五間許の小池にして、池畔に小鶴神祠あり、社記を見るに、人皇四代懿德帝の元年、此地大谷澤と稱す一部落の形をなせり、人皇四代孝元帝の二年村中に行徳なるものあり、齡既に七十、深く神明を尊信す、近傍に一池あり、古松一樹鬱蒼として水面に翳す、一日白鶴一番來りて

之に巢ふ、行徳見て大に喜び、毎朝樹下に來り獨り自ら樂む、隅々近隣に惡徒眞門なるものあり、行徳の不在を窺ひ松樹に攀ぢ巢中を探りて二卵を得歸りて鼎中に煮る、行徳歸來り例に依り松下に到れば、双鶴飛來りて悲鳴頻に訴ふる處あるか如し行徳大に之を訝り登りて巢中を見れば卵なし、怪みて眞門に問ふも偽りて答へず、然れとも其夜五老星眞門の家に下るを見驚き怖れて實を告ぐ、行徳大に之を悲み、再ひ其煮たる處の卵を巢中に置かしむ、かくてある事數日、十六夜の深更に至り俄然雛鶴の啼聲を聞く、怪み往て巢中を見れば、卵既に孵化せり、行徳其奇異に感じ空卵の上を見るに異木あり、取て之を驗すれば、異香薰芬即ち携へ歸りて神前に置く、時に瀧川なるもの來りて之を見て曰く、是れ反魂木なり、鶴之を知り何國よりか取り來りて死子を活す、眞に靈鳥と謂ふ可しと、邑民之を聞き其尋常の鶴に非らざるを稱し、樹下に小祠を建て小鶴大明神と號す、依て池も亦小鶴池と稱せり云々朱雀帝の承平年間延臣宗近清涼殿に於て其名跡を賞し咏歌あり、「千代を經む小鶴の池し替らねは親の齡を思ひ社やれ」千年とは雛にて而已や過しけん小鶴の池と云ひて久しき、近傍に碑あり、文は佐藤精明の撰ふ處にして地の山來を記せり

○日祭神社

停車場より十町大襷村字大瓮にあり、日本武尊戰勝を祝し、大襷に酒を盛り、天照大日御を祭りし處といふ、地名はこれよりぞ起りける、其後坂上の田村麿戰勝を當社に祈りし故事見ゆ

○粟嶋神社

創建の年曆詳かならざるも、近き古にはあらず、祭日は舊七月十八日、十九日兩日とす

○太田神社

停車場より十五丁、太田村中太田にあり、昔元亨三年四月相馬重胤公、妙見鹽釜鷲宮三神を一の鳳籠に入れ、總州より下り此地に至りて太田氏の家に晝食し、中太田村に至りて先づ神輿を別所の向川邊に休め、其の後妙見を別所域に鎮座し、鹽釜を井内邑に、鷲の宮を女場村に遷座す、當社は即ち別所の妙見社にして今縣社たり、祭日は舊正月一日、二日を元朝參りと唱ひ、又陰曆七月一日、二日、三日は例の野馬祭を行ふ、野馬追の事は原の町の條下に記さんが、當日の盛況は實に意外にして臨時汽車を出して、尙ほ足らざるを憂ふる程なり、今毎月の參詣者を算するに、一月千人、二月六千人、三月二千人、四月二千五百人、五月二千五百人、六月千人、七月(祭の時)三萬人、八月二千人、九月二千五百人、十月千五百人、十

一月千人、十二月千人に上る、毎歳五月中の申の日を祭日となしたれど今は七月初めの三日に改めたり

原の町停車場

はらのまち

上野より百八十哩六十三鎖五分以上停車場○途中乗  
總驛○兼當販賣驛

福島縣磐城國相馬郡原町大字南新田に在り、此地は陸前濱街道に沿ひたる驛次にして原の町と稱し、別に弓形の宿とも唱ひ、戸數七百五十、人口五千餘あり、大原街道を以て西の方岩代國伊達郡川俣町に通ず、町の南端に廣漠たる原野ありて、地勢雄濶地味膏腴にして水質清冽、相馬郡中要衝第一に居るを以て交通頻繁にして貨物輻輳し、戸口年々に蕃殖して市街殷賑なり、毎月一六の日には羽二重市、五の日は蘭庭市あり、七月より十二月の間一六の日に生糸市あり、亦隔年に馬市を開く、而して毎年七月一日二日に互りて此の地に舉行せらるゝ祭典は、世に有名なる野馬追祭にして臨時汽車を出す、次驛との間に川子隧道五百二十八尺なり

○官衙、病院

郵便電信局、小林區署、登記所、警察分署、町役場、原町病院

○銀行會社

原町銀行、原町倉庫會社、其他銀行出張店保險會社代理店等あり

○運送店

共同運送店、内國通運會社取引店

○旅店

丸屋支店(停車場前三層樓)、小仲屋、中野屋(共に本町にあり)、中野屋支店其他數軒(何れも停車場前にあり)

○物産

羽二重、米穀、蘭庭、木材、薪炭、生糸、繭、馬、紙、魚類、醬油、酒類等(醬酒松の友は松本孫右衛門、太陽は板倉久六の醸造にして其他玉の井正宗の等の銘酒あり)

○交通

岩代國伊達郡川俣町へ九里、相馬郡石神村大原へ一里半、小高町へ三里半、鹿島町へ二里半、烏濱へ一里半、本町澁佐濱へ一里、相馬郡中村町へ五里、平町へ二十一里、仙臺へ二十一里、福島へ十六里

◎名所、神佛

○雲雀野 町の南端曠漠たる原野は即ち是れなり、舊藩政の頃は相馬氏の牧場に於て、南北一里東西三里に亘り、平坦砥の如く一樹の目を遮るものなく、只野馬數千の群を爲すのみなりしが明治五年官命により之を捕拿し盡くして、沿道の地は市街を成し、漸次開拓せられたりと雖も、其大部分は尙ほ舊時の觀を存し、桔梗薔薇女郎花等の類叢生して、秋の虫の聲いと憐れなり、地方の名區たるを失はず、停車場また茲にあり、年々其開場の紀念祭を行ふ

○夜の森公園 町を隔つること二町計りにある一小丘なり、山上には翠松茂り、山麓には老櫻十數株あり、細流其下を遶りて潺湲の聲を聞くべし、頂上は廣くして平かに、山と海とを望みて眺め大によし

○小松嶋 は公園の西にあり、清泉湧出して、小島嶼の間に環流し、幾十の島嶼に稚松を生じて、さながら松島に髣髴たるを以て小松島の稱あり

○本陣山 停車場より三町、雲雀野の南東に峙つ丘陵北端の一角なり、藩政時代

野馬追祭に藩主陣營を設けたるの處故に此名あり、遠景近勝を一眸に集めて眺望の勝れたる地なり、山陰に池あり幽静閑雅以て繪を垂るべし

○館山城趾 町より西數町を距て、田野の間に峙立す、慶長年間相馬長門守義胤公の居城趾にして、結構今に歴々として存す、山嶺に手長神社を祀る、此地も亦眺望に富み就中早苗時を好とす、此地の南釋迦堂と稱する所、山の中腹に上代穴居の遺跡あり、櫻樹あり周圍數尋、蓋し數百年を経たるもの

○澁佐海水浴 停車場を去ること東一里、道路平坦人力車を通ず、清風館と稱する温泉室あり、眺望絶佳なるのみならず、船を浮べて繪を新田川に垂るゝことを得

○新田川鮭漁 澁佐海水浴場の北新田川の海に注ぐ所より、遡りて十數丁の間は鮭魚の漁區あり、毎年十月産獲尤も多し、而して此漁區は育種場たるの故を以て隔日或は二週二回位にして網を下す、一罟にして數十百の多さを獲、漁季の盛なるに至れば觀者兩岸に滿つ、魚種の良好なる東北第一に位すと云ふ

○泉長者屋敷跡 停車場より一里餘、高平村大字泉にあり、何つの世の人なるか詳ならず、口碑傳ふる處は源平時代の頃にして、武藏坊辨慶の爲めに亡されたり